

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年5月31日
【事業年度】	第31期（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）
【会社名】	株式会社ベクトル
【英訳名】	VECTOR INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 西江 肇司
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂四丁目15番1号
【電話番号】	03 - 5572 - 6080（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 後藤 洋介
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂四丁目15番1号
【電話番号】	03 - 5572 - 6080（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 後藤 洋介
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第27期	第28期	第29期	第30期	第31期
決算年月	2019年2月	2020年2月	2021年2月	2022年2月	2023年2月
売上高 (百万円)	30,741	39,626	39,164	48,122	55,225
経常利益 (百万円)	2,749	3,322	2,769	5,208	6,623
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 () (百万円)	2,421	199	486	2,071	3,172
包括利益 (百万円)	2,438	251	4,850	1,584	3,568
純資産額 (百万円)	10,288	10,166	14,854	16,178	15,759
総資産額 (百万円)	24,778	23,606	30,057	31,575	36,343
1株当たり純資産額 (円)	168.42	160.45	248.38	259.38	271.38
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 () (円)	52.29	4.20	10.21	43.46	66.54
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.6	32.4	39.4	39.2	35.6
自己資本利益率 (%)	-	-	5.0	17.1	25.1
株価収益率 (倍)	-	-	112.0	25.4	20.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	409	5,208	3,768	4,977	1,457
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,716	79	994	1,308	1,288
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,857	3,273	209	1,060	358
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	6,038	7,884	10,852	13,522	13,372
従業員数 (人)	1,037	1,144	1,288	1,303	1,427
(外、平均臨時雇用者数)	(142)	(229)	(304)	(309)	(405)

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第27期及び第28期は潜在株式が存在するものの1株当たり当期純損失であるため、第29期及び第30期は潜在株式が存在するものの希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第31期は潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 第27期及び第28期の自己資本利益率及び株価収益率については、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため記載しておりません。
3. 第27期及び第28期については、過年度決算訂正を反映した数値を記載しております。
4. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第31期の期首から適用しており、第31期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
5. 第31期より、投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法に係る会計方針の変更を行っており、第30期以前については遡及適用後の数値を記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第27期	第28期	第29期	第30期	第31期
決算年月	2019年2月	2020年2月	2021年2月	2022年2月	2023年2月
売上高 (百万円)	5,153	7,666	6,328	5,927	7,588
経常利益 (百万円)	1,064	775	2,313	1,024	2,048
当期純利益又は当期純損失 (百万円)	3,814	1,683	543	1,798	1,451
資本金 (百万円)	2,580	2,880	2,880	2,880	2,880
発行済株式総数 (株)	46,807,500	47,936,100	47,936,100	47,936,100	47,936,100
純資産額 (百万円)	4,304	2,722	3,270	4,982	5,840
総資産額 (百万円)	12,557	9,131	9,178	9,265	13,518
1株当たり純資産額 (円)	88.22	53.09	67.08	104.50	122.51
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	2 (-)	13 (-)	19 (-)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 (円)	82.38	35.50	11.41	37.72	30.45
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	32.3	27.7	34.8	53.8	43.2
自己資本利益率 (%)	-	-	19.0	44.0	26.8
株価収益率 (倍)	-	-	100.3	29.3	45.7
配当性向 (%)	-	-	17.5	34.5	62.4
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	265 (24)	279 (5)	89 (31)	74 (22)	89 (32)
株主総利回り (%) (比較指標：配当込みTOPIX)	61.7 (92.9)	39.9 (89.5)	50.4 (113.2)	49.3 (117.0)	62.6 (127.0)
最高株価 (円)	2,750	1,860	1,390	1,395	1,409
最低株価 (円)	1,140	785	517	881	942

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第27期及び第28期は潜在株式が存在するものの1株当たり当期純損失であるため、第29期及び第30期は潜在株式が存在するものの希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第31期は潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 第27期及び第28期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。
3. 最高株価及び最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所(プライム市場)におけるものであります。
4. 第27期及び第28期については、過年度決算訂正を反映した数値を記載しております。
5. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第31期の期首から適用しており、第31期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
6. 第31期より、投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法に係る会計方針の変更を行っており、第30期以前については遡及適用後の数値を記載しております。

2【沿革】

当社は1993年3月にセールスプロモーション事業を目的に設立されましたが、2000年4月にPR事業を中心とした事業体制に移行し、さらに近年では従来のPRサービスの分野にとどまらず、顧客のコミュニケーション戦略を総合的にサポートするためのサービスの拡充と体制の強化を継続的に推し進めながら当社グループの成長を図っております。

設立以降の当社グループに係る経緯は以下のとおりであります。

年 月	概 要
1993年3月	セールスプロモーション事業を目的として、(株)デビアス(当社)を設立
1993年6月	(株)ベクトルに商号変更
2000年4月	PR事業を中心とした事業体制へ移行
2004年5月	(株)ベクトルコミュニケーション(現 (株)プラチナム)、(株)ベクトルスタンダード(現 (株)アンティル)を設立
2005年12月	(株)WOMCOM(現 (株)シグナル)、(株)キジネタコム(現 (株)PR TIMES)を設立
2011年1月	維酷公共関係諮問(上海)有限公司を中国上海市に設立
2011年3月	(株)VECKSを設立
2012年3月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
2012年6月	Vector Group International Limitedを中国香港特別行政区に設立
2012年8月	(株)イニシャル、(株)ソーシャルスカウト(現 (株)Starbank)を設立
2013年9月	(株)IRアドバイザー(現 (株)IR Robotics)を子会社化
2014年3月	Vector Group Ltd.をタイ王国バンコク市に設立
2014年4月	(株)ビタブリッドジャパンを設立
2014年5月	VECTOR GROUP COMPANY LIMITEDをベトナム社会主義共和国ホーチミン市に設立
2014年6月	Vector Group International Limitedが台湾支社を設置
2014年10月	(株)ニューステクノロジーを設立
2014年11月	株式の上場市場を東京証券取引所マザーズから市場第一部へ変更
2015年6月	(株)ビデオワイヤー(現 (株)NewsTV)を設立
2016年3月	(株)ビッグデータ・テクノロジーズ(現 (株)100キャピタル)を設立
2017年2月	PacRim Marketing Group, Inc.およびPRTech, LLC、(株)PacRim Marketing Groupを子会社化
2017年7月	(株)OPENERS(現 (株)スマートメディア)を子会社化
2017年12月	(株)ブランドコントロール(現 (株)ブランドクラウド)を子会社化
2018年2月	MicroAd Malaysia SDN. BHD.(現 Vector Marketing PR Malaysia SDN. BHD.)を子会社化
2018年4月	(株)100キャピタルが100キャピタル1号投資事業有限責任組合を組成
2018年7月	(株)あしたのチームを子会社化
2018年11月	(株)Direct Techを設立
2019年4月	(株)プレミアムコスメ(現連結子会社)を設立
2020年1月	塔酷(上海)營銷策劃有限公司を中国上海市に設立
2020年3月	(株)イベックを設立
2020年9月	パブリックアフェアーズジャパン(株)を設立 メディカルテクノロジーズ(株)を設立
2020年12月	(株)Liver Bank(現 (株)INFLUENCER BANK)を設立 Vectorcom Inc.を子会社化
2021年3月	(株)THE BRIDGEを設立 Performance Technologies(株)を設立 (株)ロングプレスオンラインスタジオ(現連結子会社)を設立
2022年3月	危機管理広報代行サービス事業の強化を目的として(株)KRIKを設立
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からプライム市場に移行
2022年7月	クラウド型サロンシステム事業の強化を目的として(株)ジオベック(現 (株)クラウドビューティ)を子会社化
2022年11月	自由視点映像の生成・配信プラットフォーム事業の強化を目的としてMasterVisions(株)を子会社化 フランチャイズマッチングプラットフォーム事業の強化を目的として(株)アミーを子会社化
2022年12月	運用型広告運用サービス事業の強化を目的として(株)キーワードマーケティングを子会社化

3【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社43社並びに関連会社2社の合計46社で構成されており、顧客である企業等によるメディアを活用した生活者とのコミュニケーション戦略を総合的に支援するPR・広告事業、プレスリリース配信事業、ビデオリリース配信事業及びメディアCMS事業、並びに物品のオンライン販売を中核とするダイレクトマーケティング事業、人事評価クラウドサービスを提供するHR事業及びベンチャー企業等への出資活動を行う投資事業を主力事業としております。

当社グループの事業運営は、顧客に対するサービス提供の実務を子会社各社が担い、グループ全体の経営企画、人事、総務、法務、財務、経理に至る各種管理機能を当社が一括管理する組織体制を基礎に実施しております。

会社名	分類	事業	主な役割
(株)ベクトル	当社		グループ全体の経営企画、財務、会計、人事、総務及び内部統制・監査
(株)アンティル	連結子会社	PR・広告事業	広報・PR業務代行及びコンサルティング
(株)ブラチナム			広報・PR業務代行及びコンサルティング
(株)イニシャル			広報・PR業務代行及びコンサルティング
(株)シグナル			Web PR、ソーシャルメディアマーケティングサービス
(株)VECKS			TV番組、TVCM、各種プロモーションビデオ、WEB動画等の企画及び制作サービス
(株)Starbank			キャスティング事業
(株)IR Robotics			IR(投資家向け広報)、広報PR業務
(株)PacRim Marketing Group			広報・PR業務代行及びコンサルティング
(株)ニューステクノロジー			タクシーサイネージメディアの運営
(株)ブランドクラウド			インターネット上のブランドリスクマネジメント事業
(株)イベック			PRイベント等のプロモーション関連業務の企画及び運営
パブリックアフェアーズジャパン(株)			広報・PR業務代行及びコンサルティング
メディカルテクノロジーズ(株)			メディカルマーケティング事業
Performance Technologies(株)			パフォーマンスマーケティング事業
(株)KRRIK			危機管理広報業務代行及びコンサルティング
(株)クラウドビューティ			クラウド型サロンシステムの提供
(株)ロングプレスオンラインスタジオ			メディアの運営及び配信事業
MasterVisions(株)			360度カメラを使用した自由視点映像の生成・配信プラットフォーム事業
(株)アミー			フランチャイズマッチングプラットフォーム事業
(株)キーワードマーケティング			運用型広告の運用代行
Vector Group International Limited			香港での広報・マーケティング支援サービス及び当社グループの海外事業の総括
維酷公共関係諮問(上海)有限公司			中華人民共和国での広報・PR業務代行及びコンサルティング
Vector Group Ltd.			タイ王国での広報・PR業務代行及びコンサルティング
VECTOR GROUP COMPANY LIMITED			ベトナム共和国での広報・PR業務代行及びコンサルティング
PacRim Marketing Group, Inc.			ハワイでの広報・PR業務代行及びコンサルティング
PRTech, LLC			Webサイト、情報ネットワークシステムの企画、開発及びコンサルティング
Vectorcom Inc.	韓国での広報・PR業務代行及びコンサルティング		
Vector Marketing PR Malaysia SDN.BHD	マレーシアでの広報・PR業務代行及びコンサルティング		

会社名	分類	事業	主な役割
(株)PR TIMES	連結子会社	プレスリリース配信事業	プレスリリース配信サービス「PR TIMES」の運営
(株)THE BRIDGE			Webメディアの運営
(株)NewsTV		ビデオリリース配信事業	動画制作及び配信サービス
(株)ビタブリッドジャパン		ダイレクトマーケティング事業	健康美容関連商品におけるダイレクトマーケティング事業
(株)Direct Tech			自社及び他社商品のダイレクト販売に特化したデジタル広告代理業及びPR業務
(株)プレミアムコスメ			健康美容関連商品におけるダイレクトマーケティング事業
(株)INFLUENCER BANK			インフルエンサーマッチングプラットフォームの運営
塔酷(上海)营销策划有限公司			中華人民共和国での自社及び他社商品のダイレクト販売に特化したデジタル広告代理業及びPR事業
(株)スマートメディア		メディアCMS事業	オウンドメディアの運用支援
(株)あしたのチーム		HR事業	人事評価制度に関するコンサルティングサービス及びクラウドシステムの販売
明日之團股份有限公司			台湾での人事評価制度に関するコンサルティングサービス及びクラウドシステムの販売
Tomorrow's Team Singapore Pte.Ltd.			シンガポール共和国での人事評価制度に関するコンサルティングサービス及びクラウドシステムの販売
明日之團(上海)人力资源管理有限公司			中華人民共和国での人事評価制度に関するコンサルティングサービス及びクラウドシステムの販売
(株)100キャピタル		投資事業	投資事業
100キャピタル第1号投資事業有限責任組合	投資事業		
MicroAd Taiwan, Ltd.	関連会社	PR・広告事業	台湾での広報・PR業務代行及びコンサルティング
ビルボックス・アドテック(株)		ダイレクトマーケティング事業	健康美容関連商品におけるダイレクトマーケティング事業

PR・広告事業

PR・広告事業は、従来からの広報業務に加え、広告・宣伝分野でPRを活用する「戦略PR」を通じ、クライアントの商品及びサービス等のPR支援を行うコンサルティング及びタクシーの車内に設置するタブレットを活用したIoTサイネージサービスによる広告販売を展開しております。これらの業務の大半は、グループ会社を通じてクライアントに対して提供されており、それぞれのグループ会社では、既存メディア、ブログやソーシャルメディアなど得意なメディア領域や、日本国内、中国やASEAN等展開エリアをすみ分けて事業展開をしております。

プレスリリース配信事業

プレスリリース配信事業は、クライアントからのパブリシティの依頼に基づき、顧客商品・サービスに関する情報をプレスリリースとして配信し、企業と生活者をプレスリリースでつなぐプラットフォーム事業を展開しております。

ビデオリリース配信事業

ビデオリリース配信事業は、クライアントの「企業」「商品」「サービス」に関するニュースを動画コンテンツ化し、インターネットを通じてターゲットに訴求する動画配信事業を展開しております。

ダイレクトマーケティング事業

ダイレクトマーケティング事業は、インターネットを通じて、健康美容関連商品及びサービスを開発し販売するD2C事業を展開しております。

メディアCMS事業

メディアCMS事業は、クライアントのオウンドメディア構築・運営支援サービス及び広告収入を得ることを目的とした自社メディア運営事業を展開しております。

HR事業

HR事業は、企業に対し人事評価制度の導入や運用を支援するコンサルティング及び人事評価クラウドサービスを中心に提供する人事関連事業を展開しております。

投資事業

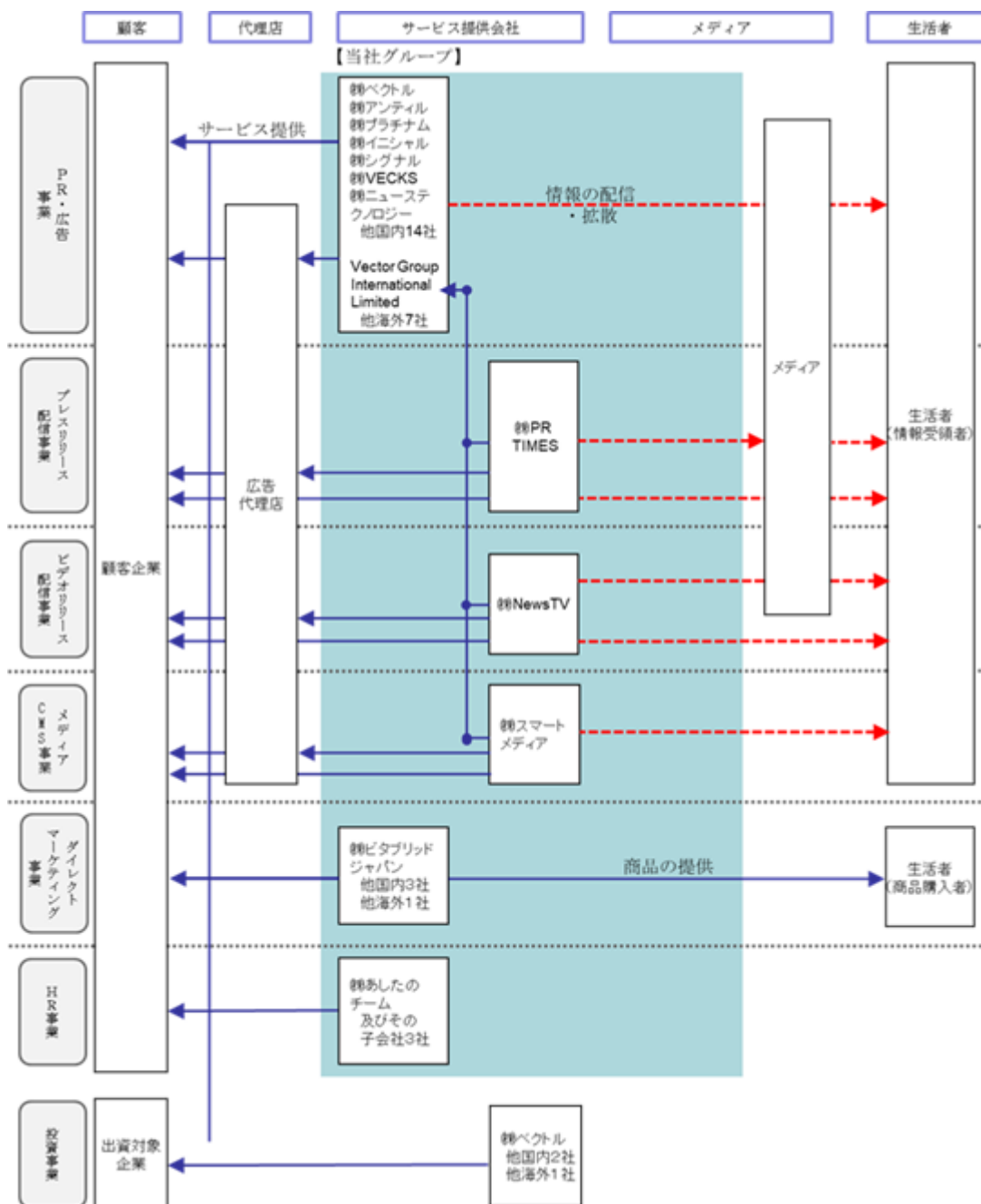
投資事業は、ベンチャー企業の成長支援を目的とした投資事業を展開しております。

当連結会計年度より、従来「ファンド事業」としていた報告セグメントの名称を「投資事業」に変更しました。これは、これまで本業外の事業（営業外）として運営してきた投資・インベストメントベンチャー事業について、当社グループの重要な事業分野と位置付けたことによるもので、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。当連結会計年度より、同事業に係る収益及び費用等の処理方法に係る会計方針の変更を行っております。

また、当連結会計年度より、事業内容をより適正に表示するため、従来「メディア事業」としていた報告セグメントの名称を「メディアCMS事業」に変更しております。報告セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

なお、当連結会計年度より連結の範囲に含めております株式会社KRIK、株式会社クラウドビューティ、株式会社ロングプレスオンラインスタジオ、MasterVisions株式会社、株式会社アミー及び株式会社キーワードマーケティングは「PR・広告事業」、株式会社プレミアムコスメは「ダイレクトマーケティング事業」としております。

当社グループの事業系統図は次のとおりとなります。



(注)

・記載されている社名及び社数は当社及び連結子会社を対象としております。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権 の所有 割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
(株)アンティル	東京都港区	10	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 子会社受注 P R 業務の受託 当社のサービスを提供 事務所の転貸 資金の貸付
(株)プラチナム (注) 6	東京都港区	10	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 子会社受注 P R 業務の受託 当社のサービスを提供 事務所の転貸 役員の兼任あり
(株)イニシャル	東京都港区	10	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 子会社受注 P R 業務の受託 当社のサービスを提供 事務所の転貸 役員の兼任あり
(株)シグナル	東京都港区	30	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 子会社受注 P R 業務の受託
(株)VECKS	東京都港区	20	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託
(株)Starbank	東京都港区	45	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 子会社受注 P R 業務の受託 事務所の転貸 資金の貸付
(株)IR Robotics	東京都千代田区	34	P R ・ 広告事業	82.5	当社受注 IR 業務の委託 管理業務の受託 役員の兼任あり
(株)PacRim Marketing Group	東京都港区	0	P R ・ 広告事業	100.0	-
(株)ニューステクノロジー	東京都港区	20	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 子会社受注 P R 業務の受託 事務所の転貸 役員の兼任あり
(株)ブランドクラウド	東京都港区	1	P R ・ 広告事業	70.0	当社受注 P R 業務の委託 役員の兼任あり
(株)イベック	東京都港区	5	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 当社のサービスを提供 事務所の転貸
パブリックアフェアーズジャパン (株)	東京都港区	5	P R ・ 広告事業	100.0	管理業務の受託 事務所の転貸 資金の貸付
メディカルテクノロジーズ(株)	東京都港区	100	P R ・ 広告事業	60.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 事務所の転貸 資金の貸付 役員の兼任あり
Performance Technologies(株)	東京都港区	35	P R ・ 広告事業	52.0	管理業務の受託 当社のサービスを提供 事務所の転貸 資金の貸付 役員の兼任あり

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権 の所有 割合 (%)	関係内容
㈱KRIK (注) 2	東京都港区	5	P R ・ 広告事業	85.0 (85.0)	-
㈱クラウドビューティ	大阪市中央区	60	P R ・ 広告事業	55.0	当社のサービスを提供 資金の貸付 役員の兼任あり
㈱ロングプレスオンラインスタジ オ (注) 2	東京都港区	15	PR ・ 広告事業	60.0 (13.3)	当社のサービスを提供 役員の兼任あり
MasterVisions㈱	東京都品川区	10	PR ・ 広告事業	59.5	当社のサービスを提供 資金の貸付 役員の兼任あり
㈱アミー	東京都港区	35	PR ・ 広告事業	87.2	役員の兼任あり
㈱キーワードマーケティング	東京都中央区	11	PR ・ 広告事業	100.0	管理業務の委託 債務の保証
Vector Group International Limited (注) 1	中国 香港特別行政区	13百万 香港ドル	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 子会社受注 P R 業務の受託 資金の貸付 役員の兼任あり
維酷公共関係諮問 (上海) 有限公司 (注) 2	中国上海市	1百万 米ドル	P R ・ 広告事業	100.0 (100.0)	当社受注 P R 業務の委託 子会社受注 P R 業務の受託 債務の保証
Vector Group Ltd. (注) 3、5	タイ バンコク市	8百万 タイバーツ	P R ・ 広告事業	49.0 [51.0]	当社受注 P R 業務の委託 子会社受注 P R 業務の受託 資金の貸付
VECTOR GROUP COMPANY LIMITED	ベトナム ホーチミン市	2,131百万 ベトナム ドン	P R ・ 広告事業	98.9	当社受注 P R 業務の委託 資金の貸付 役員の兼任あり
PacRim Marketing Group, Inc.	アメリカ ハワイ州	0百万 米ドル	P R ・ 広告事業	100.0	資金の貸付
PRTech, LLC	アメリカ ハワイ州	1百万 米ドル	P R ・ 広告事業	100.0	-
Vectorcom Inc.	韓国 ソウル特別市	823百万 韓国ウォン	P R ・ 広告事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 資金の貸付 役員の兼任あり
Vector Marketing PR Malaysia SND. BHD (注) 3、5	マレーシア クアラルンプール	1百万 リンギット	P R ・ 広告事業	49.0 [51.0]	当社受注 P R 業務の委託
㈱PR TIMES (注) 1、4、8	東京都港区	420	プレスリリース配信 事業	55.7	当社受注プレスリリース配信業務 の委託
㈱THE BRIDGE (注) 2	東京都港区	15	プレスリリース配信 事業	52.9 (52.9)	-
㈱NewsTV	東京都港区	25	ビデオリリース配信 事業	92.0	当社受注動画配信業務の委託
㈱ビタブリッドジャパン (注) 7	東京都港区	105	ダイレクトマーケ ティング事業	95.4	管理業務の受託 役員の兼任あり
㈱Direct Tech	東京都港区	100	ダイレクトマーケ ティング事業	88.0	管理業務の受託 事務所の転貸 資金の貸付 役員の兼任あり 債務の保証
㈱プレミアムコスメ (注) 2	東京都港区	10	ダイレクトマーケ ティング事業	87.8 (87.8)	管理業務の受託 事務所の転貸
㈱INFLUENCER BANK	東京都港区	22	ダイレクトマーケ ティング事業	100.0	当社受注 P R 業務の委託 管理業務の受託 事務所の転貸 資金の貸付 役員の兼任あり
塔酷(上海) 營銷策劃有限公司 (注) 2、5	中国上海市	60	ダイレクトマーケ ティング事業	44.9 (44.9)	当社受注 P R 業務の委託

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権 の所有 割合 (%)	関係内容
(株)スマートメディア	東京都港区	5	メディアCMS事業	100.0	当社受注オウンドメディア構築業務の委託 管理業務の受託 子会社受注オウンドメディア構築業務の受託 事務所の転貸 資金の貸付 役員の兼任あり
(株)あしたのチーム (注) 9	東京都中央区	50	HR事業	65.3	事務所の転貸 役員の兼任あり 債務の保証
明日之團股份有限公司 (注) 2	台湾	10百万 台湾ドル	HR事業	65.3 (65.3)	-
明日之團(上海)人力資源管理有限公司 (注) 2	中国上海市	4百万 人民元	HR事業	65.3 (65.3)	-
Tomorrow's Team Singapore Pte.Ltd (注) 2	シンガポール	0百万 シンガポ ールドル	HR事業	65.3 (65.3)	-
(株)100キャピタル	東京都港区	35	投資事業	71.4	役員の兼任あり
100キャピタル第1号投資事業 有限責任組合 (注) 2、5	東京都港区	42	投資事業	18.1 (2.8)	-
(持分法適用関連会社) MicroAd Taiwan, Ltd.	台湾	6百万 台湾ドル	P R ・ 広告事業	30.0	-
ビルボックス・アドテック(株) (注) 2	東京都港区	15	ダイレクトマーケ ティング事業	29.3 (29.3)	-

(注) 1. 特定子会社であります。

2. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

3. 議決権の所有割合の[]内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で外数となっております。

4. 有価証券報告書を提出しております。

5. 持分は100分の50以下であるが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。

6. (株)プラチナムについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	5,750百万円
	(2) 経常利益	786百万円
	(3) 当期純利益	537百万円
	(4) 純資産額	1,056百万円
	(5) 総資産額	1,935百万円

7. (株)ピタブリッドジャパンについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	12,529百万円
	(2) 経常利益	945百万円
	(3) 当期純利益	659百万円
	(4) 純資産額	807百万円
	(5) 総資産額	3,585百万円

8. (株)PR TIMESについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、当該連結子会社は、有価証券報告書の提出会社であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

9. 債務超過会社で債務超過額は、2023年2月末時点で1,938百万円です。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2023年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
PR・広告事業	965 (264)
プレスリリース配信事業	120 (108)
ビデオリリース配信事業	74 (3)
ダイレクトマーケティング事業	94 (11)
メディアCMS事業	35 (6)
HR事業	137 (13)
投資事業	2 (0)
合計	1,427 (405)

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数（パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含みます。）は、年間平均雇用人数を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2023年2月28日現在

従業員数（人）	平均年齢（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
89 (32)	31.7	2.6	6,577

(注) 1. 従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数（パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含みます。）は、年間平均雇用人数を（ ）外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社グループでは労働組合は結成されておりませんが、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社グループは、「いいモノを世の中に広め、人々を幸せに」を経営理念としてかけ、顧客である企業等のメディアを活用した生活者とのコミュニケーション戦略をサポートする事業を展開しています。従来より当社グループが手掛けるPRサービスの分野にとどまらず、技術の進化とともに刻々と変化するメディア環境にもいち早く対応しながら、顧客のコミュニケーション戦略において必要となる実効性の高いサービスを総合的に提供することで、顧客にとっての最適なコミュニケーション環境の構築をサポートすることを目指しております。

(2) 経営戦略等

当社グループは、顧客である企業等によるメディアを介したコミュニケーション戦略を幅広くサポートするためのサービスの拡充や体制の強化を継続的に推し進めることで成長を実現させてまいりました。

従来のPRサービス分野にとどまらず、目まぐるしく変化を続けるメディア環境や技術の進化にも対応しながら実効性の高いサービスを積極的に取り込み、顧客の「いいモノを世の中に広める」ためのコミュニケーション戦略において必要となる幅広いサービスをタイムリーかつ高いコスト効率によりワンストップで提供する「FAST COMPANY」としてのサービスの拡充と体制の強化に取り組んでおります。

特に最近では急速に技術進歩をしながら成長を続けるデジタルマーケティング領域のサービス強化を目的として、M&Aを含むグループ基盤の強化に取り組んでおります。

今後も市場の動向や技術の進歩も踏まえながら将来にわたってより安定的かつ効率的な収益を確保できるサービスの拡充に取り組み、顧客のコミュニケーション戦略を総合的にサポートできる事業強化を継続的に進めることで、業界における競合優位性を強化し企業価値の向上に取り組んでまいります。

(3) 経営環境

当社グループがターゲットとしている広告市場は、2022年（1～12月）の日本の総広告費は7兆1,021億円（前年比4.4%増）とウクライナ情勢や物価高騰など様々な影響を受けつつも、過去最高を更新しました。その中でも、インターネット広告費は3兆912億円（同14.3%増）と社会のデジタル化を背景に継続して成長を続け、2兆円を超えた2019年からわずか3年で約1兆円増加し、広告市場全体をけん引しました。（出所：株式会社電通）。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループは、将来にわたってグループの成長を継続させ企業価値の向上を実現するために、以下の課題に積極的に対処してまいります。

顧客のトータルコミュニケーションをサポートする事業体制の強化

当社グループは、顧客のコミュニケーション戦略を総合的にサポートするための体制を整え、従来のPRサービスの枠組にとらわれない広範な事業に取り組み成長を実現してまいりましたが、将来にわたって当社グループの成長を継続させるためには、従来にも増して目まぐるしく進化を続けるメディア環境やインターネット等の技術の進化にもいち早く対応できるための事業基盤の強化を継続的に進めるとともに、事業の拡大に応じたグループ運営体制の強化を着実に実行していくことが必須であると考えております。

継続的に時機を逃さずに顧客が求めるサービスの拡充を進めるとともに、それらの新しい事業分野を当社グループのサービスラインとして効率的に取り込み、顧客に対して最適なパッケージサービスとして提供するための、グループとしての運営体制の強化に取り組んでまいります。

コーポレート・ガバナンスの強化

当社グループは、会社の持続的な発展のために、経営の透明性、効率性及び健全性を確保するとともに経営責任の明確化を進めているところです。当社グループは国内のみならず海外においてもグループ会社が増加し、新しいサービス分野も含めその事業領域を急速に広げながら成長を継続しております。特に最近においては、新しいサービス分野を中心にM&Aや事業譲受なども行いながら積極的に事業体制の強化を進めており、それらの新しい事業リソースを当社グループの経営管理体制に効率的に統合するとともに、その運営においても、新しい事業分野や事業地域で法令やルールを遵守するための体制の整備が重要であると認識しております。

その実現のために、事業規模の拡大に対応した効率的な経営管理体制の整備を進め、法令及び社内諸規程を遵守した業務執行の定着を推進するとともに、内部監査を継続的に実施し、会社業務の適正な運営ならびに財産の保全を図り、さらにその実効性を高めていくための経営効率化に取り組んでまいります。

(5) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、現時点においても成長途上であると認識しており、営業基盤の拡大による企業価値の継続的拡大を目指していることから、営業基盤の指標として『営業利益』を重視しております。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)事業環境に係るリスク

景気の変動

〔リスクの内容と顕在化した際の影響〕

企業の広告宣伝・広報関連予算は企業の景況に応じて調整されやすく、景気動向に影響を受けやすい傾向にあり、景況感が悪化した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

〔リスクが顕在化する可能性の程度や時期〕

市場動向によるため顕在化する可能性は高く、また時期については常に発生する可能性が考えられます。

〔リスクへの対応策〕

当社グループのPR・広告事業においては、様々な産業セクターへ営業活動を行うことにより、特定産業の景況の影響を受けるリスクの分散をはかっています。

また、ダイレクトマーケティング事業などPR・広告事業以外の事業を展開しており、企業の広告宣伝・広報関連予算減少のリスク低減に努めています。

災害・事故等に関わるリスク

〔リスクの内容と顕在化した際の影響〕

企業の広告宣伝・広報関連予算は、自然災害、電力その他の社会的インフラの障害、流通の混乱、大規模な事故、伝染病、戦争、テロ、政情不安、社会不安等が発生した場合、その影響を受けやすい傾向にあります。したがって、これらの災害・事故等が発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

〔リスクが顕在化する可能性の程度や時期〕

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

〔リスクへの対応策〕

ダイレクトマーケティング事業などPR・広告事業以外の事業を展開しており、企業の広告宣伝・広報関連予算減少のリスク低減に努めています。

また、従業員の安否確認システムの導入、リモート対応ができるようなシステム環境を整備する等、事業継続への影響を最小限に抑える体制構築に努めています。

(2)事業戦略に係るリスク

海外展開

〔リスクの内容と顕在化した際の影響〕

当社グループはアジア・ASEAN地域を中心とした海外市場において、積極的な事業展開を推進しております。海外事業展開には、常に為替リスク、カントリーリスク等があり、損失の発生により当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

〔リスクが顕在化する可能性の程度や時期〕

アジア・ASEAN地域は新型コロナウイルスに対する防疫措置などにより顕在化する可能性は高いと想定されます。翌期においても発生する可能性があると考えられます。

〔リスクへの対応策〕

海外市場の動向を慎重に見極め、リスクコントロールを徹底することにより、当該リスクの低減に努めています。

新規事業

〔リスクの内容と顕在化した際の影響〕

当社グループは、企業価値の向上と事業領域の拡大を目的に、M&A・事業提携、新規事業や新規市場の開拓を積極的に推進する方針です。しかしながら、財務状況の悪化、予測と異なる状況による事業計画との著しい乖離等により、当社グループの業績および財務状況に影響を与える可能性があります。

〔リスクが顕在化する可能性の程度や時期〕

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループでは、市場状況・事業環境のタイムリーで的確な把握と、事業計画の進捗把握と改善に注力し、適時適切な撤退判断等、当該リスクの低減に努めています。

インベストメントベンチャー活動

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

当社グループは、2023年2月期より投資活動を事業化し、優良ベンチャー企業への投資活動にも取り組んでおります。ベンチャー企業に対して、当社グループの中核事業である戦略PRやIRサービスを提供するのとあわせて、出資を行うことにより資本面での支援もあわせて行い、投資先の総合的な企業成長の支援をするものです。当年度は3社の投資先が株式上場を果たしており、おおむね順調に推移しておりますが、投資先である未公開企業は、その将来性における不確定要素により業績が悪化し、投資が回収できず、当社グループの損益に影響を与える可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループでは出資額に応じて定めた適切な意思決定機関で、事業予測や投資の回収可能性等のリスクを総合的かつ慎重に検討し、投資の実施判断を行い、当該リスクの低減に努めています。

(3)事業運営に係るリスク

人材確保

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

当社グループの成長力および競争力は、優秀な人材の獲得と維持に依存します。今後、優秀な人材の獲得が困難となる場合又は現在在職する人材の社外流出が生じた場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループは、人材採用及び人材育成を重要な経営課題と位置づけております。当社グループでは、離職抑制及び多様性のある人材確保のため、公正で柔軟な人事制度導入とともに、多様な働き方への対応など労務環境のさらなる改善を推進しており、当該リスクの低減に努めています。

メディアとの関係及び新たなメディアの成長

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

当社グループのPR事業領域においては、マスメディアおよびデジタルメディア各社に対し有用な情報を長期的かつ継続的に提供することにより、メディアの意思決定者と継続的かつ良好な関係を維持することが、顧客へ提供するサービスの品質・効果における重要な要素となります。誤った情報の提供等の理由によりメディアとの信頼関係を失った場合、またインターネット環境の整備及びスマートフォン等の新しいデバイスの普及による新興メディアの審査が十分に機能しなかったこと等によるレピュテーションリスクが発生した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループでは、社内研修等を通じてメディアに対し有用かつ正しい情報を提供できるように人材の育成に努めており、当該リスクの低減に努めています。

PR業界における取引習慣

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

当社グループのPR事業領域においては、PRの計画や内容に柔軟かつ機動的な変更を要求される業界特有の取引習慣となっているため、役務提供過程においても企画内容、実施時期、報酬額及びその支払時期等が変更される場合もあります。取引条件について取引先との認識の相違や係争が発生した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループでは、契約書、発注書の変更に対して覚書等の文書を取り交わすこととしており、取引条件の明確化に努めています。

法規制

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

当社グループの事業は様々な法規制の影響を受けております。特にダイレクトマーケティング事業領域においては、「薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）」等の各種法令や、監督官庁の指針、ガイドライン等による規制を受けております。これらの法令の制定や改正、新たなガイドライン等により規制が強化された場合、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループは、各規制に従って業務を遂行しております。法律の改定状況をモニタリングし、社内研修による周知等、法令違反を防止する社内管理体制を構築し、当該リスクの低減に努めています。

知的財産権

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

当社グループが事業推進において第三者の知的財産権を侵害した場合には、当該第三者から損害賠償請求や使用差止請求等の訴訟を提起されるなどして、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループは、第三者の知的財産権を侵害しない体制として、社内教育の実施や顧問弁護士による調査・チェックを実施し、リスクの低減に努めています。

情報管理

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

当社グループは事業を推進していく中で、クライアントの機密情報や個人情報を扱う機会があります。不測の事態によりこれらの情報が流出した場合には、当社グループの業績及び社会的信用力に影響を及ぼす可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

情報管理については必要な措置を講じており、その一環として2013年1月にISO27001の認証を取得するなど、各種情報の取り扱いの重要性については、社内研修等を通じて啓蒙活動を実施しています。

内部管理

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

事業の急速な拡大等により、十分な内部管理体制の構築が間に合わない状況が発生した場合、適切な業務運営が困難となり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループは、コーポレート・ガバナンスの強化を進めており、業務の適正及び財務報告の信頼性を確保するため、これらに係る内部統制が有効に機能する体制を構築、整備、運用し、リスクの低減に努めています。

企業活動におけるレピュテーションリスク

[リスクの内容と顕在化した際の影響]

当社グループの事業活動やイメージについて批判的な評価や誤った情報が拡散した場合等、様々な要素によって当社グループのブランド価値や信用が低下し、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

[リスクが顕在化する可能性の程度や時期]

当該リスクが顕在化する可能性は相応にあるものと考えられます。また時期については常に発生する可能性が考えられます。

[リスクへの対応策]

当社グループでは、社内で連携し適切な情報発信ができる体制となっております。また、当社では日頃から、これら風評の早期発見及び影響の極小化に努め、当該リスクの低減に努めています。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の業績の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の進展に伴う行動制限の緩和や各種政策の効果等により、持ち直しの動きが見られたものの、ウクライナ情勢の影響によるエネルギー価格の高騰を背景としたインフレ圧力の上昇、急激な金利上昇や円安進行等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

広告業界においては、株式会社電通が2023年2月に発表した「2022年日本の広告費」によると、2022年（1～12月）の日本の総広告費は7兆1,021億円（前年比4.4%増）とウクライナ情勢や物価高騰など様々な影響を受けつつも、過去最高を更新しました。その中でも、インターネット広告費は3兆912億円（同14.3%増）と社会のデジタル化を背景に継続して成長を続け、2兆円を超えた2019年からわずか3年で約1兆円増加し、広告市場全体をけん引しました。

このような市場環境のもと、当社グループは、顧客の「いいモノを世の中に広める」ためのマーケティング戦略をワンストップで総合的にサポートする「FAST COMPANY」として、デジタルサービスを中心に実効性の高いサービスの強化を進め、当社グループが有する既存顧客を中心に積極的に展開しました。

さらに、顧客の「いいモノを世の中に広める」ためのマーケティング戦略をサポートする新しいサービス分野にも積極的に取り組み、時代の先を見据えたサービスを提供すべく、2022年3月には、九州支社を開設し、九州エリアの企業へのPRサポートを強化しております。また、ライバーマネジメント事業を展開する株式会社INFLUENCER BANK（旧株式会社Liver Bank）にて、SNS同時配信やデータ分析が簡単にできるライブコマースツール「自社でライブコマースできるくん」の提供を開始しております。2022年12月には、動画を活用した転職・キャリア支援サービス「JOBTV転職」の版提供を開始しております。また、デジタルマーケティングのサービス強化を目的として、2022年9月には株式会社ターミナルからデジタル広告事業を譲り受けました。2022年12月には、運用型広告の運用代行事業を展開する株式会社キーワードマーケティングを連結子会社化しました。2023年3月には、SNSを用いた集客支援事業を展開する株式会社トライハッチを連結子会社しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は55,225百万円（前年同期比14.8%増）、営業利益は6,276百万円（前年同期比22.4%増）、経常利益は6,623百万円（前年同期比27.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は3,172百万円（前年同期比53.1%増）となりました。なお、収益認識に関する会計基準適用による影響額は、売上高の減少4,022百万円、営業利益の減少3百万円であります。

なお、当社グループが投資事業として行うベンチャー企業等への出資活動において、出資先に対してPRおよびIRもあわせたサポートを提供し、その結果として、株式会社メンタルヘルステクノロジーズが2022年3月28日に、セカンドサイトアナリティカ株式会社が2022年4月4日に、株式会社プログリットが2022年9月29日に、いずれも東京証券取引所グロース市場へ、株式会社シーラテクノロジーズが2023年3月31日に米国ナスダック市場への上場を果たしました。

また、ベンチャー企業に対する支援の一環として、美容業界に特化したクラウド型店舗システム等の店舗DXサービスを展開する株式会社クラウドビューティ（旧株式会社ジオベック）を2022年7月29日に、360度カメラを使用した自由視点映像の生成・配信プラットフォーム事業を展開するMasterVisions株式会社を2022年11月18日に、フランチャイズマッチングプラットフォーム事業を展開する株式会社アミーを2022年11月21日に連結子会社化しました。PRやIR支援だけでなく経営も含めたサポートを行うことで、同社サービスの成長を加速し、上場を視野に入れた幅広いサポートを提供してまいります。

セグメント業績は、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、セグメントの名称を「メディア事業」より「メディアCMS事業」に、「ファンド事業」より「投資事業」に変更しております。

また、「投資事業」は、当連結会計年度より会計処理を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（会計方針の変更）」に記載の通りであります。

・PR・広告事業

PR・広告事業においては、主にコンサルティングを基本とする戦略PRサービスの提供およびタクシーの車内に設置するタブレットを活用したIoTサイネージサービスによる広告販売などを提供しております。デジタル領域におけるサービスなど時代のニーズを汲み取ったマーケティング施策を展開したことにより、海外事業が新型コロナウイルスの影響を受け落ち込む中でも、国内事業が業績を力強く牽引しました。また、動画を活用した採用プラットフォームを展開するJOBTV事業において、開発費や広告費等の先行投資を実施し508百万円の営業損失を計上しましたが、好調な国内事業が補い、過去最高の売上高および営業利益を更新しました。

以上の結果、PR・広告事業における売上高は29,518百万円（前年同期比13.7%増）、営業利益は2,984百万円（同40.4%増）となりました。なお、収益認識に関する会計基準適用による影響額は、売上高の減少3,488百万円です。

・プレスリリース配信事業

株式会社PR TIMESが手掛けるプレスリリース配信事業においては、プレスリリース配信サイト「PR TIMES」をはじめとした多数のWebサイトにプレスリリースを配信・掲載しており、社会インフラとして多くの企業に活用され、2023年2月には利用企業社数が79,000社を突破しました。また、さらなる新規顧客獲得に向け、テレビCM等の積極的な広告投下を実施しました。

以上の結果、プレスリリース配信事業における売上高は5,706百万円（前年同期比17.5%増）、営業利益は1,190百万円（同35.1%減）となりました。なお、収益認識に関する会計基準適用による影響はありません。

・ビデオリリース配信事業

株式会社NewsTVが手掛けるビデオリリース配信事業は、営業人員を育成しリード獲得に注力した成果が表れ、売上高は前年同期比で微増となり、販管費を削減したことで赤字幅が減少しました。

以上の結果、ビデオリリース配信事業における売上高は1,385百万円（前年同期比1.7%増）、営業損失は34百万円（前年同期は72百万円の営業損失）となりました。なお、収益認識に関する会計基準適用による影響額は、売上高の減少6百万円です。

・ダイレクトマーケティング事業

株式会社ピタブリッドジャパン等が手掛けるダイレクトマーケティング事業においては、期初から継続して広告投下を実施したことにより、計画以上の新規顧客を獲得することができた結果、「ターミナリアファースト」の販売が好調に推移し、通期における過去最高の売上高および営業利益を更新しました。

以上の結果、ダイレクトマーケティング事業における売上高は14,691百万円（前年同期比19.2%増）、営業利益は984百万円（同27.0%増）となりました。なお、収益認識に関する会計基準適用による影響額は、売上高の減少414百万円です。

・メディアCMS事業

株式会社スマートメディアが手掛けるメディアCMS事業は、外部環境に左右されない強固な収益基盤を構築するため、メディア事業の人員をオウンドメディア事業に配置転換するなど、オウンドメディア事業の体制を強化したことで、自社Webメディアの広告収入に寄与する新規タイアップ案件の獲得を抑制しましたが、売上高は前年同期比で微増、営業利益は前期の赤字から黒字に転換しました。

以上の結果、メディアCMS事業における売上高は956百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は3百万円（前年同期は22百万円の営業損失）となりました。なお、収益認識に関する会計基準適用による影響額は、売上高の減少2百万円です。

・HR事業

株式会社あしたのチームが手掛けるHR事業は、SaaS型商材の販売強化に向けた販売戦略の見直しや営業人員の強化を行いつつ、新規顧客獲得のための広告費や機能強化に向けた開発費を投下しながらも、過去最高の営業利益を更新しました。

以上の結果、HR事業における売上高は2,372百万円（前年同期比5.6%減）、営業利益は352百万円（同49.3%増）となりました。なお、収益認識に関する会計基準適用による影響額は、売上高の減少109百万円です。

・投資事業

投資事業においては、一部の投資先において評価損を計上しましたが、保有株式を一部売却したことにより、売却益が売上高および営業利益の増加に寄与しました。

以上の結果、投資事業における売上高は1,601百万円（前年同期比29.3%増）、営業利益は775百万円（同203.2%増）となりました。なお、収益認識に関する会計基準適用による影響はありません。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は13,372百万円と、前連結会計年度末に比較して149百万円の減少となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は1,457百万円となりました(前連結会計年度比70.7%減)。これは主に、税金等調整前当期純利益の計上5,712百万円、減損損失793百万円、仕入債務の増加額641百万円、未払金の増加額698百万円による増加及び売上債権及び契約資産の増加額925百万円、棚卸資産の増加額948百万円、営業投資有価証券の増加545百万円、預け金の増加982百万円、法人税等の支払額2,491百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は1,288百万円となりました(前連結会計年度は1,308百万円の支出)。これは主に、出資金の回収による収入515百万円、貸付金の回収による収入247百万円、敷金及び保証金の回収による収入102百万円、及び有形固定資産の取得による支出261百万円、事業譲受による支出550百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出978百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は358百万円となりました(前連結会計年度は1,060百万円の支出)。これは主に、短期借入金の純増額4,711百万円、長期借入れによる収入901百万円、及び長期借入金の返済による支出1,660百万円、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出1,028百万円、子会社の自己株式の取得による支出1,990百万円、配当金の支払額618百万円によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当社グループの主たる業務は、PR・広告事業であるため、生産に該当する事項はありません。

b. 受注実績

当社グループの主たる業務であるPR・広告事業は、提供するサービスの性格上、受注の記載に馴染まないため、当該記載を省略しております。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績は次のとおりであります。

事業の名称	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	前年同期比(%)
PR・広告事業(百万円)	29,290	113.7%
プレスリリース配信事業(百万円)	5,569	118.6%
ビデオリリース配信事業(百万円)	1,089	103.3%
ダイレクトマーケティング事業 (百万円)	14,550	119.3%
メディアCMS事業(百万円)	754	114.2%
HR事業(百万円)	2,371	94.4%
投資事業(百万円)	1,599	129.6%
合計(百万円)	55,225	114.8%

(注) セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 財政状態の分析

(資産の部)

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4,768百万円増加し、36,343百万円となりました。流動資産におきましては、当連結会計年度末残高は30,115百万円と前連結会計年度末に比べ3,797百万円の増加となりました。これは、現金及び預金が149百万円減少した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が1,393百万円、営

業投資有価証券が369百万円、商品及び製品が709百万円、流動資産その他に含まれている預け金が1,007百万円、前払金が204百万円増加したことが主な要因となります。

固定資産におきましては、当連結会計年度末残高は6,228百万円と前連結会計年度末に比べ970百万円の増加となりました。これは、ソフトウェアが169百万円、投資有価証券が237百万円、敷金及び保証金が179百万円減少した一方で、のれんが1,426百万円、繰延税金資産が336百万円増加したことが主な要因となります。

(負債の部)

当連結会計年度末における負債は、前連結会計年度末に比べ5,186百万円増加し、20,584百万円となりました。

流動負債におきましては、当連結会計年度末残高は16,623百万円と前連結会計年度末に比べ5,802百万円の増加となりました。これは、未払法人税等が325百万円減少した一方で、買掛金が686百万円、短期借入金が4,721百万円、未払金が1,336百万円増加したことが主な要因となります。

固定負債におきましては、当連結会計年度末残高は3,960百万円と前連結会計年度末に比べ616百万円の減少となりました。これは、その他固定負債に含まれている長期未払金が239百万円増加した一方で、長期借入金が519百万円、社債が231百万円減少したことが主な要因となります。

b.経営成績の分析

(営業利益の状況)

営業利益の詳細につきましては、「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1)経営成績等の業績の概要 財政状態及び経営成績の状況」をご参照ください。

(経常利益の状況)

投資事業組合運用損を41百万円計上している一方で、営業利益が前連結会計年度に比べ1,148百万円増加し、投資事業組合運用益を366百万円計上しております。

これらを主な要因として、経常利益は前連結会計年度に比べ1,414百万円増加の6,623百万円(前連結会計年度比27.2%増)となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益の状況)

法人税等合計を2,121百万円、非支配株主に帰属する当期純利益を418百万円計上しております。

これを主な要因として、親会社株主に帰属する当期純利益は、3,172百万円(前連結会計年度比53.1%増)となりました。

当社グループは、現時点においても成長途上であると認識しており、営業基盤の拡大による企業価値の継続的拡大を目指していることから、営業基盤の指標として営業利益を重視しております。

当連結会計年度における営業利益は前連結会計年度に比べ1,148百万円増加し6,276百万円(前連結会計年度比22.4%増)となりました。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況については、「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1)経営成績等の業績の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループにおける主な資金需要は、運転資金及びベンチャー投資事業における投資資金となります。運転資金としては、主に人件費及び広告宣伝費等の販売費及び一般管理費の支払となります。これらの資金につきましては、内部資金、金融機関から借入及び社債により調達しております。当連結会計年度における現金及び預金は13,372百万円、短期借入金は5,056百万円、長期借入金(一年内返済予定を含む)は4,403百万円となっております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表を作成するにあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。また、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、「注記事項(追加情報)」に記載されているとおりです。

4【経営上の重要な契約等】

当社は、2022年7月29日付で株式会社ジオベックの株式を取得し、同社及びその関係会社である株式会社BeautySpaceGlobalを連結子会社化いたしました。また、2022年11月18日及び2022年12月26日にMasterVisions株式会社の株式を追加取得し、同社を連結子会社化いたしました。さらに、2022年11月21日付で株式会社アミーの株式を追加取得するとともに、2022年11月30日付で当社が保有する同社発行の転換社債型新株予約権付社債を株式に転換し、同社を連結子会社化いたしました。加えて、2022年12月26日に株式会社キーワードマーケティングの株式を取得し、同社を連結子会社化いたしました。

当社は、2022年9月30日付で株式会社ターミナルが提供するデジタル広告事業を譲り受けました。また、2022年8月29日付で株式会社ビタブリッドジャパンの株式を追加取得し、2022年10月31日付で株式会社あしたのチームの株式の追加取得をいたしました。

当社は、2023年2月15日付で株式譲渡契約を締結し、2023年3月1日付で株式会社トライハッチの株式を取得いたしました。

詳細は、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 注記事項（企業結合等関係）及び（重要な後発事象）」に記載の通りであります。

5【研究開発活動】

当連結会計年度において、当社グループ全体の研究開発活動の金額は、126百万円であります。

当研究開発活動は、P・R・広告事業、ビデオリリース配信事業及びHR事業の各セグメントに係るものであり、主な内容は新サービスの開発であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度中において実施いたしました企業集団の設備投資の総額は507百万円であります。

主要な事業セグメントにおける設備投資の状況は以下のとおりであります。

PR・広告事業においては、本社設備の改装等2百万円、事務機器及び通信機器の新設等46百万円、事業に供するソフトウェアの開発費等90百万円の設備投資を実施いたしました。

プレスリリース配信事業においては、本社設備の改装等2百万円、事務機器及び通信機器の新設等45百万円、事業に供するソフトウェアの開発費等70百万円の設備投資を実施いたしました。

ビデオリリース配信事業においては、事務機器及び通信機器の新設等0百万円、事業に供するソフトウェアの開発費等76百万円の設備投資を実施いたしました。

ダイレクトマーケティング事業においては、本社設備の改装等99百万円、事務機器及び通信機器の新設等63百万円、事業に供するソフトウェアの開発費等8百万円の設備投資を実施いたしました。

HR事業においては、事務機器及び通信機器の新設等1百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1)提出会社

2023年2月28日現在

事業所名 (所在地)	セグメント名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	工具器具備品 (百万円)	リース資産 (百万円)	ソフトウェア (百万円)	合計 (百万円)	
本社 (東京都港区)	PR・広告事業	本社設備	204	47	5	193	451	89(32)

(注)1. 建物の全部を賃借しております。事務所の年間賃借料(国内子会社への転貸分を含む)は、634百万円であります。

2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含みます。)は、年間平均雇用人数を()外数で記載しております。

(2)国内子会社

2023年2月28日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント 名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	工具器具備品 (百万円)	リース資産 (百万円)	建設 仮勘定 (百万円)	ソフト ウェア (百万円)	合計 (百万円)	
(株)PR TIMES	本社 (東京都港区)	プレスリ リース配信 事業	本社設備 システム機器	179	74	1	-	158	412	120(108)
(株)ピタブリッ ドジャパン	本社 (東京都港区)	ダイレクト マーケティ ング事業	本社設備 システム機器	94	50	-	-	2	148	56(0)
(株)ニューステ クノロジー	本社 (東京都港区)	PR・広告 事業	本社設備 システム機器	17	50	0	6	20	95	29(3)

(注)1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含みます。)は、年間平均雇用人数を()外数で記載しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設及び除却計画は以下のとおりであります。

(1)重要な設備の新設

該当事項はありません。

(2)重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	131,400,000
計	131,400,000

【発行済株式】

種 類	事業年度末現在発行数(株) (2023年2月28日)	提出日現在発行数(株) (2023年5月31日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内 容
普通株式	47,936,100	47,936,100	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	47,936,100	47,936,100	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年 月 日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2018年3月1日～ 2019年2月28日 (注)1	501,600	46,807,500	415	2,580	415	2,540
2019年3月1日～ 2020年2月29日 (注)1	1,128,600	47,936,100	299	2,880	299	2,840
2020年3月1日～ 2021年2月28日 (注)2	-	47,936,100	-	2,880	2,840	-
2021年3月1日～ 2022年2月28日 (注)3	-	47,936,100	-	2,880	9	9

- (注)1. 新株予約権の行使による増加であります。
2. 資本準備金の減少は、2020年5月27日開催の定時株主総会の決議に基づくその他資本剰余金への振り替えによるものであります。
3. 資本準備金の増加は、資本剰余金を原資とする剰余金の配当に伴う積立によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2023年2月28日現在

区 分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	10	26	89	151	16	7,023	7,315	-
所有株式数(単元)	-	110,987	12,144	5,184	75,845	82	275,024	479,266	9,500
所有株式数の割合(%)	-	23.2	2.5	1.1	15.8	0.0	57.4	100.0	-

(注) 自己株式262,061株は、「個人その他」に2,620単元、「単元未満株式の状況」に61株含まれております。

(6)【大株主の状況】

2023年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
西江肇司	東京都渋谷区	18,780,600	39.39
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	5,812,700	12.19
(株)日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	4,385,000	9.20
吉柳さおり	東京都渋谷区	927,600	1.95
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	AVENUE DES ARTS, 35 KUNS TLAAN, 1040 BRUSSELS, BELGIUM (東京都千代田区丸の内2-7-1)	745,500	1.56
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019 (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	AIB INTERNATIONAL CENTRE P.O. BOX 518 IFSC DUBLIN, IRELAND (東京都中央区日本橋3-11-1)	601,300	1.26
長谷川創	東京都港区	583,300	1.22
野村信託銀行(株)(投信口)	東京都千代田区大手町2-2-2	539,100	1.13
MSCO CUSTOMER SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレーMUFG証券(株))	1585 Broadway New York, New York 10036, U.S.A (東京都千代田区大手町1-9-7)	520,855	1.09
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券(株))	PLUMTREE COURT, 25 SHOE LANE, LONDON EC4A 4AU, U.K. (東京都港区六本木6-10-1)	398,292	0.84
計	-	33,294,247	69.84

(注) 1. 持分比率は自己株式(262,061株)を控除して算出しております。

2. 2021年2月12日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社が2021年2月8日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として議決権行使基準日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下の通りです。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館	3,059,300	6.38

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 262,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 47,664,600	476,646	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 9,500	-	-
発行済株式総数	47,936,100	-	-
総株主の議決権	-	476,646	-

(注)「単元未満株式」欄には、当社保有の自己株式61株が含まれております。

【自己株式等】

2023年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ベクトル	東京都港区赤坂 四丁目15番1号	262,000	-	262,000	0.55
計	-	262,000	-	262,000	0.55

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	262,061	-	262,061	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式数には、2023年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、2023年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元が経営の重要課題であるとの認識のもと、中長期的な事業成長による企業価値の向上と安定的な配当の実施により利益還元を図って参ります。当社は、中間配当を行うことができる旨を定款で定めておりますが、期末配当による年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針とし、健全な財務体質の維持や積極的な事業展開のための内部留保の充実等を勘案しつつ、連結配当性向30%を目安として継続的に配当を実施していきたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年8月31日を基準日として、中間配当を行うことができる」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2023年5月30日 定時株主総会決議	905	19

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、めまぐるしく変化する経営環境において、企業が安定した成長・発展を遂げていくためには、経営の効率性と健全性を高めるとともに、公正で透明度の高い経営体制を構築していくことが不可欠であるとの観点から、コーポレート・ガバナンスの徹底を最重要課題と位置づけております。

また、今後も社会環境の変化や法令等の施行に応じて、コーポレート・ガバナンスの実効性を高めるため必要な見直しを行ってまいります方針であります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

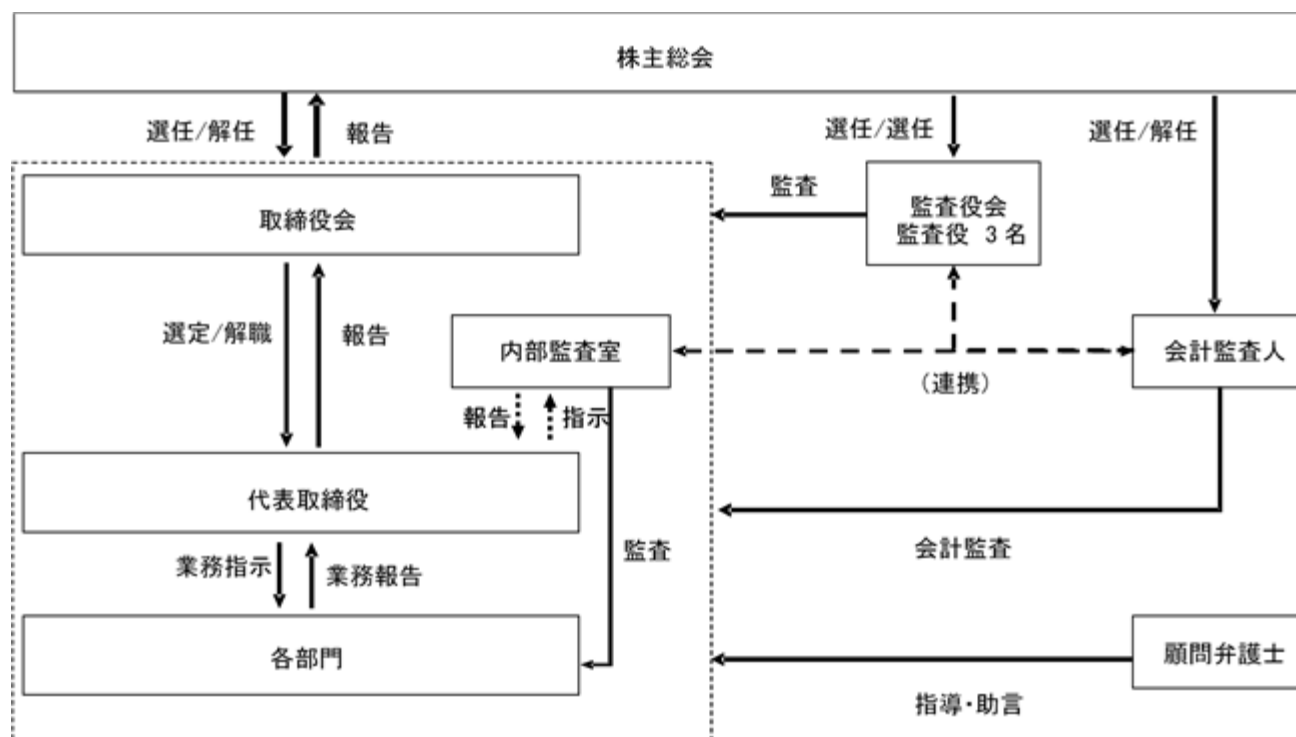
イ．企業統治の体制の概要

当社は取締役会設置会社及び監査役会設置会社であります。取締役会は、当社の重要な業務執行の意思決定や取締役の業務執行の監督を行います。代表取締役会長兼社長である西江肇司が議長を務め、社内取締役4名、社外取締役5名の9名体制で構成されております。取締役会の構成員については、後述の(2)役員の状況の役員一覧をご参照ください。監査役会は、取締役会から独立した機関として取締役の業務執行の監視を行うものです。常勤監査役である森和虎が議長を務め、社内監査役1名、社外監査役2名の3名体制で構成されております。監査役会の構成員については、後述の(2)役員の状況の役員一覧をご参照ください。

監査役は取締役会に常時出席し、活発な意見交換を行うことにより、取締役の職務執行に対する監督機能を発揮しております。また、当社の常勤監査役についてはグループ全体の業務監査も行っており、重要な社内稟議のモニタリング等に取り組んでおります。

さらに、代表取締役直轄の内部監査室を設置し、経営に対する監督の強化を図っております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制は以下のとおりであります。



ロ．当該体制を採用する理由

当社は取締役会と監査役・監査役会を中心としたコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。取締役会では毎回活発な議論が行われています。取締役会及び監査役会はいずれも過半数を社外役員で構成されており、より独立した立場から経営に対する監督牽制機能の強化を図っています。また、監査役会は適宜会計監査人、内部監査室と連携することで機動的な監査を可能としております。以上により、コーポレート・ガバナンスの実効性を確保できると判断し、現在の体制を選択しています。

企業統治に関するその他の事項

イ．内部統制システムの整備の状況

当社では、会社法及び会社法施行規則に基づき、業務の適正性を確保するための体制整備の基本方針として、以下のように内部統制システム整備の基本方針を定めております。

・ベクトルグループの取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (1) 当社は、ベクトルグループの役職員の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するため「ベクトルグループコンプライアンスポリシー」を制定し、ベクトルグループ各社の取締役は自らこれを遵守するとともに、ベクトルグループ各社の代表取締役は、その精神を使用人に反復伝達します。
- (2) 当社は、監査役監査規程及び内部監査規程により、監査役監査及び内部監査の対象をベクトルグループ全社と定め、ベクトルグループ全体の法令及び定款の適合性評価を行っております。
- (3) 当社は、コンプライアンス・リスク管理委員会、稟議制度、契約書類の法務審査制度、内部監査及び法律顧問による助言等の諸制度を柱とするコンプライアンス体制を構築し、ベクトルグループの取締役及び使用人の職務の執行が、法令及び定款に適合することを確保しております。

・取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- (1) 情報セキュリティについては「情報セキュリティ基本規程」に基づき、情報セキュリティに関する責任体制を明確化し、情報セキュリティの維持・向上のための施策を継続的に実施する情報セキュリティマネジメントシステムを確立します。情報セキュリティに関する具体的施策については、「情報セキュリティ委員会」で審議し、ベクトルグループで横断的に推進します。
- (2) 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理については、文書管理規程、個人情報管理基本規程、インサイダー取引防止に関する規程等の社内規程に基づき、文書又は電磁的媒体に記録し、適切に保存及び管理します。

・ベクトルグループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当社は「ベクトルグループコンプライアンスポリシー」を上位規範として、「コンプライアンス・リスク管理委員会」及び「事故・不祥事等対応規程」をベクトルグループ各社に準用し、ベクトルグループ全体における潜在的リスクの早期発見及び事故・不祥事等に対する迅速かつ適切な措置を講ずる体制を構築しております。
- (2) 当社は、ベクトルグループにおける防災計画の立案及び防災体制の整備等、防災全般に関する諸事情の構築を推進すべく、事業継続計画を制定し、災害発生時の対応体制等を確立することにより、災害による人的・物的被害を予防、軽減しております。
- (3) 当社は、監査役監査規程及び内部監査規程により監査役監査及び内部監査の対象をベクトルグループ全社とし、ベクトルグループ全体のリスク管理状況の監査、有効性評価を行っております。

・ベクトルグループの取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 当社は、原則として毎月1回取締役会を開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、機動的な意思決定を行っております。
- (2) 当社は、ベクトルグループ各社毎に組織規程及び職務権限規程を制定させ、ベクトルグループの取締役の担当職務、取締役・使用人等の役割分担、業務分掌、指揮命令関係等を明確化しております。また、稟議システムを整備し、機動的な意思決定を図っております。
- (3) 当社は、ベクトルグループ各社の取締役等に対し、週1回、各種経営に関する重要な会議に出席させて情報共有を行い、グループ間で相互に緊密に連携しております。

・当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制、及び子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

- (1) 当社は「ベクトルグループコンプライアンスポリシー」を通じて、子会社の遵法体制その他業務の適正を確保するための体制の整備に関する指導及び支援を行っております。
- (2) ベクトルグループの経営課題に対する共通認識を持ち、グループ企業価値最大化に向けた経営を行うため、関係会社管理規程により、子会社各社に当社取締役を派遣する体制を採っております。
- (3) ベクトルグループの総合的かつ健全な発展を図り、業務の適正を確保するために、関係会社管理規程及び職務権限規程を制定し、子会社の事業運営に関する重要な事項については当社の承認を必要とすることとしております。
- (4) 当社は、当社が定める関係会社管理規程に基づき、子会社の経営内容及び事業活動を適時に的確に把握するため、必要に応じて関係資料等の提出あるいは報告を求めることとしております。

・監査役を補助すべき使用人に関する体制（使用人の取締役からの独立性及び監査役からの指示の実効性の確保に関する事項を含みます）

監査役会からその職務を補助すべき使用人を置くことの求めがあった場合は、可及的速やかに適切な使用人を監査役付として配置致します。取締役からの独立性を強化するため、監査役を補助すべき使用人の業績考課、人事異動、賞罰の決定については事前に監査役の同意を得なければならないものとし

す。また、当社は、監査役を補助すべき使用人に関し、監査役の指揮命令に従う旨を役員及び使用人に周知徹底します。

・取締役及び使用人等が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制（監査役への報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制を含みます）

(1) 当社は、ベクトルグループにおいて、取締役会のほか、その他重要会議体への監査役の出席を確保するとともに、業績等会社の業務の状況を担当部門により監査役へ定期的に報告します。

(2) 当社は、監査役監査規程により、監査役が何時でもベクトルグループ各社の取締役及び従業員に対して営業の報告を求め、会社の業務及び財産の状況を調査することができる体制を確保するとともに、ベクトルグループ各社の取締役及び従業員が会社に著しく損害を及ぼす恐れのある事実を発見したときは、直ちに当社の監査役に報告をしなければならないものとしております。

(3) 当社の監査役会は、原則として毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、監査実施状況等について情報交換及び協議を行うとともに、会計監査人から定期的に会計監査に関する報告を受け、意見交換を行っております。

(4) 当社は、関係会社管理規程、コンプライアンス・リスク管理規程、事故不祥事対応規程により、ベクトルグループ全体として適正な報告がなされるよう体制を整備しています。また、通常の報告体制とは別に所属部署の所属長や管理役職者を通さないコンプライアンス内部通報窓口を設け、報告による不利益の扱いを禁止する規程を整備するなど、報告者に不利な取り扱いがなされないことを確保する体制の整備に努めております。

・その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制（当社の監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項を含みます）

(1) 当社の代表取締役は、監査役会と定期的に情報交換を行うものとし、ベクトルグループの経営の状況に関する情報の共有化を図っております。

(2) 当社の監査役より稟議書その他の重要文書の閲覧の要請がある場合は、当該要請に基づき、担当部門が直接対応し、その詳細につき報告を行います。

(3) 当社の監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理にあたっては、他部門の干渉を受けないものとし、当社は、監査役との協議により、速やかに当該費用又は債務を処理するものとし、

・財務報告の信頼性を確保するための体制

(1) ベクトルグループの財務報告に係る内部統制については、金融商品取引法その他適用のある国内外の法令に基づき、評価、維持、改善等を行います。

(2) 当社の各部門及び当社子会社は、自らの業務の遂行にあたり、職務分離による牽制、日常的モニタリングを実施し、財務報告の適正性の確保に努めます。

・反社会的勢力を排除する管理体制

当社は「ベクトルグループコンプライアンスポリシー」において、反社会的勢力との関係を持たないこと、および会社の利益あるいは自己保身のために、反社会的勢力を利用しないことを基本方針としております。

また、反社会的勢力から不当要求を受けた場合には、組織全体で毅然とした態度で臨み、反社会的勢力による被害の防止に努めております。

具体的な対応方法としては、「反社会的勢力対応マニュアル」を制定し、上記基本方針を明示するとともに、排除体制並びに対応方法を定め、また、社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会にも加入し、万々に備えて関係強化および情報収集に努めております。

今後も所管警察署並びに関係団体と連絡を密にして情報収集に努め、反社会的勢力の事前排除ができる体制作りを進めていくとともに、社内研修等においてマニュアルで定めた内容等の周知徹底を図り、実効性をもって運用できるよう、社員教育に努めてまいります。

ロ．リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制については、法的リスクへの効率的対応を図るため、コンプライアンス等に関するリスク情報を当社経営管理本部に集約するとともに、管理部あるいは内部監査室と協議・検討を交える体制を整備しております。このほか、法律顧問である潮見坂総合法律事務所から重要な契約内容等法律問題に関する助言を適時受けております。

当社グループ会社のリスク管理についても、当社取締役がグループ子会社の取締役を兼任することでグループ内の情報共有を図り、リスク情報の一元的管理を進めております。

ハ．社外取締役及び社外監査役との責任限定契約

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は法令が定める額としてお

ります。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

ニ．役員との役員等賠償責任保険契約

当社は、保険会社との間で役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者である役員がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求をうけることによって生ずることのある損害を当該保険契約によって填補することとしております。

ホ．取締役の定数・任期

当社の取締役は10名以内とする旨、取締役の任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする旨を定款で定めております。

ヘ．取締役の選任の要件

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席しその議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は累積投票によらない旨を定款で定めております。

ト．自己株式取得に関する条件

当社は、経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行のため、会社法第165条第2項により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

チ．中間配当に関する事項

当社は、株主の便宜を図るため、取締役会の決議によって、毎年8月31日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

リ．株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議は議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性11名 女性1名 (役員のうち女性の比率8.3%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役会長兼社長	西江 肇司	1968年9月14日生	1993年3月 当社設立、代表取締役 2011年1月 維酷公共関係諮問(上海)有限公司董事長 2012年6月 Vector Group International Limited Director(現任) 2014年3月 Vector Group Ltd.代表 2014年5月 VECTOR GROUP COMPANY LIMITED代表(現任) 2020年5月 当社取締役会長 2021年3月 ㈱ロングプレスオンラインスタジオ代表取締役(現任) 2022年3月 当社代表取締役会長兼社長(現任)	(注)3	18,780,600
取締役副社長グループCOO	長谷川 創	1971年4月26日生	1993年3月 創業メンバーとして当社設立に参画 1995年4月 郵政省(現日本郵政㈱)入省 1997年4月 当社入社 2001年5月 当社取締役 2004年5月 ㈱ベクトルスタンダード(現㈱アンティル)代表取締役 2015年9月 維酷公共関係諮問(上海)有限公司董事長 2017年5月 ㈱PR TIMES取締役 2018年11月 ㈱Direct Tech代表取締役 2020年5月 当社代表取締役社長 2022年3月 当社取締役副社長 2023年5月 当社取締役副社長グループCOO(現任)	(注)3	583,300
取締役副社長	吉柳 さおり	1975年6月15日生	1998年4月 当社入社 2003年6月 当社取締役 2004年5月 ㈱ベクトルコミュニケーション(現㈱プラチナム)代表取締役(現任) 2022年3月 当社取締役副社長(現任)	(注)3	927,600
取締役CFO	後藤 洋介	1984年9月10日生	2007年4月 ソフトブレーン㈱入社 2015年1月 ㈱VOYAGE GROUP(現㈱CARTA HOLDINGS)入社 2019年6月 当社入社 2020年3月 ㈱あしたのチーム取締役(現任) 2020年5月 当社取締役 2021年5月 ㈱100キャピタル代表取締役(現任) 2022年3月 当社取締役CFO(現任) 2023年2月 ㈱ピタブリッドジャパン監査役(現任)	(注)3	2,500
取締役 (注)1	西木 隆	1968年4月8日生	1993年4月 三井不動産㈱入社 1997年10月 クレディスイスファースト ポストン証券(現クレディ・スイス証券㈱)東京支店入社 2001年9月 Colony Capital Asia Pacific Pte.Ltd.東京支店入社 COO 2003年9月 ラウンドヒル・キャピタルパートナーズ㈱代表取締役 2007年11月 ブルデンシャル・リアルエステート・インベスターズ・ジャパン㈱代表取締役 2010年10月 カーバル・インベスターズ・ピーティイー・リミテッド 東京支店入社、日本代表 2014年1月 Stream Capital Partners Japan㈱設立、代表取締役 2014年9月 ㈱アドベンチャー監査役 2015年5月 当社取締役(現任) 2015年11月 RPAホールディングス㈱監査役 2016年12月 ㈱オークファン取締役 2018年5月 RPAホールディングス㈱取締役(現任)	(注)3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (注) 1	松田 公太	1968年12月3日生	<p>1990年4月 ㈱三和銀行(現㈱三菱UFJ銀行) 入行</p> <p>1998年5月 タリーズコーヒージャパン㈱設立、代表取締役</p> <p>2009年5月 Eggs'n Things International Holdings Pte. Ltd. 設立 President (現任)</p> <p>2010年7月 東京都選挙区より参議院議員に当選</p> <p>2015年1月 日本を元気にする会を結党、代表</p> <p>2017年3月 ㈱メディアフラッグ(現インパクトホールディングス㈱) 取締役(現任)</p> <p>2018年5月 当社取締役(現任)</p> <p>2019年2月 Eggs'n Things Japan Holdins 合同会社(現クージュー㈱) 設立、代表取締役(現任)</p>	(注) 3	-
取締役 (注) 1	富村 隆一	1959年2月17日生	<p>1983年10月 日本IBM㈱入社</p> <p>1991年10月 ㈱リクルート入社</p> <p>1994年1月 プライスウォーターハウスコンサルタント㈱ 常務取締役</p> <p>2002年10月 IBMコーポレーション Vice President (アジアパシフィック ビジネスコンサルティング サービスストラテジー/マーケティング/オペレーション担当)</p> <p>2004年2月 日本テレコム㈱(現ソフトバンク㈱) 代表執行役員副社長</p> <p>2006年6月 同社取締役副社長</p> <p>2006年10月 ㈱RHJインターナショナル・ジャパン(旧リップルウッド・ジャパン) 代表取締役</p> <p>2008年5月 ㈱シグマクス(現㈱シグマクス・ホールディングス) 取締役コーポレートスタッフ担当パートナー</p> <p>2010年4月 同社取締役副社長</p> <p>2012年8月 ㈱プラン・ドゥ・シー取締役</p> <p>2015年6月 ㈱新生銀行(現㈱SBI新生銀行) 取締役</p> <p>2016年6月 ㈱シグマクス(現㈱シグマクス・ホールディングス) 代表取締役副社長</p> <p>2018年6月 同社代表取締役社長兼COO</p> <p>2019年3月 同社代表取締役社長(現任)</p> <p>2020年5月 当社取締役(現任)</p>	(注) 3	-
取締役 (注) 1	那珂 通雅	1964年8月14日生	<p>1989年4月 ソロモン・ブラザーズ・アジア証券会社(現シティグループ証券㈱) 入社</p> <p>2004年12月 日興シティグループ証券㈱(現シティグループ証券㈱) 常務執行役員債券本部共同本部長</p> <p>2008年6月 同社常務執行役員市場営業本部長</p> <p>2009年10月 シティグループ証券㈱取締役</p> <p>2009年12月 同社取締役副社長</p> <p>2010年12月 ストームハーバー証券㈱設立 代表取締役社長</p> <p>2011年3月 GLM㈱監査役</p> <p>2014年7月 あずかアセットマネジメント㈱取締役</p> <p>2014年9月 ㈱アイスタイル取締役(現任)</p> <p>2014年10月 ストームハーバー証券㈱取締役会長</p> <p>2014年11月 ㈱ジーニー取締役</p> <p>2015年7月 プリベント少額短期保険㈱(現ミカタ少額短期保険㈱) 取締役(現任)</p> <p>2016年7月 ボードウォーク・キャピタル㈱設立 代表取締役社長(現任)</p> <p>2017年6月 ㈱アクセルレーター設立 代表取締役社長(現任)</p> <p>2019年3月 ㈱ビジョン取締役(現任)</p> <p>2020年5月 当社取締役(現任)</p>	(注) 3	6,200

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (注) 1	野瀬 泰伸	1958年4月15日生	1984年9月 大和証券(株) (現(株)大和証券グループ本社) 入社 1988年7月 トランスポーターショングループジャパン(株) 入社 1990年1月 同社日本代表 1993年5月 ドイツ銀行東京支店入行 1997年8月 スイスユニオン銀行東京支店入行 1999年8月 リーマン・ブラザーズ証券会社東京支店入社 2005年1月 同社マネージング・ディレクター兼グローバルストラクチャードファイナンス日本統括責任者 2005年10月 フィンテックグローバル(株)投資銀行本部長 2005年12月 同社取締役投資銀行本部長 2007年4月 同社取締役経営戦略本部長 2008年4月 同社取締役副社長経営戦略本部長兼経営企画部長 2009年4月 同社取締役副社長 2016年1月 (株)グラックス・アンド・アソシエイツ顧問 (現任) 2020年5月 当社取締役 (現任) 2020年8月 メディタリージャパン(株)代表取締役	(注) 3	-
常勤監査役	森 和虎	1945年9月14日生	1969年4月 (株)三友エージェンシー (現(株)ADKインターナショナル) 入社 2004年7月 同社営業本部長就任 2016年5月 当社監査役就任 (現任)	(注) 4	-
監査役 (注) 2	玄 君先	1966年6月8日生	1992年3月 最高裁判所司法研修所入所 1994年4月 三井安田法律事務所入所 1997年7月 モルガン・スタンレー証券(株)入社 2003年3月 西村あさひ法律事務所入所 2004年2月 メリルリンチ日本証券(株) (現BofA証券(株)) 入社 2005年3月 港国際法律事務所を開設 代表社員 (現任) 2007年3月 リーマン・ブラザーズ証券(株)入社 2015年5月 当社監査役就任 (現任) 2022年10月 Bホールディングス(株)取締役 (現任)	(注) 4	-
監査役 (注) 2	柳沼 賢司	1967年3月6日生	1990年4月 国際証券(株) (現三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)) 入社 1995年6月 (株)メックス入社 1997年5月 (株)フォーバル入社 2000年9月 ソフトブレーション(株)入社 2005年7月 同社執行役員 2006年9月 シーア・インサイト・セキュリティ(株)取締役 2008年2月 (株)リアリット取締役 2011年1月 (株)フィデック (現アクリーティブ(株)) 入社 2012年3月 ソフトブレーション(株)常勤監査役 (現任) 2020年5月 当社監査役就任 (現任)	(注) 4	-
計					20,300,200

- (注) 1 . 取締役 西木隆氏、松田公太氏、富村隆一氏、那珂通雅氏及び野瀬泰伸氏は、社外取締役であります。
- 2 . 監査役 玄君先氏及び柳沼賢司氏は、社外監査役であります。
- 3 . 2023年5月30日開催の定時株主総会の終結の時から2024年2月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 4 . 2023年5月30日開催の定時株主総会の終結の時から2027年2月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 5 . 当社は、保険会社との間で役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者である役員がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求をうけることによって生ずることのある損害を当該保険契約によって填補することとしております。

社外役員の状況

イ．社外取締役及び社外監査役の員数並びに利害関係

当社は、社外取締役5名及び社外監査役2名を選任しております。

社外取締役の西木隆氏は、RPAホールディングス株式会社の取締役であります。当社と同氏個人及び当該兼職先との間に特別な利害関係は存在していません。社外取締役の松田公太氏は、Eggs'n Things International Holdings Pte. Ltd. のPresident（代表者）、クージュー株式会社の代表取締役及びインパクトホールディングス株式会社の取締役であります。当社と同氏個人及び各兼職先との間に特別な利害関係は存在していません。社外取締役の富村隆一氏は、株式会社シグマクス・ホールディングスの代表取締役社長であります。当社と同氏個人及び当該兼職先との間に特別な利害関係は存在していません。社外取締役の那珂通雅氏は、ボードウォーク・キャピタル株式会社及び株式会社アクセルレーターの代表取締役社長、並びに株式会社ビジョン、ミカタ少額短期保険株式会社及び株式会社アイスタイルの取締役であります。当社と同氏個人及び各兼職先との間に特別な利害関係は存在していません。社外取締役の野瀬泰伸氏は、株式会社グラックス・アンド・アソシエイツの顧問であります。当社と同氏個人及び各兼職先との間に特別な利害関係は存在していません。

社外監査役の玄君先氏は、港国際法律事務所の代表社員及びBホールディングス株式会社の取締役であります。当社と同氏個人及び当該兼職先との間に特別な利害関係は存在していません。社外監査役の柳沼賢司氏は、ソフトブレン株式会社の常勤監査役であります。当社と同氏個人及び当該兼職先との間に特別な利害関係は存在していません。

ロ．社外取締役及び社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

当社は、社外取締役及び社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割として、取締役の職務執行の適正性及び効率性を高めるための牽制機能を期待しております。

社外取締役には、特に経営戦略に係る判断や経営体質強化に関して客観性を重視すべく、国内外における企業経営や金融・投資等の幅広い豊富な経験と知見を兼ね備えた方を選任し、取締役会その他の場で意見表明や経営判断を独立的な立場から行っていただくことを期待しております。

社外監査役には特に企業統治に関する客観的な判断を得る事を重視し、法曹界あるいは企業経営において広い経験、深い知識を兼ね備えた方を選任し、企業統治に対する意見、監督を独立的な立場から行っていただくことを期待しております。

ハ．社外取締役又は社外監査役を選任するための会社からの独立性を判断する基準

当社においては、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準は定めていないものの、会社法及び東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準を参考にして独立性の高い社外取締役及び社外監査役を選任することとしております。また、各社外取締役及び各社外監査役と当社の間には特別な利害関係がなく、高い独立性を有していることから、いずれも株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しております。

ニ．社外役員の選任状況に関する考え方

当社は、取締役9名のうち5名が社外取締役で構成され、監査役3名のうち2名が社外監査役で構成されており、監督・監査機能は確保されていると考えております。また、いずれの社外役員も様々な分野における豊富な経験と幅広い知識を有しており、当社の経営活動に適切な助言、提言をしていただいております。

ホ．社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社の社外取締役及び社外監査役は、専門的かつ客観的な視点から、取締役会の業務執行に関する監視機能を強化するとともに、取締役会における多角的な議論を可能とすることで、当社グループのコーポレート・ガバナンスの実効性を高める機能を有しているものと考えております。

監査役は、会社の業務及び財産の状況の調査その他職務の遂行にあたり、効率的な監査を実施すべく、内部監査担当者との緊密な連携を保ち、また、内部監査担当者より、内部統制システムに係る当社の状況とその監査結果について定期的に報告を受けております。

なお、監査役及び内部監査担当者は、会計監査人とそれぞれ定期的に会合を持ち、内部監査の概要を報告するとともに、監査計画及び実施された会計監査の結果等について聴取を行い、意見交換を実施しております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役会は3名で構成されており、うち1名が社内監査役、2名が社外監査役であります。社外監査役である玄君先氏は、弁護士として法律やコンプライアンスに関する高度な専門知識と豊富な経験を有しています。また社外監査役である柳沼賢司氏は、会社の管理部門担当役員や常勤監査役としての豊富な経験を有し、財務及び会計の分野を含む会社経営に関する深い知見を有しています。

監査役会は毎月1回の定時監査役会の開催に加え、重要な事項等が発生した場合、必要に応じて臨時監査役会を開催しております。監査役会では、法令、定款及び当社監査役規程に基づき重要事項の決議及び業務の進捗報告等を実施しております。また、監査役は定時取締役会・臨時取締役会に常時出席するとともに、その他重要会議体への出席を確保しており、取締役の業務執行について適宜意見を述べ、業務執行の全般にわたって監査を実施しております。

なお、監査上の主要な検討事項（KAM：Key Audit Matters）に関しては、会計監査人によるKAMの選定過程においてその意見を聴取する等情報の共有を図るとともに協議を行い、KAMへの対応状況を確認いたしました。

当事業年度において当社は監査役会を12回開催しましたが、各監査役の出席状況は以下のとおりです。

氏名	開催回数	出席回数
常勤監査役 森 和虎	12回	12回
社外監査役 玄 君先	12回	12回
社外監査役 柳沼 賢司	12回	12回

内部監査の状況

当社では、監査を担当する専任部署として内部監査室（内部監査室長1名で構成）を設置しております。内部監査室長は監査役と毎月1回、定期的に会合を行い、監査の方法や結果について情報交換を行うことで相互連携を図り、内部監査計画に基づいた内部監査により内部統制を行っております。監査結果につきましては速やかに代表取締役に報告し、監査結果を踏まえた改善指示により業務改善を行っております。

会計監査の状況

イ．監査法人の名称
東陽監査法人

ロ．継続監査期間
17年間

ハ．業務を執行した公認会計士
辻村 茂樹
大山 昌一
石川 裕樹

ニ．監査業務に係る補助者の構成
公認会計士18名
その他9名
(注)その他は、公認会計士試験合格者等であります。

ホ．監査法人の選定方法と理由

監査役会は、監査法人の概要、実績、監査業務の実施体制及び監査報酬の合理性等を総合的に勘案して、会計監査人を選定しております。現会計監査人は、選定方針と照らし合わせた結果、当社の会計監査人として適切と判断したため、選定しております。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

ヘ．監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役及び監査役会は、会計監査人に関して、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」を踏まえ、会計監査人が独立の立場を保持しつつ適正な監査を実施し

ているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、総合的に検討し評価しております。

監査報酬の内容等

イ．監査公認会計士等に対する報酬

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬（百万円）	非監査業務に 基づく報酬（百万円）	監査証明業務に 基づく報酬（百万円）	非監査業務に 基づく報酬（百万円）
提出会社	90	-	70	-
連結子会社	92	-	109	2
計	182	-	179	2

監査公認会計士等の非監査業務の内容

（前連結会計年度）

該当事項はありません。

（当連結会計年度）

連結子会社における非監査業務の内容は、監査受嘱のための調査業務であります。

ロ．監査公認会計士等と同一のネットワーク（Crowe Global）に対する報酬（イ．を除く）

該当事項はありません。

ハ．その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

二．監査報酬の決定方針

当社は、監査報酬の決定方針を特に定めておりませんが、監査公認会計士等より、提示される監査計画の内容をもとに、監査工数等の妥当性を勘案・協議し、監査役会の同意を得た上で決定することとしています。

ホ．監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りなどが当社の事業規模や事業内容に対して適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、2022年4月19日開催の取締役会において、2022年5月26日開催の第30回定時株主総会において関連する議案が承認決議されることを条件として、次のとおり取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を決定しております。

基本方針

当社では、取締役の報酬は、株主の皆様とのより一層の価値共有と企業業績の継続的な成長と企業価値の持続的な向上を図る中長期的なインセンティブとして有効に機能するよう設計するものとし、それらを実現するための優秀な人材の確保と維持を可能とし、各取締役に求められる役割と責任に見合った適正な水準とすることを基本方針としています。

報酬の構成

社外取締役を除く取締役の報酬は、基本報酬と譲渡制限付株式報酬とで構成されるものとしています。

基本報酬は、各取締役の役割と責任に基づき定めた固定額を毎月支給する金銭報酬です。

譲渡制限付株式報酬は、原則として割当日後3年を経過するまでの間の譲渡等を禁止して株式を交付するもので、前事業年度の当社グループの連結業績目標の達成状況及び各取締役の当該業績への貢献度合いや担当業務の成果等を総合的に評価した上で付与数を決定することとしております。

なお、譲渡制限付株式報酬制度は、第30回定時株主総会により正式に株主の皆様による承認をいただいたものであることから、2023年2月期は、各取締役に対して付与される譲渡制限付株式報酬を決定するための評価期間と位置づけ、当該事業年度の目標等の達成度に基づき2024年2月期に本制度に基づく初回の株式報酬の付与を行う予定であり、2023年2月期においては株式報酬の付与は行いません。

社外取締役については、独立した立場から経営の監視、監督機能を担うことから、固定報酬のみを支給することとしています。

(3) 株主総会の決議内容

取締役の報酬については、2022年5月26日開催の第30回定時株主総会において、年額500百万円以内（使用人兼務取締役の使用人分給与は含みません。）の金銭報酬と、さらに社外取締役を除く取締役に対する非金銭報酬である譲渡制限付株式報酬として、当該取締役に割り当てられる当社の普通株式の総数は年24万株以内、当社普通株式の割当てを受けるために支給される金銭報酬債権は年10億円以内とすることについて決議いただいております。なお、定款で定める取締役の員数は10名以内であり、本有価証券報告書提出日現在は9名（うち社外取締役5名）です。

監査役の報酬については、2006年6月23日開催の第14回定時株主総会において決議いただいた年額40百万円以内の範囲内で、監査役の協議により決定することとしております。なお、定款で定める監査役の員数は3名以内であり、本有価証券報告書提出日現在は3名（うち社外監査役2名）です。

個人別の報酬の決定方法

各取締役の報酬を決定するにあたっては、取締役会の一任を受けた代表取締役である西江肇氏が、会社の業績や各取締役の役割と責任、前年度の業務執行状況や当年度の役割期待等も含めて総合的に勘案し決定しております。取締役会は、会社の業績や各取締役の役割と責任、前年度の業務執行状況や当年度の役割期待等の報酬の決定方針に基づいた評価を行うには代表取締役が最も適していると判断し、代表取締役に一任することについて決議いたしました。

（ご参考）

上記の取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する方針は、2022年4月19日開催の取締役会により改定されたものであり、改定前においては、社外取締役を除く取締役の報酬は、その役割と責任に基づく固定報酬と、前年度の業績や担当業務に関わる成果等を総合的に勘案した業績連動報酬とで構成されるものとしておりました（改定により、業績連動報酬を廃止し、非金銭報酬である譲渡制限付株式報酬を導入することを決定しました）。

当社グループは、営業基盤の拡大による企業価値の継続的拡大を目指していることから営業基盤の指標として営業利益を重視しており、また当社グループが取り組むベンチャー企業等への投資活動に関連して経常利益もあわせて重要な経営指標と位置づけており、上記改定前の方針に基づく業績連動報酬は、これらの指標に加え、営業上の重要な指標である連結売上総利益や各取締役の業務執行状況等も加味したうえで算出されるものとしております。

当事業年度の業績連動報酬の算出に関わる2022年2月期の各指標は、連結営業利益は目標4,800百万円に対して実績が5,248百万円、連結経常利益は目標5,000百万円に対して実績が5,201百万円、また連結売上総利益の実績は29,669百万円でした（連結売上総利益の目標額については公表しておりません）。

役員区分ごとの報酬の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数
当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）における当社の取締役、監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員 の員数(人)
		固定報酬	業績連動報酬	左記のうち、非 金銭報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	269	210	59	-	4
監査役 (社外監査役を除く)	4	4	-	-	1
社外役員	31	31	-	-	7

(注) 1. 取締役の報酬制度については、2022年5月26日開催の第30回定時株主総会において、年額5億円以内と決議されております。

また、金銭報酬とは別枠で、2022年5月26日開催の第30回定時株主総会において、取締役（社外取締役は除く）に対する非金銭報酬である譲渡制限付株式報酬として、当該取締役に割り当てられる当社の普通株式の総数を年24万株以内、当社普通株式の割当てを受けるために支給される金銭報酬債権を年10億円以内とすることと決議されております。

2. 監査役の報酬限度については、2006年6月23日開催の第14回定時株主総会において、年額40百万円以内と決議されております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする場合を純投資目的の投資株式とし、それ以外を純投資目的以外の目的である投資株式としております。

なお、当社は、2022年4月14日開催の取締役会において、投資の事業化を決議し、会計処理についても変更しております。そのため、投資事業における投資を目的として保有する株式については、上記にかかわらず、流動資産の営業投資有価証券として貸借対照表に計上しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2022年3月1日から2023年2月28日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2022年3月1日から2023年2月28日まで)の財務諸表について、東陽監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、会計基準設定主体等の行う研修等へ適宜参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,522	13,372
受取手形及び売掛金	6,090	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	17,484
営業投資有価証券	4,180	4,550
商品及び製品	718	1,427
未成業務支出金	401	547
その他	1,561	2,928
貸倒引当金	156	195
流動資産合計	26,317	30,115
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	812	834
機械装置及び運搬具	7	9
工具器具備品	914	864
リース資産	548	69
建設仮勘定	0	7
減価償却累計額	1,310	947
有形固定資産合計	972	837
無形固定資産		
のれん	354	1,780
ソフトウェア	586	417
その他	136	67
無形固定資産合計	1,077	2,265
投資その他の資産		
投資有価証券	3,183	3,945
繰延税金資産	892	1,228
敷金及び保証金	987	808
その他	374	455
貸倒引当金	230	312
投資その他の資産合計	3,207	3,126
固定資産合計	5,257	6,228
資産合計	31,575	36,343

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,827	2,513
未払金	1,048	2,385
短期借入金	2,335	25,056
1年内返済予定の長期借入金	41,563	41,601
1年内償還予定の社債	186	218
リース債務	63	6
未払法人税等	1,265	940
賞与引当金	649	662
ポイント引当金	183	-
株主優待引当金	110	26
事業整理損失引当金	13	9
契約負債	-	2,182
前受収益	2,422	-
その他	1,152	1,020
流動負債合計	10,820	16,623
固定負債		
長期借入金	43,322	42,802
社債	309	78
リース債務	12	1
繰延税金負債	829	757
退職給付に係る負債	54	36
その他	48	284
固定負債合計	4,576	3,960
負債合計	15,397	20,584
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,880	2,880
資本剰余金	480	-
利益剰余金	7,076	8,173
自己株式	259	259
株主資本合計	10,176	10,793
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,114	1,974
為替換算調整勘定	74	169
その他の包括利益累計額合計	2,189	2,144
新株予約権	4	9
非支配株主持分	3,807	2,812
純資産合計	16,178	15,759
負債純資産合計	31,575	36,343

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年 3月 1日 至 2022年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)
売上高	48,122	1 55,225
売上原価	18,573	20,078
売上総利益	29,549	35,146
販売費及び一般管理費	2, 3 24,420	2, 3 28,870
営業利益	5,128	6,276
営業外収益		
受取利息及び配当金	6	5
持分法による投資利益	38	2
為替差益	-	7
投資事業組合運用益	5	366
その他	174	61
営業外収益合計	225	442
営業外費用		
支払利息	49	40
為替差損	6	-
貸倒引当金繰入額	20	1
投資事業組合運用損	29	41
その他	38	11
営業外費用合計	144	95
経常利益	5,208	6,623
特別利益		
固定資産売却益	4 1	4 0
負ののれん発生益	-	5 15
事業整理損失引当金戻入額	-	2
関係会社株式売却益	41	87
段階取得に係る差益	-	33
新株予約権戻入益	73	1
債務免除益	9	-
特別利益合計	125	141
特別損失		
固定資産売却損	7 0	7 0
固定資産除却損	6 12	6 72
減損損失	8 52	8 793
事業整理損	9 93	9 31
事業整理損失引当金繰入額	13	8
投資有価証券評価損	7	134
持分変動損失	-	0
関係会社株式評価損	3	-
関係会社株式売却損	-	1
関係会社清算損	30	10
業務委託契約解約損	3	-
特別損失合計	216	1,052
税金等調整前当期純利益	5,116	5,712
法人税、住民税及び事業税	2,141	2,159
法人税等調整額	226	38
法人税等合計	1,914	2,121
当期純利益	3,202	3,590
非支配株主に帰属する当期純利益	1,130	418
親会社株主に帰属する当期純利益	2,071	3,172

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
当期純利益	3,202	3,590
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,706	117
為替換算調整勘定	62	85
持分法適用会社に対する持分相当額	26	9
その他の包括利益合計	1,617	22
包括利益	1,584	3,568
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	436	3,127
非支配株主に係る包括利益	1,148	440

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,880	2,806	2,590	259	8,016
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,880	2,806	2,590	259	8,016
当期変動額					
連結子会社株式の取得による持分の増減					-
連結子会社株式の売却による持分の増減		270			270
欠損填補		2,413	2,413		-
剰余金の配当		95			95
自己株式の取得				0	0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		87			87
親会社株主に帰属する当期純利益			2,071		2,071
利益剰余金から資本剰余金への振替					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	2,325	4,485	0	2,159
当期末残高	2,880	480	7,076	259	10,176

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	3,834	9	3,824	73	2,939	14,854
会計方針の変更による累積的影響額						-
会計方針の変更を反映した当期首残高	3,834	9	3,824	73	2,939	14,854
当期変動額						
連結子会社株式の取得による持分の増減						-
連結子会社株式の売却による持分の増減						270
欠損填補						-
剰余金の配当						95
自己株式の取得						0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						87
親会社株主に帰属する当期純利益						2,071
利益剰余金から資本剰余金への振替						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,719	84	1,635	69	868	836
当期変動額合計	1,719	84	1,635	69	868	1,323
当期末残高	2,114	74	2,189	4	3,807	16,178

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,880	480	7,076	259	10,176
会計方針の変更による累積的影響額			28		28
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,880	480	7,104	259	10,205
当期変動額					
連結子会社株式の取得による持分の増減		767			767
連結子会社株式の売却による持分の増減					-
欠損填補					-
剰余金の配当			619		619
自己株式の取得					-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		1,196			1,196
親会社株主に帰属する当期純利益			3,172		3,172
利益剰余金から資本剰余金への振替		1,483	1,483		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	480	1,069	-	588
当期末残高	2,880	-	8,173	259	10,793

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	2,114	74	2,189	4	3,807	16,178
会計方針の変更による累積的影響額						28
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,114	74	2,189	4	3,807	16,206
当期変動額						
連結子会社株式の取得による持分の増減						767
連結子会社株式の売却による持分の増減						-
欠損填補						-
剰余金の配当						619
自己株式の取得						-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						1,196
親会社株主に帰属する当期純利益						3,172
利益剰余金から資本剰余金への振替						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	140	95	45	4	995	1,035
当期変動額合計	140	95	45	4	995	447
当期末残高	1,974	169	2,144	9	2,812	15,759

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年 3月 1日 至 2022年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,116	5,712
減価償却費	566	435
のれん償却額	322	301
長期前払費用償却額	5	6
負ののれん発生益	-	15
その他の償却額	53	105
段階取得に係る差損益(は益)	-	33
持分変動損益(は益)	-	0
減損損失	52	793
固定資産売却損益(は益)	0	0
固定資産除却損	12	72
投資有価証券評価損益(は益)	7	134
投資事業組合運用損益(は益)	23	324
持分法による投資損益(は益)	38	2
関係会社株式売却損益(は益)	41	86
関係会社株式評価損	3	-
関係会社清算損益(は益)	30	10
新株予約権戻入益	73	1
貸倒引当金の増減額(は減少)	37	139
賞与引当金の増減額(は減少)	280	12
株主優待引当金の増減額(は減少)	12	83
ポイント引当金の増減額(は減少)	2	-
事業整理損失引当金の増減額(は減少)	13	3
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	26	11
受取利息及び受取配当金	6	5
支払利息	49	40
売上債権の増減額(は増加)	1,301	-
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	-	925
棚卸資産の増減額(は増加)	129	948
営業投資有価証券の増減額(は増加)	496	545
仕入債務の増減額(は減少)	745	641
預け金の増減額(は増加)	144	982
前払金の増減額(は増加)	44	209
未払金の増減額(は減少)	219	698
契約負債の増減額(は減少)	-	465
前受収益の増減額(は減少)	534	-
その他	213	473
小計	6,816	3,983
利息及び配当金の受取額	4	5
利息の支払額	48	39
法人税等の支払額	1,794	2,491
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,977	1,457

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	0	-
定期預金の払戻による収入	8	-
有形固定資産の取得による支出	591	261
有形固定資産の売却による収入	2	0
無形固定資産の取得による支出	304	246
無形固定資産の売却による収入	2	-
投資有価証券の取得による支出	70	99
出資金の払込による支出	104	78
出資金の回収による収入	37	515
貸付けによる支出	147	34
貸付金の回収による収入	174	247
事業譲受による支出	4 108	4 550
関係会社の整理による収入	270	32
関係会社株式の取得による支出	404	13
敷金及び保証金の差入による支出	305	19
敷金及び保証金の回収による収入	235	102
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	2 978
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2 27	84
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	3 30	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	24
その他	-	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,308	1,288
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	645	4,711
長期借入れによる収入	860	901
長期借入金の返済による支出	848	1,660
社債の償還による支出	198	186
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	67	-
転換社債型新株予約権付社債の償還による支出	-	20
新株予約権の発行による収入	0	5
非支配株主からの払込みによる収入	39	1
自己株式の取得による支出	0	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	34	1,028
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	425	-
子会社の自己株式の取得による支出	299	1,990
子会社の自己株式の処分による収入	259	5
リース債務の返済による支出	206	33
配当金の支払額	95	618
非支配株主への配当金の支払額	-	90
投資事業組合員への分配金の支払額	385	355
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,060	358
現金及び現金同等物に係る換算差額	61	40
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,670	149
現金及び現金同等物の期首残高	10,852	13,522
現金及び現金同等物の期末残高	1 13,522	1 13,372

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 43社

連結子会社の名称は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

当連結会計年度において、株式会社KRİKを設立したため、株式会社キーワードマーケティングの株式を取得したため、それぞれ連結の範囲に含めております。

また、MasterVisions株式会社及び株式会社アミーの株式を追加取得したため、持分法適用関連会社であった株式会社プレミアムコスメ及び株式会社ロングプレスオンラインスタジオの株式を追加取得したため、それぞれ連結の範囲に含めております。

当連結会計年度において、株式会社ジオベックの株式を取得したことにより、同社及びその関係会社であった株式会社BeautySpaceGlobalを連結の範囲に含めましたが、当連結会計年度中に株式会社BeautySpaceGlobalは株式会社ジオベックを吸収合併存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。なお、株式会社ジオベックは、合併後、株式会社クラウドピューティに社名変更しております。

前連結会計年度において連結子会社であったKnitt Communications Corp.、WEMASTERS Inc.、Zukshi Co.,Ltd.及び株式会社サイバーセキュリティバンクの株式を売却したため、Tomorrow's Team Hong Kong Limited、株式会社プラットフォーム、株式会社Colorful Tails及びPT. VECTORを清算したため、それぞれ連結の範囲から除外しております。

また、連結子会社であった株式会社トータルは、同じく当社の連結子会社である株式会社アンティルを吸収合併存続会社とする吸収合併により消滅したため、株式会社ベクトルインベストメントアドバイザーは、当社を吸収合併存続会社とする吸収合併により消滅したため、それぞれ連結の範囲から除外しております。

なお、株式会社ブランドコントロールは株式会社ブランドクラウドに、株式会社Liver Bankは株式会社INFLUENCER BANKにそれぞれ社名変更しております。

(2) 非連結子会社の名称

PR TIMES Inc.

非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社の数 2社

持分法適用関連会社の名称は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

前連結会計年度に持分法適用会社であった株式会社プレミアムコスメ及び株式会社ロングプレスオンラインスタジオは株式を追加取得し連結子会社となったため、持分法適用の範囲から除外しております。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社の状況

PR TIMES Inc.

持分法を適用していない非連結子会社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表又は仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Vector Group International Limited、維酷公共關係諮問(上海)有限公司、Vector Group Ltd.、VECTOR GROUP COMPANY LIMITED、株式会社PacRim Marketing Group、PacRim Marketing Group, Inc.、PRTech, LLC、Vector Marketing PR Malaysia SDN.BHD、明日之團股份有限公司、Tomorrow's Team Singapore Pte.Ltd.、明日之團(上海)人力資源管理有限公司、塔酷(上海)營銷策划有限公司、Vectorcom Inc.の決算日は12月31日であります。連結財務諸表作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結会計年度と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

- (イ)有価証券
関係会社株式
移動平均法による原価法
其他有価証券(営業投資有価証券を含む)
市場価格のない株式等以外のもの
決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法または総平均法により算定)を採用しております。
市場価格のない株式等
移動平均法による原価法
- (ロ)投資事業組合等への出資金
入手可能な直近の決算書に基づき、組合の損益のうち当社の持分相当額を加減する方法を採用しております。
- (ハ)棚卸資産
商品及び製品
移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)
未成業務支出金
個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)
- (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法
- (イ)有形固定資産(リース資産を除く)
当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法は定額法によっております。在外連結子会社は定額法によっております。
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
- | | |
|---------|-------|
| 建物及び構築物 | 5～24年 |
| 工具器具備品 | 2～15年 |
- (ロ)無形固定資産(リース資産を除く)
定額法を採用しております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。
- (ハ)リース資産
所有権移転外ファイナンス・リースに係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3)重要な引当金の計上基準
- (イ)貸倒引当金
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (ロ)賞与引当金
従業員の賞与支出に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
- (ハ)株主優待引当金
株主優待の使用に備えるため、当連結会計年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。
- (4)退職給付に係る会計処理の方法
一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (5)重要な収益及び費用の計上基準
当社グループの顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりであります。
なお、当社グループの取引に関する支払条件は、通常、短期のうちに支払期日が到来し、契約に重要な金融要素は含まれておりません。

(イ)顧客との契約から生じる収益

(a) P R ・ 広告事業

クライアントの商品及びサービス等のP R 支援を行うコンサルティングサービス等の提供義務を負っております。

当該履行義務はサービスの提供が完了された時点で充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

(b) プレスリリース配信事業

顧客商品・サービスに関する情報をプレスリリースとして配信する義務を負っております。

当該履行義務は配信完了の時点で充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

(c) ビデオリリース配信事業

クライアントの「企業」「商品」「サービス」に関するニュースの動画コンテンツ化及びその配信義務を負っております。

当該履行義務は配信完了の時点で充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

(d) ダイレクトマーケティング事業

健康美容関連商品及びサービスを顧客に納品・提供する義務を負っております。

当該履行義務は納品・提供完了時点で充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。なお、一部の子会社においては、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時に収益を認識しております。

(e) メディアCMS事業

メディア構築・運用支援サービスの提供義務等を負っております。

当該履行義務はサービスの提供が完了された時点で充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

(f) HR事業

コンサルティングサービスおよびクラウドサービス等の提供義務を負っております。

当該履行義務はサービスの提供が完了された時点で充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

(ロ)顧客との契約から生じる収益以外の収益

投資事業において、保有する株式については、譲渡時点で収益を計上しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に計上しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果の発現する期間を個別に見積もり、20年以内の合理的な年数で均等償却することとしております。なお、金額に重要性が乏しい場合には、当該のれんが生じた連結会計年度の損益として処理することとしております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引出可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性のあるものは、次の通りです。

営業投資有価証券及び投資有価証券の評価

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
営業投資有価証券(非上場株式)	1,084	1,615
投資有価証券(非上場株式)	43	78
売上原価(営業投資有価証券評価損)	795	621
投資有価証券評価損	7	134

(注)「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)(投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法)に記載のとおり、当連結会計年度における会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の数値を記載しております。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

市場価格のない営業投資有価証券及び投資有価証券については、取得時の投資先企業の将来の成長による超過収益力を反映した取得価額をもって計上しておりますが、投資先企業の事業が計画通りに進捗せず取得時の超過収益力が毀損し、実質価額が著しく下落している場合には減損処理を実施しております。

減損処理を実施していない営業投資有価証券及び投資有価証券については、投資先の予算と実績の乖離状況、業績の推移、事業計画の進捗状況、直近のファイナンス状況等から、投資先の事業計画が合理的であるという仮定に基づき、取得時の超過収益力を反映した実質価額に著しい下落はないと判断しております。

見積りに用いた投資先の事業計画の不確実性は高く、実質価額が著しく低下した場合には減損処理が必要となり、翌連結会計年度の連結財務諸表に影響を及ぼす可能性があります。

のれんの評価

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
のれん	354	1,780
減損損失	8	345

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

企業結合により取得したのれんは、被取得企業の今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力として、取得原価と被取得企業の識別可能資産及び負債の企業結合日時点の時価との差額で計上し、その効果の及ぶ期間にわたって、定額法により定期的に償却しております。

のれんの評価においては被取得企業の事業計画が合理的であるという仮定に基づき、将来の超過収益力を見積っており、のれんの減損の兆候の把握においては、取得時の事業計画における主要な指標である売上高、営業利益と実績との比較に基づき超過収益力の毀損の有無を検討しております。

当該会計上の見積り及び判断に用いた仮定については当連結会計年度末現在において入手可能な情報に基づいており、将来事業計画の見直しが必要となる事象が発生した場合には、翌連結会計年度の連結財務諸表におけるのれんの評価に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これによる主な変更点として、従来は顧客から受け取る対価の総額で売上高を認識しておりましたが、当社グループが代理人に該当する取引については売上高を受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で認識する方法に変更いたしました。また一部のPR・広告サービスについて、検収完了月に収益を認識しておりましたが、一定の期間にわたり履行義務が充足されると判断される取引については、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更いたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当連結会計年度の売上高は4,022百万円減少し、売上原価は4,018百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ3百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は28百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当連結会計年度より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。また、「流動負債」に表示していた「ポイント引当金」、「前受収益」及び「その他」に含めておりました「前受金」は、当連結会計年度より「契約負債」として表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

なお、当該会計方針の変更による影響は軽微であります。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うこととしました。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日)第7-4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載しておりません。

(投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法)

当社は、2022年4月14日開催の取締役会において、投資の事業化を決議いたしました。

当社グループは、インベストメントベンチャー事業として、ベンチャー企業等に対して、資本面での支援に加えて、PRおよびIRもあわせたサポートを提供することで、総合的な企業成長の支援をしてまいりました。しかし、当社グループがインベストメントベンチャー事業として投資活動を開始した当時における戦略PRサービスを中核とする当社グループの事業ポートフォリオにおいては、これら投資にかかわる取り組みは、当社グループの本業外の活動と位置付けて運営してまいりました。一方、広告業界のFAST COMPANYを目指す中で、投資も「いいモノを世の中に広める」当社グループの重要な事業分野と位置付け、人員増強などにより体制を強化し、当連結会計年度より投資を主たる事業とし、会計処理についても変更しております。

この変更に伴い、投資事業に係る損益について、従来、売却損益、受取配当金、取引手数料、評価損を営業外損益とする方法によっておりましたが、売却額、受取配当金を売上高、売却した有価証券の簿価、取引手数料、評価損を売上原価に計上する方法に変更いたしました。また、投資事業に属さない連結子会社については、従来、売却損益、評価損を営業外損益とする方法によっておりましたが、特別損益に計上する方法に変更いたしました。なお、連結貸借対照表上、従来、固定資産の投資有価証券に計上しておりましたが、投資事業の有価証券は流動資産の営業投資有価証券として表示されております。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の連結財務諸表となっております。この結果、遡及適用を行う前と比べて、前連結会計年度の売上高が771百万円増加、売上原価が891百万円増加、営業外収益が642百万円減少、営業外費用が770百万円減少及び特別損失が7百万円増加し、売上総利益及び営業利益が120百万円減少しておりますが、税金等調整前当期純利益への影響はありません。また、前連結会計年度末の固定資産の投資有価証券が4,076百万円減少し、流動資産の営業投資有価証券が同額増加しております。さらに、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書は、営業活動によるキャッシュ・フローが305百万円増加し、投資活動によるキャッシュ・フロー同額減少しております。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「流動負債」の「その他」に含めていた「未払金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他」に表示していた2,200百万円は、「未払金」1,048百万円、「その他」1,152百万円として組み替えております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の収束時期を予想することは困難であります。当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を一定程度受けつつも企業のマーケティング需要を取り込み、当連結会計年度の影響は軽微なものとなっております。

翌連結会計年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は軽微なものとして仮定し、投資有価証券の評価や固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性について会計上の見積りを行っております。

(連結貸借対照表関係)

1 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権及び契約資産の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (2023年2月28日)
受取手形	46百万円
電子記録債権	372
売掛金	6,939
契約資産	126

2 当社グループにおいては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行15行と当座貸越契約を締結しております。

連結会計年度末における当座貸越契約にかかる借入未実行残高は次のとおりとなります。

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
当座貸越極度額及びコミットメントライン契約の総額	7,872百万円	14,094百万円
借入実行残高	280	4,938
差引額	7,592	9,155

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
投資有価証券(株式)	321百万円	263百万円

4 財務制限条項

- (1)当社は、取引銀行4行とのシンジケーション方式の借入契約(前連結会計年度末借入残高 1,966百万円、当連結会計年度末借入残高 1,442百万円)について、以下の財務制限条項が付されております。
- (イ)各年度の決算期の末日における借入人の連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、2018年2月に終了した決算期の期末日における借入人の連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%の金額以上に維持すること。
- (ロ)各年度の決算期における借入人の連結損益計算書の営業損益に関して、損失を計上しないこと。
- (ハ)各年度の決算期における連結貸借対照表に記載される有利子負債の合計金額を、連結損益計算書における営業利益並びに連結キャッシュ・フロー計算書における減価償却費、のれん償却額及び長期前払費用償却額の合計額で除した割合が5倍以下かつ正の値であること。
- (2)当社子会社の株式会社あしたのチームは取引銀行1行と締結した金銭消費貸借契約(前連結会計年度末借入残高 275百万円、当連結会計年度末借入残高 215百万円)について、以下の財務制限条項が付されております。
- (イ)各年度の決算期の末日における損益計算書に示される経常損益について、以下の数値以上に維持すること。
2022年2月期：166百万円、2023年2月期：297百万円

なお、当連結会計年度末において、財務制限条項には抵触しておりません。

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(セグメント情報等)3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報」に記載しております。

2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
研究開発費	21百万円	126百万円

3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
役員報酬	1,185百万円	1,243百万円
給与手当	5,942	6,344
広告宣伝費	6,116	7,879
支払手数料	3,845	5,269
賞与引当金繰入額	680	720
株主優待引当金繰入額	103	28
貸倒引当金繰入額	13	180
退職給付費用	58	45

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
工具器具備品	1百万円	0百万円
計	1	0

5 負ののれん発生益

前連結会計年度(自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

負ののれんの発生益は株式会社Direct Techが持分法適用会社であった株式会社プレミアムコスメの株式を追加取得したことにより発生したものであります。

6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
建物及び構築物	9百万円	- 百万円
工具器具備品	0	10
リース資産	0	0
ソフトウェア	1	62
計	12	72

7 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
工具器具備品	0百万円	0百万円
計	0	0

8 減損損失

前連結会計年度(自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)

(1) 資産のグルーピングの方法

当社グループは事業用資産については、サービスごとに一つのグルーピングとしております。

(2) 減損損失を認識した資産及びその金額

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
事業用資産 (PR・広告事業)	東京都港区	建物及び構築物	0
		工具器具備品	1
		ソフトウェア	27
		のれん	1
事業用資産 (プレスリリース配信事業)	東京都港区	ソフトウェア	11
事業用資産 (ビデオリリース配信事業)	東京都港区	ソフトウェア	3
事業用資産 (メディアCMS事業)	東京都港区	のれん	7
		無形固定資産(その他)	0

(3) 減損損失の認識に至った経緯

事業用資産のうちソフトウェアについては、PR・広告事業及びビデオリリース配信事業において一部のシステムサービス提供の終了を決定したことにより当初予定していた収益が見込めなくなったため、また、プレスリリース配信事業において一部事業の業績が当初計画を下回る状況が継続しているため減損損失を特別損失に計上しております。また、建物及び構築物、工具器具備品、のれん及び商標権については、当該資産を使用する事業における今後の収益の見通しが当初の収益見込みを大きく下回ることとなったため減損損失を特別損失に計上しております。

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、資産グループごとに使用価値又は正味売却可能価額により測定しております。PR・広告事業、プレスリリース配信事業、ビデオリリース配信事業、及びメディアCMS事業における事業用資産の回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、回収可能性が認められないためゼロとして評価しております。

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

(1) 資産のグルーピングの方法

当社グループは事業用資産については、サービスごとに一つのグルーピングとしております。

(2) 減損損失を認識した資産及びその金額

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
事業用資産 (PR・広告事業)	東京都港区	建物及び構築物	18
		工具器具備品	31
		ソフトウェア	116
		のれん	345
事業用資産 (ダイレクトマーケティング事業)	東京都港区	ソフトウェア	39
事業用資産 (ビデオリリース配信事業)	東京都港区	建物及び構築物	43
		工具器具備品	28
		ソフトウェア	169
		無形固定資産(その他)	0

(3) 減損損失の認識に至った経緯

事業用資産のうちソフトウェアについては、PR・広告事業において当該資産を使用する事業における今後の収益の見通しが当初の収益見込みを大きく下回ることとなったこと、さらに一部事業撤退及び廃棄を決定したため、ダイレクトマーケティング事業においてライブコマース事業の業績が当初計画を下回る状況が継続していたため、ビデオリリース配信事業において今後の収益の見通しが当初の収益見込みを大きく下回ることとなったため減損損失を特別損失に計上しております。また、建物及び構築物、工具器具備品、のれん及び特許権については、当該資産を使用する事業における今後の収益の見通しが当初の収益見込みを大きく下回ることとなったため減損損失を特別損失に計上しております。

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、資産グループごとに使用価値又は正味売却可能価額により測定しております。PR・広告事業、ダイレクトマーケティング事業及びビデオリリース配信事業における事業用資産の回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、回収可能性が認められないためゼロとして評価しております。

9 事業整理損

前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

当社の連結子会社である株式会社あしたのチームにおける不採算拠点閉鎖に伴う費用及び人員の整理に係る退職金等の費用47百万円、並びに当社の連結子会社である株式会社ニューテクノロジーにおけるD00H事業からの撤退に伴う費用45百万円であります。

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

当社の連結子会社である株式会社ニューテクノロジーにおけるCOVER事業からの撤退に伴う費用31百万円であります。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	1,611百万円	580百万円
組替調整額	879	757
税効果調整前	2,491	177
税効果額	784	59
その他有価証券評価差額金	1,706	117
為替換算調整勘定：		
当期発生額	55	97
組替調整額	1	10
税効果調整前	56	87
税効果額	5	2
為替換算調整勘定	62	85
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	26	9
その他の包括利益合計	1,617	22

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	47,936,100	-	-	47,936,100
合計	47,936,100	-	-	47,936,100
自己株式				
普通株式(注)	262,013	48	-	262,061
合計	262,013	48	-	262,061

(注) 自己株式の株式数の増加48株は、すべて単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
連結子会社 (株)PR TIMES)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)NewsTV)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)ブランドクラ ウド)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)あしたのチー ム)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)アンティル)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)プラチナム)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)イニシャル)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)シグナル)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)VECKS)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)IR Robotics)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)ニューステク ノロジー)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)スマートメ ディア)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)Direct Tech)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-

区 分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
連結子会社 (Vectorcom Inc.)	第1回無担保転換社債 型新株予約権付社債 (注)1, 2, 3	普通株式	-	29,166	-	29,166	4
	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
合計		-	-	-	-	-	4

(注)1. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。

2. 転換社債型新株予約権付社債については、区分法によっております。

3. 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の当連結会計年度の増加は、転換社債型新株予約権付社債の発行によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月27日 定時株主総会	普通株式	95	2	2021年2月28日	2021年5月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年5月26日 定時株主総会	普通株式	619	利益剰余金	13	2022年2月28日	2022年5月27日

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式 普通株式	47,936,100	-	-	47,936,100
合 計	47,936,100	-	-	47,936,100
自己株式 普通株式	262,061	-	-	262,061
合 計	262,061	-	-	262,061

2. 新株予約権等に関する事項

区 分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （百万円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
連結子会社 (株)PR TIMES)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)NewsTV)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)ブランドクラ ウド)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)あしたのチー ム)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)アンティル)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)ブラチナム)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)イニシャル)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)シグナル)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)VECKS)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	0
連結子会社 (株)ニューステク ノロジー)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)スマートメ ディア)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)Direct Tech)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)IR Robotics)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-
連結子会社 (株)ビタブリッド ジャパン)	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	5
連結子会社 (Vectorcom Inc.)	第1回無担保転換社債 型新株予約権付社債 (注)1, 2, 3	普通株式	29,166	-	8,334	20,832	3
	ストック・オプション としての新株予約権	普通株式	-	-	-	-	-

区 分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
合計		-	-	-	-	-	9

(注) 1. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。

2. 転換社債型新株予約権付社債については、区分法によっております。

3. 当連結会計年度減少は、社債の期中償還によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年5月26日 定時株主総会	普通株式	619	13	2022年2月28日	2022年5月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年5月30日 定時株主総会	普通株式	905	利益剰余金	19	2023年2月28日	2023年5月31日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
現金及び預金勘定	13,522百万円	13,372百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	0	-
現金及び現金同等物	13,522	13,372

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳
前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)

株式の取得により新たに持分法適用関連会社でありました株式会社サイバーセキュリティバンクを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにサイバーセキュリティバンク株式の取得価額と取得のための収入(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	86百万円
固定資産	-
のれん	2
流動負債	76
固定負債	15
支配獲得までの持分法評価額	2
株式の取得価額	0
現金及び現金同等物	27
差引：取得による収入	27

当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

株式の取得により新たに株式会社ジオベック及びその関係会社であった株式会社BeautySpaceGlobalを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにジオベック株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	24百万円
固定資産	108
のれん	119
流動負債	52
固定負債	110
株式の取得価額	90
現金及び現金同等物	2
差引：取得による支出	87

株式の取得により新たにMasterVisions株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにMasterVisions株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	69百万円
固定資産	1
のれん	250
流動負債	122
固定負債	41
段階取得による差益	2
株式の取得価額	154
現金及び現金同等物	40
差引：取得による支出	113

株式の取得により新たに株式会社アミーを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにアミー株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	49百万円
固定資産	8
のれん	236
流動負債	4
非支配株主持分	6
段階取得による差益	30
株式の取得価額	251
転換社債型新株予約権付社債の転換による株式の取得価額	30
現金及び現金同等物	35
差引：取得による支出	186

株式の取得により新たに株式会社キーワードマーケティングを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにキーワードマーケティング株式の取得価額と取得による支出（純額）との関係は次のとおりであります。

流動資産	807百万円
固定資産	44
のれん	702
流動負債	377
固定負債	77
株式の取得価額	1,100
現金及び現金同等物	508
差引：取得による支出	591

3 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳
前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

株式の売却によりPriv Tech株式会社が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びにPriv Tech株式の売却価額と売却による支出（純額）との関係は次のとおりであります。

流動資産	36百万円
固定資産	0
流動負債	7
固定負債	70
株式売却益	41
株式の売却価額	0
現金及び現金同等物	30
差引：売却による支出	30

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）
記載すべき重要な事項はありません。

4 事業の譲受により増加した資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

連結子会社の株式会社ニューステクノロジーが事業譲受により98百万円を支出しております。

連結子会社の株式会社スマートメディアが事業譲受により10百万円を支出しております。

当該事業の譲受により増加した資産及び負債の主な内訳は重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

当社は、株式会社ターミナルが提供するデジタル広告事業を譲り受けました。当該事業の譲受により増加した資産及び負債の主な内訳は次の通りです。

固定資産	336百万円
のれん	763
事業の譲受価額	1,100
譲受価額に含まれる未払金	330
譲受価額に含まれる長期未払金	220
差引：事業譲受による支出	550

（リース取引関係）

（借主側）

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として工具器具備品であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループでは、事業運営の基盤となる運転資金の資金調達については自己資金による充当を基本としておりますが、事業規模の変動等に伴い短期的な運転資金が必要となる場合には銀行借入により調達しております。新規事業計画及びこれに付帯する設備等投資計画に基づく中長期の資金需要が生じた場合は、主に銀行借入や社債発行により必要資金を調達しております。

なお、デリバティブ取引等の投機的な取引については、外貨建の営業取引等に対するリスク回避等の明確な目的が無い限り行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、売掛金及び契約資産は、顧客の信用リスクに晒されております。

営業投資有価証券は、主に株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に株式、債券及び組合出資金等であり、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

借入金、安定的運転資金の確保を目的とした資金調達であり、金利の変動リスクに晒されております。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

当社は、取引先管理規程に従い、得意先ごとの財務状況を個別把握し、与信枠設定及び債権残高管理を実施するとともに、得意先の定期的なモニタリングを実施し、得意先の財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても同様の管理を行っております。

市場リスクの管理

当社は、投資管理規程に従い、営業投資有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、経済合理性が認められる限りにおいて固定金利による資金調達を行っております。

資金調達に係る流動性リスクの管理

当社は、手元流動性の維持を目的として当社経営管理本部においてグループ全体の年次予算を基礎に予実分析を行うとともに、手元資金の残高推移を月次ベースで定期検証し、取締役会への報告を行うことで、流動性リスクを管理しております。連結子会社についても同様の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
なお、連結財務諸表「注記事項（会計方針の変更）（投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法）」に記載のとおり、当連結会計年度における会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の数値を記載しております。

前連結会計年度（2022年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 営業投資有価証券	3,095	3,095	-
(2) 投資有価証券	178	178	-
資産計	3,274	3,274	-
(1) リース債務 (1年以内に返済予定のものを含む)	75	75	0
(2) 社債 (1年以内に償還予定のものを含む)	495	498	2
(3) 長期借入金 (1年以内に返済予定のものを含む)	4,886	4,885	0
負債計	5,457	5,460	2

- 1 「現金及び預金」、「受取手形及び売掛金」、「買掛金」、「未払金」及び「短期借入金」については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
- 2 以下の金融商品は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象に含めておりません。なお、営業投資有価証券の非上場株式について795百万円、投資有価証券の非上場株式について7百万円の評価損を計上しております。

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度 (2022年2月28日)
営業投資有価証券	
非上場株式	1,084
投資有価証券	
非上場株式	365
出資金	638

当連結会計年度（2023年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 営業投資有価証券	2,934	2,934	-
(2) 投資有価証券	73	73	-
資産計	3,007	3,007	-
(1) リース債務 (1年以内に返済予定のものを含む)	8	8	0
(2) 社債 (1年以内に償還予定のものを含む)	296	296	-
(3) 長期借入金 (1年以内に返済予定のものを含む)	4,403	4,378	25
負債計	4,708	4,682	25

- 「現金及び預金」、「受取手形、売掛金及び契約資産」、「買掛金」、「未払金」及び「短期借入金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
- 市場価格のない株式等及び組合出資金は、「(1) 営業投資有価証券」及び「(2) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区 分	当連結会計年度 (2023年2月28日)
市場価格のない営業投資有価証券	1,615
市場価格のない投資有価証券	78
市場価格のない関係会社株式	263
組合出資金	530

市場価格のない営業投資有価証券、投資有価証券及び関係会社株式は、非上場株式であります。これは「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。なお、当連結会計年度において、市場価格のない営業投資有価証券について621百万円、市場価格のない投資有価証券について64百万円の評価損を計上しております。

また、組合出資金は、匿名組合、投資事業組合等に対する出資であります。これらは「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日）第27項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(注) 1. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(2022年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	13,522	-	-	-
受取手形及び売掛金	6,090	-	-	-
投資有価証券 其他有価証券のうち 満期があるもの (1)社債	-	100	-	-
合計	19,613	100	-	-

当連結会計年度(2023年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	13,372	-	-	-
受取手形、売掛金及び契 約資産	7,484	-	-	-
合計	20,857	-	-	-

(注) 2. 長期借入金、社債、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(2022年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	335	-	-	-	-	-
リース債務	63	11	0	0	0	-
長期借入金	1,563	1,394	675	712	127	412
社債	186	166	146	-	-	-
合計	2,148	1,571	822	712	127	412

当連結会計年度(2023年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	5,056	-	-	-	-	-
リース債務	6	1	0	0	-	-
長期借入金	1,601	863	898	293	401	346
社債	218	78	-	-	-	-
合計	6,882	942	898	293	401	346

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

- レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2023年2月28日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
営業投資有価証券及び投資有価証券				
その他の有価証券				
株式	3,007	-	-	3,007
債券	-	0	-	0
資産計	3,007	0	-	3,007

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当連結会計年度（2023年2月28日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
リース債務	-	8	-	8
社債	-	296	-	296
長期借入金	-	4,378	-	4,378
負債計	-	4,682	-	4,682

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

営業投資有価証券及び投資有価証券

上場株式については、原則として取引所の価格によっております。上場株式は活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

社債等については、取引所価格がないため、その将来キャッシュ・フローを残存期間に対応する国債の利回りに信用リスクを加味したレートで割り引いた現在価値により時価を算定しており、レベル2の時価に分類しております。

リース債務

リース債務の時価は、元利金の合計額を、同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

社債

社債の時価は、元利金の合計額を、同様の社債による資金調達を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2022年2月28日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	3,174	98	3,076
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	3,174	98	3,076
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	100	100	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	100	100	-
合計		3,274	198	3,076

非上場株式(連結貸借対照表計上額は営業投資有価証券1,084百万円、投資有価証券43百万円)及び出資金(連結貸借対照表計上額638百万円)については、時価を把握することが困難なため、上表に含めておりません。

なお、連結財務諸表「注記事項(会計方針の変更)(投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法)」に記載のとおり、当連結会計年度における会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の数値を記載しております。

当連結会計年度（2023年2月28日）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	3,007	137	2,870
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	3,007	137	2,870
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	0	0	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	0	0	-
合計		3,007	137	2,870

非上場株式（連結貸借対照表計上額は営業投資有価証券1,615百万円、投資有価証券78百万円）については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、また、組合出資金（連結貸借対照表計上額530百万円）については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日）第27項に基づき、時価開示の対象としていないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自2021年3月1日 至2022年2月28日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1)株式	1,211	1,069	23
合計	1,211	1,069	23

当連結会計年度（自2022年3月1日 至2023年2月28日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1)株式	1,599	1,488	-
合計	1,599	1,488	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自2021年3月1日 至2022年2月28日）

当連結会計年度において、営業投資有価証券について795百万円、投資有価証券について7百万円（その他有価証券の時価のない株式7百万円）の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、時価のある有価証券については、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合に、回復可能性がある場合を除き減損処理を行っております。また、時価のない有価証券については期末の実質価額が取得原価に比べて50%以上下落した場合に回復可能性がある場合を除き減損処理を行っております。

また、連結財務諸表「注記事項（会計方針の変更）（投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法）」に記載のとおり、当連結会計年度における会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の数値を記載しております。

当連結会計年度（自2022年3月1日 至2023年2月28日）

当連結会計年度において、営業投資有価証券について621百万円、投資有価証券について134百万円（その他有価証券の市場価格のない株式64百万円）の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合に、回復可能性がある場合を除き減損処理を行っております。また、市場価格のない株式等の有価証券については期末の実質価額が取得原価に比べて50%以上下落した場合に回復可能性がある場合を除き減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

一部の連結子会社は、確定給付型の退職給付制度を設けており、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しています。

一部の連結子会社は、確定拠出型の制度として従業員選択制による企業型確定拠出年金制度を採用しております。

一部の連結子会社は、複数事業主制度の企業年金基金制度（ベネフィット・ワン企業年金基金）に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することが出来ないため、年金基金への拠出額を退職給付費用として会計処理しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
退職給付に係る負債の期首残高	27百万円	54百万円
退職給付費用	33	19
退職給付の支払額	6	31
連結除外による減少	-	9
その他	0	4
退職給付に係る負債の期末残高	54	36

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(2022年2月28日)	(2023年2月28日)
非積立型制度の退職給付債務	54百万円	36百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	54	36
退職給付に係る負債	54	36
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	54	36

3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）6百万円、当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）7百万円であります。

4. 複数事業主制度

複数事業主制度の企業年金基金制度への要拠出額は、当連結会計年度22百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(2021年6月30日)	(2022年6月30日)
年金資産の額	62,838百万円	77,272百万円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	61,220	75,263
差引額	1,617	2,008

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 0.14% (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)

当連結会計年度 0.11% (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額的主要因は、別途積立金（前連結会計年度1,189百万円、当連結会計年度1,617百万円）及び当年度剰余金（前連結会計年度428百万円、当連結会計年度390百万円）であります。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しておりません。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
新株予約権戻入益	-	1

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会 社	連結子会社 (株)PR TIMES)	連結子会社 (株)PR TIMES)	連結子会社 (株)NewsTV)
内 容	第5回 新株予約権	第6回 新株予約権	第1回 新株予約権
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 1名	受託者：コエタル信託(株) (注)3	同社取締役 2名 同社従業員 1名 親会社従業員 1名
株式の種類別の スtock・オプション数 (注)1	普通株式 39,000株	普通株式 96,000株	普通株式 350,000株 (注)4、5
付与日	2021年4月30日	2021年4月30日	2016年9月21日
権利確定条件	権利行使時において、同社の取締役の地位にあること。(注)2	権利行使時において、同社若しくは同社関係会社の取締役、監査役、従業員または顧問の地位にあり、かつ、同社または同社関係会社に対する勤続年数が5年以上であることを要する。(注)2	権利行使時において、同社若しくは同社関係会社の取締役、従業員の何れの地位にあることおよび、当該株式が日本国内の金融商品取引所に上場されていること。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2027年6月1日 至 2033年4月30日	自 2027年6月1日 至 2033年4月30日	自 2018年9月21日 至 2026年9月21日

会 社	連結子会社 (株NewsTV)	連結子会社 (株NewsTV)	連結子会社 (株ブランドクラウド)
内 容	第3回 新株予約権	第4回 新株予約権	第1回 新株予約権
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 3名 同社監査役 3名 同社従業員 27名	同社従業員 2名	同社取締役 3名 社外協力者 1名
株式の種類別の ストック・オプション数 (注)1	普通株式 293,000株 (注)5	普通株式 7,000株 (注)5	普通株式 200株
付与日	2018年2月23日	2018年5月22日	2020年5月21日
権利確定条件	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあることおよび、当該株式が日本国内の金融商品取引所に上場されていること。	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあることおよび、当該株式が日本国内の金融商品取引所に上場されていること。	権利行使時において、同社もしくは同社子会社の取締役または従業員の何れの地位にあること。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2020年2月23日 至 2028年2月23日	自 2020年5月22日 至 2028年5月22日	自 2022年5月22日 至 2030年5月21日

会 社	連結子会社 (株あしたのチーム)	連結子会社 (株あしたのチーム)	連結子会社 (株アンティル)
内 容	第4回 新株予約権	第5回 新株予約権	第1回 有償新株予約権
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 3名 同社従業員 1名	同社取締役 1名	同社取締役 2名
株式の種類別の ストック・オプション数 (注)1	普通株式 18,000株 (注)6	普通株式 24,000株	普通株式 6株
付与日	2020年5月29日	2022年5月31日	2020年7月31日
権利確定条件	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役または従業員の何れの地位にあること。当該株式が上場されていること。	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役の地位にあること。当該株式が上場されていること。	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあること。(注)7
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません	対象勤務期間の定めはありません	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2022年5月30日 至 2030年5月24日	自 2024年6月1日 至 2032年5月23日	自 2024年9月1日 至 2026年2月28日

会 社	連結子会社 (株)プラチナム)	連結子会社 (株)イニシャル)	連結子会社 (株)シグナル)
内 容	第 1 回 有償新株予約権	第 1 回 有償新株予約権	第 1 回 有償新株予約権
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 1 名 同社従業員 14名	同社従業員 4 名	同社取締役 2 名
株式の種類別の ストック・オプション数 (注) 1	普通株式 6 株	普通株式 12株	普通株式 18株
付与日	2020年 7 月31日	2020年 7 月31日	2020年 7 月31日
権利確定条件	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあること。(注) 8	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあること。(注) 9	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあること。(注) 10
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2024年 9 月 1 日 至 2026年 2 月28日	自 2024年 9 月 1 日 至 2026年 2 月28日	自 2024年 9 月 1 日 至 2026年 2 月28日

会 社	連結子会社 (株)VECKS)	連結子会社 (株)ニューステクノロジー)	連結子会社 (株)スマートメディア)
内 容	第 1 回 有償新株予約権	第 1 回 新株予約権	第 1 回 新株予約権
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 2 名	同社取締役 2 名	同社取締役 2 名
株式の種類別の ストック・オプション数 (注) 1	普通株式 12株	普通株式 12株	普通株式 15株
付与日	2020年 7 月31日	2020年 9 月25日	2020年 9 月25日
権利確定条件	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあること。(注) 11	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあることおよび、当該株式が日本国内の金融商品取引所に上場されていること。	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあることおよび、当該株式が日本国内の金融商品取引所に上場されていること。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2024年 9 月 1 日 至 2026年 2 月28日	自 2022年 9 月25日 至 2030年 9 月23日	自 2022年 9 月25日 至 2030年 9 月23日

会 社	連結子会社 (株Direct Tech)	連結子会社 (株IR Robotics)	連結子会社 (Vectorcom Inc.)
内 容	第 1 回 新株予約権	第 1 回 新株予約権	第 1 回 新株予約権
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 2 名 同社従業員 2 名	同社取締役 3 名 同社従業員 4 名	同社取締役 2 名 同社従業員 6 名
株式の種類別の ストック・オプション数 (注) 1	普通株式 138株	普通株式 7,555,550株	普通株式 16,469株
付与日	2020年10月 5 日	2021年 5 月27日	2021年 2 月26日
権利確定条件	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあることおよび、当該株式が日本国内の金融商品取引所に上場されていること。	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあることおよび、当該株式が日本国内の金融商品取引所に上場されていること。	権利行使時において、同社が韓国の金融商品取引所に上場されていること。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2022年10月 5 日 至 2030年10月 1 日	自 2023年 5 月28日 至 2031年 5 月26日	自 2023年 2 月25日 至 2024年 2 月24日

会 社	連結子会社 (株)ピタブリッドジャパン
内 容	第 1 回 有償新株予約権
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 1 名
株式の種類別の ストック・オプション数 (注) 1	普通株式 137株
付与日	2022年 9 月30日
権利確定条件	権利行使時において、同社もしくは同社関係会社の取締役、監査役または従業員の何れの地位にあることおよび、当該株式が日本国内の金融商品取引所に上場されていること。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2022年 9 月30日 至 2032年 9 月30日

(注) 1 . 株式数に換算して記載しております。

- 2 . 新株予約権者は、2025年 2 月期から2027年 2 月期のいずれかの事業年度において、同社の有価証券報告書に記載された連結損益計算書における営業利益の額が次の各号に掲げる条件のいずれかを満たしている場合に、当該各号に掲げる割合を限度として本新株予約権を行使することができる。なお、営業利益の判定において、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社取締役会にて定めるものとする。また、行使可能割合の計算において、新株予約権者の行使可能な本新株予約権の数に 1 個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
 - (a) 2,800百万円を超過した場合：割り当てられた本新株予約権のうち50%
 - (b) 3,150百万円を超過した場合：割り当てられた本新株予約権のうち75%
 - (c) 3,500百万円を超過した場合：割り当てられた本新株予約権のうち100%
- 3 . 本新株予約権は、コエタル信託株式会社を受託者とする信託に割り当てられ、信託期間満了日時点の同社役員等のうち受益者として指定された者に交付されます。
- 4 . (株)NewsTVは2018年 1 月10日付株式分割（1 株につき1,000株の割合）による調整後の株式数に換算して記載しております。
- 5 . (株)NewsTVは2018年 8 月 7 日付株式分割（1株につき10株の割合）による調整後の株式数に換算して記載しております。
- 6 . (株)あしたのチームは2021年 8 月12日付株式分割（1株につき100株の割合）による調整後の株式数に換算して記載しております。
- 7 . 新株予約権者は、2023年 2 月期または2024年 2 月期のいずれかの事業年度において同社の営業利益が758百万円を超過した場合、本新株予約権を行使することができる。なお、営業利益の判定においては、同社の損益計算書（連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書）における営業利益を参照するものとする。また、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社株主総会（同社が取締役会設置会社となっている場合には、取締役会）にて定めるものとする。
- 8 . 新株予約権者は、2023年 2 月期または2024年 2 月期のいずれかの事業年度において同社の営業利益が713百万円を超過した場合、本新株予約権を行使することができる。なお、営業利益の判定においては、同社の損益計算書（連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書）における営業利益を参照するものとする。また、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社株主総会（同社が取締役会設置会社となっている場合には、取締役会）にて定めるものとする。
- 9 . 新株予約権者は、2023年 2 月期または2024年 2 月期のいずれかの事業年度において同社の営業利益が696百万円を超過した場合、本新株予約権を行使することができる。なお、営業利益の判定においては、同社

の損益計算書（連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書）における営業利益を参照するものとする。また、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社株主総会（同社が取締役会設置会社となっている場合には、取締役会）にて定めるものとする。

10. 新株予約権者は、2023年2月期または2024年2月期のいずれかの事業年度において同社の営業利益が75百万円を超過した場合、本新株予約権を行使することができる。なお、営業利益の判定においては、同社の損益計算書（連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書）における営業利益を参照するものとする。また、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社株主総会（同社が取締役会設置会社となっている場合には、取締役会）にて定めるものとする。
11. 新株予約権者は、2023年2月期または2024年2月期のいずれかの事業年度において同社の営業利益が63百万円を超過した場合、本新株予約権を行使することができる。なお、営業利益の判定においては、同社の損益計算書（連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書）における営業利益を参照するものとする。また、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社株主総会（同社が取締役会設置会社となっている場合には、取締役会）にて定めるものとする。

(2)ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	連結子会社 (株)PR TIMES)	連結子会社 (株)PR TIMES)	連結子会社 (株)NewsTV)	連結子会社 (株)NewsTV)
	第5回 新株予約権	第6回 新株予約権	第1回 新株予約権 (注)1、2	第3回 新株予約権 (注)2
権利確定前 (株)				
前連結会計年度末	39,000	96,000	260,000	230,000
付与	-	-	-	-
失効	-	-	-	8,000
権利確定	-	-	-	-
未確定残	39,000	96,000	260,000	222,000
権利確定後 (株)				
前連結会計年度末	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	-
失効	-	-	-	-
未行使残	-	-	-	-

	連結子会社 (株)NewsTV)	連結子会社 (株)ブランドクラウド)	連結子会社 (株)あしたのチーム)	連結子会社 (株)あしたのチーム)
	第4回 新株予約権 (注)2	第1回 新株予約権	第4回 新株予約権 (注)3	第5回 新株予約権
権利確定前 (株)				
前連結会計年度末	7,000	200	14,000	-
付与	-	-	-	24,000
失効	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-
未確定残	7,000	200	14,000	24,000
権利確定後 (株)				
前連結会計年度末	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	-
失効	-	-	-	-
未行使残	-	-	-	-

	連結子会社 (株)アンティル)	連結子会社 (株)プラチナム)	連結子会社 (株)イニシャル)	連結子会社 (株)シグナル)
	第1回 有償新株予約権	第1回 有償新株予約権	第1回 有償新株予約権	第1回 有償新株予約権
権利確定前 (株)				
前連結会計年度末	6	5.2	12	18
付与	-	-	-	-
失効	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-
未確定残	6	5.2	12	18
権利確定後 (株)				
前連結会計年度末	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	-
失効	-	-	-	-
未行使残	-	-	-	-

	連結子会社 (株)VECKS)	連結子会社 (株)ニューステクノロジー)	連結子会社 (株)スマートメディア)	連結子会社 (株)Direct Tech)
	第1回 有償新株予約権	第1回 新株予約権	第1回 新株予約権	第1回 新株予約権
権利確定前 (株)				
前連結会計年度末	12	12	15	138
付与	-	-	-	-
失効	-	5	-	-
権利確定	-	-	-	-
未確定残	12	7	15	138
権利確定後 (株)				
前連結会計年度末	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	-
失効	-	-	-	-
未行使残	-	-	-	-

	連結子会社 (株)IR Robotics)	連結子会社 (Vectorcom Inc.)	連結子会社 (株)ピタブリッドジャ パン)
	第1回 新株予約権	第1回 新株予約権	第1回 有償新株予約権
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	7,505,550	16,469	-
付与	-	-	137
失効	-	400	-
権利確定	-	-	-
未確定残	7,505,550	16,069	137
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	-	-	-
権利確定	-	-	-
権利行使	-	-	-
失効	-	-	-
未行使残	-	-	-

(注) 1. (株)NewsTVは2018年1月10日付株式分割(1株につき1,000株の割合)による調整後の株式数に換算して記載しております。

2. (株)NewsTVは2018年8月7日付株式分割(1株につき10株の割合)による調整後の株式数に換算して記載しております。

3. (株)あしたのチームは2021年8月12日付株式分割(1株につき100株の割合)による調整後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	連結子会社 (株PR TIMES)	連結子会社 (株PR TIMES)	連結子会社 (株NewsTV)	連結子会社 (株NewsTV)
	第5回 新株予約権	第6回 新株予約権	第1回 新株予約権 (注)1、2	第3回 新株予約権 (注)2
権利行使価格 (円)	3,750	3,750	70	200
行使時平均株価 (円)	-	-	-	-
公正な評価単価 (付与日) (円)	1,914	1,914	-	-

	連結子会社 (株NewsTV)	連結子会社 (株ブランドクラウド)	連結子会社 (株あしたのチーム)	連結子会社 (株あしたのチーム)
	第4回 新株予約権 (注)2	第1回 新株予約権	第4回 新株予約権 (注)3	第5回 新株予約権
権利行使価格 (円)	200	400,000	7,500	7,500
行使時平均株価 (円)	-	-	-	-
公正な評価単価 (付与日) (円)	-	-	-	-

	連結子会社 (株アンティル)	連結子会社 (株プラチナム)	連結子会社 (株イニシャル)	連結子会社 (株シグナル)
	第1回 有償新株予約権	第1回 有償新株予約権	第1回 有償新株予約権	第1回 有償新株予約権
権利行使価格 (円)	17,000,000	18,800,000	8,500,000	290,000
行使時平均株価 (円)	-	-	-	-
公正な評価単価 (付与日) (円)	-	-	-	-

	連結子会社 (株VECKS)	連結子会社 (株ニューステクノロジー)	連結子会社 (株スマートメディア)	連結子会社 (株Direct Tech)
	第1回 有償新株予約権	第1回 新株予約権	第1回 新株予約権	第1回 新株予約権
権利行使価格 (円)	200,000	3,700,000	1,412,000	200,000
行使時平均株価 (円)	-	-	-	-
公正な評価単価 (付与日) (円)	-	-	-	-

	連結子会社 (株IR Robotics)	連結子会社 (株ピタブリッドジャパン)
	第1回 新株予約権	第1回 有償新株予約権
権利行使価格 (円)	16	1,990,000
行使時平均株価 (円)	-	-
公正な評価単価 (付与日) (円)	-	-

		連結子会社 (Vectorcom Inc.)
		第1回 新株予約権
権利行使価格	(KRW)	24,000
行使時平均株価	(KRW)	-
公正な評価単価 (付与日)	(KRW)	-

- (注) 1. (株)NewsTVは2018年1月10日付株式分割(1株につき1,000株の割合)による調整後の価格に換算して記載しております。
2. (株)NewsTVは2018年8月7日付株式分割(1株につき10株の割合)による調整後の価格に換算して記載しております。
3. (株)あしたのチームは2021年8月12日付株式分割(1株につき100株の割合)による調整後の価格に換算して記載しております。

4. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

連結子会社の(株)ピタブリッドジャパン及び(株)あしたのチームのストック・オプションについては、同社がその付与时において未公開企業であるため、本源的価値の見積りによっております。単位当たりの本源的価値の算定基礎となる自社の株式の評価方法は、収益還元法及び類似会社比較法により算出した価格を総合的に勘案して算定した価格を用いております。なお、算定した株式の評価額が権利行使価格以下となるため、付与時点の単位当たりの本源的価値は主としてゼロとなり、ストック・オプションの公正な評価単価も主としてゼロと算定しております。

5. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(追加情報)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱いの適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 2018年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

(1) 権利確定条件付き有償新株予約権の内容

会社	連結子会社 (株)PR TIMES)
内容	第4回 新株予約権
付与対象者の区分及び人数	受託者：税理士法人トラ スト(注)2
株式の種類別の ストック・オプション数	普通株式 576,000株 (注)1
付与日	2017年4月1日
権利確定条件	権利行使時において、同 社若しくは同社関係会社 の取締役、監査役、従業 員または顧問の地位に あり、かつ、同社または同 社関係会社に対する勤続 年数が5年以上であるこ とを要する。(注)3
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはあ りません。
権利行使期間	自 2021年6月1日 至 2027年3月31日

(注) 1. (株)PR TIMESは2018年3月1日付株式分割(1株につき2株の割合)及び2020年8月5日付株式分割(1株につき2株の割合)による調整後の株式数に換算して記載しております。

2. 本新株予約権は、税理士法人トラストを受託者とする信託に割り当てられ、信託期間満了日(2021年5月31日)の到来に伴って、当社役員等に交付されております。

同社取締役1名
同社社外取締役1名
同社従業員82名
同社顧問1名

3. 受益者は、2020年2月期乃至2021年2月期の有価証券報告書に記載される(連結)損益計算書において、営業利益が次の各号に掲げる条件のいずれかを満たしている場合に、受益者が交付を受けた本新株予約権のうち当該各号に掲げる割合を限度として本新株予約権を行使することができる。なお、営業利益の判定において、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社取締役会にて定めるものとする。また、行使可能割合の計算において、各受益者の行使可能な本新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。

- (a) 700百万円を超過した場合：受益者が交付を受けた本新株予約権のうち70%
- (b) 800百万円を超過した場合：受益者が交付を受けた本新株予約権のうち80%
- (c) 900百万円を超過した場合：受益者が交付を受けた本新株予約権のうち90%
- (d) 1,000百万円を超過した場合：受益者が交付を受けた本新株予約権のうち100%

(2)権利確定条件付き有償新株予約権の規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	連結子会社 (株)PR TIMES)
	第4回 新株予約権 (注)1
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	265,600
権利確定	-
権利行使	5,600
失効	34,000
未行使残	226,000

(注)1 . (株)PR TIMESは2018年3月1日付株式分割(1株につき2株の割合)及び2020年8月5日付株式分割(1株につき2株の割合)による調整後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	連結子会社 (株)PR TIMES)
	第4回 新株予約権 (注)1
権利行使価格 (円)	578
行使時平均株価 (円)	2,191
公正な評価単価 (付与日) (円)	-

(注)1 . (株)PR TIMESは2018年3月1日付株式分割(1株につき2株の割合)及び2020年8月5日付株式分割(1株につき2株の割合)による調整後の価格に換算して記載しております。

2. 採用している会計処理の概要

新株予約権を発行したときは、その発行に伴う払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上しております。新株予約権が行使され、新株を発行するときは、当該新株予約権の発行に伴う払込金額と新株予約権の行使に伴う払込金額を、資本金および資本準備金に振り替えます。

なお、新株予約権が失効したときは、当該失効に対応する額を失効が確定した会計期間の利益として処理しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
繰延税金資産		
未払事業税	110百万円	81百万円
未払事業所税	5	6
未払費用	99	117
税務上の繰越欠損金(注)2	1,414	1,847
貸倒引当金	123	149
賞与引当金	215	217
ポイント引当金	63	-
株主優待引当金	33	3
営業投資有価証券評価損(注)4	1,066	1,214
投資有価証券評価損(注)4	18	59
出資金評価損	65	34
減価償却超過額	50	153
減損損失	113	126
資産除去債務	67	100
資産調整勘定	-	326
その他	213	200
繰延税金資産小計	3,660	4,637
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	1,328	1,707
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	1,344	1,574
評価性引当額小計(注)1	2,672	3,281
繰延税金資産合計	988	1,356
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	924	864
その他	1	20
繰延税金負債合計	925	884
繰延税金資産負債の純額	62	471

(注)1. 評価性引当額が609百万円増加しております。この増加の主な内容は、連結子会社において繰越欠損金に係る評価性引当額が379百万円、当社グループにおける営業投資有価証券評価損に係る評価性引当額が172百万円の増加によるものであります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2022年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金(1)	0	-	7	31	13	1,361	1,414
評価性引当額	-	-	7	31	13	1,275	1,328
繰延税金資産	0	-	-	-	-	85	86

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(2) 税務上の繰越欠損金1,414百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産86百万円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度（2023年2月28日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越 欠損金(1)	-	16	66	52	78	1,632	1,847
評価性引当額	-	16	66	52	78	1,491	1,707
繰延税金資産	-	-	-	-	-	140	140

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(2) 税務上の繰越欠損金1,847百万円（法定実効税率を乗じた額）について、繰延税金資産140百万円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

3. 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額及び繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
固定資産 - 繰延税金資産	892百万円	1,228百万円
固定負債 - 繰延税金負債	829	757

4. 「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更) (投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法)に記載のとおり、当連結会計年度における会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の数値を記載しております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.1	1.4
税額控除	0.6	1.2
住民税均等割	0.3	0.2
修正申告による影響	1.1	0.0
連結子会社税率差異	0.2	0.9
のれん償却額	1.3	1.2
のれん減損額	0.0	1.9
評価性引当額	3.7	2.0
連結調整項目	1.1	0.7
その他	0.2	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.4	37.1

(表示方法の変更)

前連結会計年度において「その他」に含めておりました「税額控除」及び「のれん減損額」は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。また、前連結会計年度において独立掲記しておりました「税率変更による影響」は重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の注記の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度において「その他」に表示していた0.8%、「税率変更による影響」に表示していた0.0%は、「税額控除」0.6%、「のれん減損額」を0.0%、「その他」0.2%として組替えて表示しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(株式会社ジオベックの連結子会社化)

当社は、2022年7月29日付で株式会社ジオベックの株式を取得し、同社及びその関係会社である株式会社BeautySpaceGlobalを連結子会社化いたしました。

なお、2022年10月1日付で株式会社ジオベックを吸収合併存続会社、株式会社BeautySpaceGlobalを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行い、2022年11月1日付で株式会社ジオベックは株式会社クラウドビューティに社名変更しております。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称

株式会社ジオベック及びその関係会社1社(株式会社BeautySpaceGlobal)

事業内容

PR・広告事業

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社ジオベックが店舗DXの運営で得たノウハウと当社グループの様々なサービスとの連携が見込めること、また同社に対して当社グループが幅広いマーケティングサービスを提供することにより、同社サービスの成長を加速させるとともに経営支援を行うことで新たな段階の成長を実現し、それによって当社グループとしての価値向上を目指すためであります。

(3) 企業結合日

2022年7月29日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

2022年11月1日付で株式会社クラウドビューティに社名変更しております。

(6) 取得した議決権比率

89.9%

なお、2022年10月1日付で株式会社ジオベックと株式会社BeautySpaceGlobalが合併したことにより、合併後の議決権比率は55.0%となっております。

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2022年7月30日から2023年2月28日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	92百万円
取得原価		92百万円

4. 主要な取得関連費用の内訳及び金額

アドバイザー費用等 2百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

119百万円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

6年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	24百万円
固定資産	108

資産合計	133
流動負債	52
固定負債	110
負債合計	163

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(MasterVisions株式会社の連結子会社化)

当社は、2022年11月18日及び2022年12月26日にMasterVisions株式会社の株式を追加取得し、同社を連結子会社化いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称

MasterVisions株式会社

事業内容

360度カメラを使用した自由視点映像の生成・配信プラットフォーム事業

(2) 企業結合を行った主な理由

MasterVisions株式会社は、視聴者がスマートフォンなどで360度視聴可能な自由視点映像の生成・配信サービスを展開しており、価格や実用性において高い競争力を有し、エンタメやスポーツなどの分野で活用されております。

同社の自由視点映像の生成・配信サービスと当社グループが提供するライブコマース等のサービスとの連携が見込めること、また同社に対して当社グループが幅広いマーケティングサービスを提供することにより、同社サービスの成長を加速させるとともに経営支援を行うことで新たな段階の成長を実現し、それによって当社グループとしての価値向上を目指してまいります。

(3) 企業結合日

2022年11月18日 支配獲得（みなし取得日：2022年11月30日）

2022年12月26日 追加取得

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 2.2%

支配獲得日に取得した議決権比率 54.6%

支配獲得後に追加取得した議決権比率 2.6%

取得後の議決権比率 59.5%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2022年12月1日から2023年2月28日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合の直前に保有していた株式の企業結合時における時価	2百万円
支配獲得時に支出した現金	154百万円
支配獲得後の追加取得に伴い支出した現金	7百万円
取得原価	163百万円

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 2百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

250百万円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	69百万円
固定資産	1
資産合計	70

流動負債	122
固定負債	41
負債合計	163

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法
当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(株式会社アミーの連結子会社化)

当社は、2022年11月21日付で株式会社アミーの株式を追加取得するとともに、2022年11月30日付で当社が保有する同社発行の転換社債型新株予約権付社債を株式に転換し、同社を連結子会社化いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称

株式会社アミー

事業内容

フランチャイズマッチングプラットフォーム事業

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社アミーは、フランチャイザー（FC事業者）とフライチャイジー（加盟検討者）をつなぐマッチングプラットフォーム「フランチャイズハジメルくん」を提供しており、マッチングサービスだけでなく、フランチャイズの立ち上げから運営まで支援を行っております。
同社が保有するプラットフォーム運営やコンサルティングに関するノウハウと当社グループの様々なサービスとの連携が見込めること、また同社に対して当社グループが幅広いマーケティングサービスを提供することにより、同社サービスの成長を加速させるとともに経営支援を行うことで新たな段階の成長を実現し、それによって当社グループとしての価値向上を目指してまいります。

(3) 企業結合日

2022年11月21日（みなし取得日：2022年11月30日）

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得及び転換社債型新株予約権付社債の株式への転換

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率	11.1%
企業結合日に追加取得した議決権比率	76.1%
取得後の議決権比率	87.2%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したこと及び当社が保有していた転換社債型新株予約権付社債を株式へ転換したためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2022年12月1日から2023年2月28日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合の直前に保有していた株式の企業結合時における時価	30百万円
転換社債型新株予約権付社債の株式への転換	30百万円
追加取得に伴い支出した現金	221百万円
取得原価	282百万円

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 30百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

236百万円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

8年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	49百万円
固定資産	8
資産合計	58

流動負債	4
負債合計	4

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法
当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(株式会社キーワードマーケティングの連結子会社化)

当社は、2022年12月26日に株式会社キーワードマーケティングの株式を取得し、同社を連結子会社化したしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称

株式会社キーワードマーケティング

事業内容

運用型広告の運用代行、検索エンジンマーケティングの研究及び教育事業

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社キーワードマーケティングは、検索連動型広告・SNS広告・ディスプレイ広告などあらゆるメディアに対応した広告運用代理事業を展開しており、短期的なコンバージョン数やCPAの改善だけでなく、中長期的なマーケティング戦略の実行支援を得意としております。また、幅広い業種における累計300社以上の顧客支援実績を有し、顧客各社のニーズに応じたデジタルマーケティング支援を行うことにより、年間継続率は90%超を誇ります。

同社を子会社化することにより、認知拡大のためのPRと顧客獲得のためのデジタルマーケティングを組み合わせることで、顧客の「いいモノを世の中に広める」ためのマーケティング効果の最大化を図り、クライアントの事業成長に貢献する基盤を強化してまいります。

(3) 企業結合日

2022年12月26日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2022年12月27日から2023年2月28日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,100百万円
取得原価		1,100百万円

4. 主要な取得関連費用の内訳及び金額

アドバイザー費用等 73百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

702百万円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

11年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	807百万円
固定資産	44
資産合計	852
流動負債	377
固定負債	77
負債合計	455

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(事業の譲受)

当社は、2022年9月30日付で株式会社ターミナルが提供するデジタル広告事業を譲り受けました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称

株式会社ターミナル

事業内容

デジタル広告事業

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社ターミナルは、Webソリューションを中心としたデジタル広告事業を展開しており、サービスの価格設定から広告戦略に至るまで、顧客の潜在的ニーズをくみ取り広告効果を最大化するためのコンサルティングサービスを提供しております。

同社の事業を譲り受けることにより、当社がこれまで提供してまいりました戦略PRを起点としたデジタルマーケティングサービスの幅が広がるだけでなく、デジタルマーケティングを起点とした戦略PRサービスの提供も可能となるため、これまで以上に効果的なマーケティングサービスを提供できるものと見込んでおります。

(3) 企業結合日

2022年9月30日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする事業譲受

(5) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として事業を譲り受けたためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2022年10月1日から2023年2月28日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	550百万円
	未払金	330百万円
	長期未払金	220百万円
取得原価		1,100百万円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

763百万円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

14年間にわたる均等償却

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

該当事項はありません。

6. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載してありません。

共通支配下の取引等

(子会社株式の追加取得及び連結子会社による自己株式の取得)

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び当該事業の内容

結合当事企業の名称及び当該事業の内容
株式会社ビタブリッドジャパン
事業内容
ダイレクトマーケティング事業

(2) 企業結合日

2022年8月29日(みなし取得日:2022年8月31日)

(3) 企業結合の法的形式

非支配株主からの株式追加取得及び連結子会社による自己株式の取得

(4) 結合後企業の名称

変更はありません。

(5) 取得した議決権比率

企業結合前の議決権比率 50.4%

追加取得後の議決権比率 95.4%

(6) その他取引の概要に関する事項

当該取引は、経営における意思決定の迅速化を図るとともに、グループ資本政策の一環として行ったものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

3. 子会社株式の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	772百万円
取得原価		772百万円

4. 連結子会社による自己株式の取得に係る取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	1,818百万円
取得原価		1,818百万円

5. 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

(1) 資本剰余金の主な変動要因

子会社株式の追加取得及び連結子会社による自己株式の取得

(2) 非支配株主との取引によって減少した資本剰余金の額

1,661百万円

(子会社株式の追加取得)

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び当該事業の内容

結合当事企業の名称及び当該事業の内容

株式会社あしたのチーム

事業内容

人事評価制度に関するコンサルティングサービス及びクラウドシステムの販売

(2) 企業結合日

2022年10月31日

(3) 企業結合の法的形式

非支配株主からの株式追加取得

(4) 結合後企業の名称

変更はありません。

(5) 取得した議決権比率

企業結合前の議決権比率 61.0%

追加取得後の議決権比率 65.3%

(6) その他取引の概要に関する事項

当該取引は、経営における意思決定の迅速化を図るとともに、グループ資本政策の一環として行ったものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

3. 子会社株式の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	232百万円
取得原価		232百万円

4. 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

(1) 資本剰余金の主な変動要因

子会社株式の追加取得

(2) 非支配株主との取引によって減少した資本剰余金の額

232百万円

(資産除去債務関係)

当社グループは本社事務所等の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、連結財務諸表「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は「注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (2023年2月28日)
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	6,066
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	7,358
契約資産(期首残高)	68
契約資産(期末残高)	126
契約負債(期首残高)	2,545
契約負債(期末残高)	2,182

契約資産は、主に進行中の総合PRに対する対価であり、契約負債は、主に、HR事業の人事評価クラウドサービスに関するものであり、契約負債は収益の認識に伴い取崩されます。当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた金額は、2,095百万円であります。

また、当連結会計年度において、契約負債が362百万円減少した理由は、HR事業において契約期間の見直しを実施した結果、長期間の契約に係る契約負債の減少によるものであります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社及び連結子会社では、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の契約について注記の対象に含めておりません。当該履行義務は、HR事業の人事評価クラウドサービスに関するものであり、残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (2023年2月28日)
1年以内	349
1年超2年以内	164
2年超3年以内	65
3年超4年以内	35
4年超5年以内	9
5年超	8
合計	633

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、「PR・広告事業」「プレスリリース配信事業」「ビデオリリース配信事業」「ダイレクトマーケティング事業」「メディアCMS事業」「HR事業」「投資事業」の7つを報告セグメントとしており、各報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

PR・広告事業は、従来からの広報業務に加え、広告・宣伝分野でPRを活用する「戦略PR」を通じ、クライアントの商品及びサービス等のPR支援を行うコンサルティング及びタクシーの車内に設置するタブレットを活用したIoTサイネージサービスによる広告販売を展開しております。これらの業務の大半は、グループ会社を通じてクライアントに対して提供されており、それぞれのグループ会社では、既存メディア、ブログやソーシャルメディアなど得意なメディア領域や、日本国内、中国やASEAN等展開エリアをすみ分けて事業展開をしております。

プレスリリース配信事業は、クライアントからのパブリシティの依頼に基づき、顧客商品・サービスに関する情報をプレスリリースとして配信し、企業と生活者をプレスリリースでつなぐプラットフォーム事業を展開しております。

ビデオリリース配信事業は、クライアントの「企業」「商品」「サービス」に関するニュースを動画コンテンツ化し、インターネットを通じてターゲットに訴求する動画配信事業を展開しております。

ダイレクトマーケティング事業は、インターネットを通じて、健康美容関連商品及びサービスを開発し販売するD2C事業を展開しております。

メディアCMS事業は、クライアントのオウンドメディア構築・運営支援サービス及びCMS事業を展開しております。

HR事業は、企業に対し人事評価制度の導入や運用を支援するコンサルティング及び人事評価クラウドサービスを中心に提供する人事関連事業を展開しております。

投資事業は、ベンチャー企業の成長支援を目的とした投資事業を展開しております。

(会計方針の変更及び名称の変更)

当連結会計年度より、従来「ファンド事業」としていた報告セグメントの名称を「投資事業」に変更しました。これは、これまで本業外の事業(営業外)として運営してきた投資・インベストメントベンチャー事業について、当社グループの重要な事業分野と位置付けたことによるもので、(会計方針の変更)に記載のとおり、当連結会計年度より、同事業に係る収益及び費用等の処理方法に係る会計方針の変更を行っております。

また、当連結会計年度より、事業内容をより適正に表示するため、従来「メディア事業」としていた報告セグメントの名称を「メディアCMS事業」に変更しております。報告セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

(収益認識基準等の適用)

(会計方針の変更)に記載のとおり、当連結会計年度の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益または損失の測定方法を同様に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当連結会計年度の売上高が「PR・広告事業」で3,488百万円、「ビデオリリース配信事業」で6百万円、「ダイレクトマーケティング事業」で414百万円、「メディアCMS事業」で2百万円、「HR事業」で109百万円、それぞれ減少しております。なお、セグメント利益に与える影響は軽微であります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用されている会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							合計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	PR・広告 事業	プレス リリース 配信事業	ビデオ リリース 配信事業	ダイレクト マーケティング 事業	メディア CMS事業	HR事業	投資事業			
売上高										
外部顧客への売上高	25,763	4,695	1,054	12,201	660	2,513	1,233	48,122	-	48,122
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	201	158	306	125	247	0	4	1,045	1,045	-
計	25,965	4,854	1,361	12,326	907	2,513	1,238	49,168	1,045	48,122
セグメント利益 又は損失（ ）	2,125	1,834	72	774	22	236	255	5,131	3	5,128
セグメント資産	15,319	4,816	832	3,993	153	1,487	5,074	31,678	102	31,575
セグメント負債	8,023	1,086	401	1,245	67	3,754	921	15,500	102	15,397
その他の項目										
減価償却費	360	121	68	15	1	-	-	566	-	566
持分法適用会社 への投資額	272	-	-	169	-	-	-	441	-	441
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額 又は減少額 ()	208	223	8	25	4	-	-	27	-	27

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 3百万円は、セグメント間取引消去 3百万円であり、セグメント資産及びセグメント負債の調整額 102百万円は、セグメント間債権債務相殺消去額であります。

2. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							合計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	PR・広告 事業	プレス リリース 配信事業	ビデオ リリース 配信事業	ダイレクト マーケティング 事業	メディア CMS事業	HR事業	投資事業			
売上高										
顧客との契約か ら生じる収益	29,290	5,569	1,089	14,550	754	2,371	-	53,625	-	53,625
その他の収益	-	-	-	-	-	-	1,599	1,599	-	1,599
外部顧客への売 上高	29,290	5,569	1,089	14,550	754	2,371	1,599	55,225	-	55,225
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	227	137	296	141	202	0	1	1,006	1,006	-
計	29,518	5,706	1,385	14,691	956	2,372	1,601	56,231	1,006	55,225
セグメント利益 又は損失（ ）	2,984	1,190	34	984	3	352	775	6,256	19	6,276
セグメント資産	19,643	5,235	699	4,687	209	1,105	4,876	36,457	113	36,343
セグメント負債	12,213	798	557	3,142	107	3,025	852	20,697	113	20,584
その他の項目										
減価償却費	256	86	49	41	1	0	-	435	-	435
持分法適用会社 への投資額	231	13	-	18	-	-	-	263	-	263
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額 又は減少額 ()	1,184	7	221	81	0	0	-	1,051	-	1,051

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額19百万円は、セグメント間取引消去19百万円であり、セグメント資産及びセグメント負債の調整額 113百万円は、セグメント間債権債務相殺消去額であります。

2. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							全社・消去	合計
	PR・広告事業	プレスリリース配信事業	ビデオリリース配信事業	ダイレクトマーケティング事業	メディアCMS事業	HR事業	投資事業		
減損損失	29	11	3	-	8	-	-	-	52

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							全社・消去	合計
	PR・広告事業	プレスリリース配信事業	ビデオリリース配信事業	ダイレクトマーケティング事業	メディアCMS事業	HR事業	投資事業		
減損損失	511	-	242	39	-	-	-	-	793

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							全社・消去	合計
	PR・広告事業	プレスリリース配信事業	ビデオリリース配信事業	ダイレクトマーケティング事業	メディアCMS事業	HR事業	投資事業		
当期償却額	310	-	-	9	1	-	-	-	322
当期末残高	343	-	-	10	-	-	-	-	354

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							全社・消去	合計
	PR・広告事業	プレスリリース配信事業	ビデオリリース配信事業	ダイレクトマーケティング事業	メディアCMS事業	HR事業	投資事業		
当期償却額	298	-	-	3	-	-	-	-	301
当期末残高	1,772	-	-	7	-	-	-	-	1,780

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

当連結会計年度において、株式会社Direct Techが持分法適用関連会社であった株式会社プレミアムコスメの株式を追加取得したことに伴い、負ののれん発生益15百万円を特別利益に計上しております。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント利益には含めておりません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

記載すべき重要な事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の重要な子会社の役員及びその近親者

前連結会計年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末金額（百万円）
連結子会社役員	赤羽 博行	-	-	連結子会社代表取締役	-	債務被保証	銀行借入に対する連帯保証（注）1	491	-	-
連結子会社役員	山口 拓己	-	-	連結子会社代表取締役	-	-	新株予約権の行使（注）2	83	-	-
連結子会社役員	三島 映拓	-	-	連結子会社取締役	-	-	新株予約権の行使（注）2	83	-	-

（注）1．連結子会社の㈱あしたのチームは銀行借入に対して、代表取締役である赤羽博行より連帯保証を受けております。なお、取引金額については被保証残高を記載しております。また、保証料の支払いは行っておりません。

2．連結子会社の㈱PR TIMESにおける2017年3月16日開催の取締役会決議により付与されたストック・オプションとしての新株予約権の当連結会計年度における権利行使を記載しております。なお、取引金額欄は、当連結会計年度における新株予約権の権利行使による払込金額を記載しております。

当連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末金額（百万円）
連結子会社役員	赤羽 博行	-	-	連結子会社代表取締役	-	債務被保証	銀行借入に対する連帯保証（注）1	478	-	-
連結子会社役員	山口 拓己	-	-	連結子会社代表取締役	-	-	自己株式の処分（注）2	15	-	-

（注）1．連結子会社の㈱あしたのチームは銀行借入に対して、代表取締役である赤羽博行より連帯保証を受けております。なお、取引金額については被保証残高を記載しております。また、保証料の支払いは行っておりません。

2．譲渡制限付株式報酬制度に伴う、自己株式の割当によるものであります。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
1株当たり純資産額	259.38円	271.38円
1株当たり当期純利益	43.46円	66.54円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	-円	-円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在するものの、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当連結会計年度 (2023年2月28日)
純資産の部の合計額(百万円)	16,178	15,759
純資産の合計額から控除する金額(百万円)	3,812	2,821
(うち新株予約権(百万円))	4	9
(うち非支配株主持分(百万円))	3,807	2,812
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	12,365	12,938
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	47,674,039	47,674,039

3. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	前連結会計年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,071	3,172
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,071	3,172
普通株式の期中平均株式数(株)	47,674,047	47,674,039
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	-
(うち新株予約権(株))	(-)	(-)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	第5回新株予約権 (新株予約権の数16,750個)	-

(重要な後発事象)

(株式取得による会社等の買収)

当社は、2023年2月15日付で株式譲渡契約を締結し、2023年3月1日付で株式会社トライハッチ(以下「トライハッチ」といいます。)の株式を取得いたしました。

(1) 株式取得の目的

当社グループは、「いいモノを世の中に広め人々を幸せに」という経営理念を掲げ、戦略PRサービスを中核とする事業を展開しこれまで一貫して成長を実現してまいりました。

また、その成長局面においても、市場環境の変化にいち早く対応しながら継続的にサービスの拡充と強化を推し進め、実効性とコスト効率を両立させながら顧客の「いいモノを世の中に広める」ためのマーケティング戦略を総合的にサポートする「FAST COMPANY」として、顧客が必要とするマーケティングサービスを幅広くワンストップで提供する体制の整備を進めてまいりました。

日本の広告市場においては、株式会社電通が2023年2月に発表した「2022年日本の広告費」によると、日本の総広告費は7兆円を突破し、過去最高を更新しました。その中でも、インターネット広告費は3兆円となり、2兆円を超えた2019年からわずか3年で約1兆円増加し、広告市場全体をけん引しました。

当社においても、市場環境の変化に対応するべく、デジタルマーケティングのサービス強化を目的としてM&Aを含むグループ基盤の強化に取り組んでおります。

トライハッチは、MEO管理・分析ツールなどのSaaSを開発しており、それらで蓄積した大量のデータを活用しながら、店舗を持った顧客のマーケティング課題に合わせたコンサルティング、SNSを用いた集客支援やデジタルマーケティングなどを得意としております。

トライハッチを子会社化することにより、認知拡大のためのPRとSNS運用支援やデジタルマーケティングを組み合わせることで、顧客の「いいモノを世の中に広める」ためのマーケティング効果の最大化を図り、クライアントの事業成長に貢献する基盤を強化してまいります。

(2) 買収する相手会社の名称、事業の内容、規模

被取得企業の名称：株式会社トライハッチ

事業の内容：SNS運用支援事業・SaaS事業・デジタルマーケティング事業

資本金：50百万円

(3) 株式取得の時期

2023年3月1日

(4) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

取得する株式の数：308株

取得価額：株式会社トライハッチのA種優先株式 350百万円

取得後の持分比率：70%

(連結子会社の株式取得による会社等の買収)

当社の連結子会社である株式会社PR TIMES(以下「PR TIMES」といいます。)は、2023年3月28日開催の取締役会において、株式会社グルコース(以下「グルコース」といいます。)の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2023年3月31日付で全株式を取得いたしました。

(1) 株式取得の目的

PR TIMESは「行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ」をミッションに掲げ、「行動者」のポジティブな情報がニュースの中心となり、個人を勇気づけ前向きにする社会の実現に挑んでおります。

今回、グルコースが当社グループに加わることによって、「PR TIMES」及び「BRIDGE」の顧客基盤とネットワーク、グルコースのプロトタイプ構築・サービス開発力を掛け合わせ、新規プロダクト受託開発事業を開始し、「行動者」の想いをカタチにして、プロダクト開発からPRまで一気通貫で支援していきたいと考えております。また、PR TIMESが外部委託している開発をグループ内開発に切り替えることで、目的意識が揃いやすく開発実装のスピードとクオリティーが向上し、事業成長に寄与できることを期待しております。さらに、当社とグルコースで双方向の出向を制度化し、エンジニアの志向性の変化による離職を防ぐとともに、イノベーションの機会を生み、採用力向上につなげたいと考え、株式譲渡契約の締結に至りました。

(2) 買収する相手会社の名称、事業の内容、規模

被取得企業の名称：株式会社グルコース

事業の内容：IoT機器やAI(ディープラーニング)を組み込んだシステム、サービスの開発から、メディア・EC等まで、幅広いアプリケーション・ウェブサービスの開発

資本金：12百万円

(3) 株式取得の時期

2023年3月31日

(4) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

取得する株式の数：1,200株

取得価額：株式会社グルコースの普通株式 238百万円

取得後の持分：100%

(新株予約権の発行)

1. 第7回新株予約権(有償ストック・オプション)の発行

当社の連結子会社である株式会社PR TIMESは、2023年5月25日開催の取締役会において、会社法第236条、第238条及び第240条の規定に基づき、同社代表取締役に対し、下記のとおり新株予約権を発行することを決議いたしました。

新株予約権の割当日	2023年6月12日
新株予約権の数	460個
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	46,000株
新株予約権の発行総額	414,000円(1個当たり900円)
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1,426円
新株予約権の行使期間	自 2026年6月1日 至 2031年5月31日
新株予約権の行使により新株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1,426円 資本組入額 713円
新株予約権の行使の条件	(注)
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには、取締役会の承認を要するものとする。
新株予約権の割当対象者及び割当個数	当社代表取締役 460個

(注) 新株予約権の行使の条件に関する事項は次のとおりであります。

(1) 新株予約権者の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、2026年2月期における同社の有価証券報告書に記載された連結損益計算書の営業利益の額が2,500百万円を超過している場合に限り、本新株予約権を行使することができる。

なお、営業利益の判定において、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社取締役会にて定めるものとする。

(2) 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、同社の取締役の地位にあることを要する。ただし、正当な理由があると同社取締役会が認めた場合は、この限りではない。

(3) 新株予約権者が死亡した場合、その相続人は本新株予約権を行使することができない。

(4) 本新株予約権の行使によって、同社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

(5) 各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

2. 第8回新株予約権の発行

当社の連結子会社である株式会社PR TIMESは、2023年5月25日開催の取締役会において、会社法第236条、第238条及び第240条の規定に基づき、時価発行新株予約権信託の受託者であるコタエル信託株式会社に対し、下記のとおり新株予約権を発行することを決議いたしました。

新株予約権の割当日	2023年6月12日
新株予約権の数	1,130個
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	113,000株
新株予約権の発行総額	1,017,000円(1個当たり900円)
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1,426円
新株予約権の行使期間	自 2026年6月1日 至 2031年5月31日
新株予約権の行使により新株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1,426円 資本組入額 713円
新株予約権の行使の条件	(注1)
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには、取締役会の承認を要するものとする。
新株予約権の割当対象者及び割当個数	受託者コタエル信託株式会社 1,130個(注2)

(注)1. 新株予約権の行使の条件に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権者の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、2026年2月期における、同社の有価証券報告書に記載された連結損益計算書の営業利益の額が2,500百万円を超過している場合に限り、本新株予約権を行使することができる。なお、営業利益の判定において、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を同社取締役会にて定めるものとする。
 - (2) 新株予約権者は、本新株予約権の権利行使時において、同社または同社関係会社の取締役、監査役または従業員または顧問の地位にあり、かつ、本新株予約権の行使時点において同社または同社関係会社に対する勤続年数または顧問契約の継続年数が5年以上であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると同社取締役会が認めた場合は、この限りではない。
 - (3) 上記(2)は、新株予約権者が同社と契約関係にある信託会社であって、当該信託会社が信託契約の定めに従い本新株予約権を行使する場合には適用しない。
 - (4) 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。
 - (5) 本新株予約権の行使によって、同社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。
 - (6) 各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。
2. 本新株予約権は、コタエル信託株式会社を受託者とする信託に割り当てられ、信託期間満了日時点の同社役員等のうち受益者として指定された者に交付されます。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期日
㈱あしたのチーム	第1回社債	2018年9月30日	20 (10)	10 (10)	0.3	なし	2023年9月28日
	私募債	2019年5月31日	390 (156)	234 (156)	0.6	なし	2024年5月31日
㈱ピタブリッド ジャパン	第1回社債	2019年7月10日	20 (20)	- (-)	0.3	なし	2022年7月8日
Vectorcom Inc. (注)2	第1回社債	2021年2月26日	65 (-) {675百万 KRW}	52 (52) {497百万 KRW}	2.0	なし	2023年2月25日
合計	-	-	495 (186)	296 (218)	-	-	-

(注)1.()内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 当該社債は外国において発行したものであるため、「当期首残高」及び「当期末残高」欄に外貨建の金額を{付記}しております。
3. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
218	78	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	335	5,056	0.51	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,563	1,601	0.65	-
1年以内に返済予定のリース債務	63	6	3.43	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	3,322	2,802	0.83	2024年～2051年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	12	1	3.77	2024年～2026年
計	5,297	9,468	-	-

(注)1. 平均利率は期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース物件のうち、支払利息を利息法により計上している物件に係るリース債務の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	863	898	293	401
リース債務	1	0	0	-

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	13,132	26,672	41,163	55,225
税金等調整前四半期 (当期) 純利益 (百万円)	1,484	3,423	5,092	5,712
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (百万円)	836	1,918	2,868	3,172
1株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	17.55	40.24	60.17	66.54

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	17.55	22.70	19.93	6.37

決算日後の状況

特記事項はありません。

訴訟

該当事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,024	912
売掛金	2,538	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	2,117
営業投資有価証券	1,406	2,013
商品及び製品	0	-
未成業務支出金	0	13
貯蔵品	0	0
前払費用	124	242
短期貸付金	2,722	2,115
その他	210	214
貸倒引当金	168	177
流動資産合計	3,758	5,489
固定資産		
有形固定資産		
建物	411	411
工具器具備品	265	196
リース資産	75	51
減価償却累計額	426	402
有形固定資産合計	325	257
無形固定資産		
ソフトウェア	199	193
のれん	-	740
その他	14	-
無形固定資産合計	213	934
投資その他の資産		
投資有価証券	592	387
出資金	58	48
関係会社株式	2,794	5,095
長期貸付金	163	163
関係会社長期貸付金	1,696	1,331
敷金及び保証金	370	321
長期前払費用	14	15
破産更生債権等	4	4
繰延税金資産	108	427
その他	14	27
貸倒引当金	849	985
投資その他の資産合計	4,968	6,837
固定資産合計	5,507	8,029
資産合計	9,265	13,518

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2 100	2 387
短期借入金	3, 4 524	3, 4 3,524
リース債務	8	4
未払金	2 125	2 558
未払費用	48	47
未払法人税等	45	315
未払消費税等	22	-
契約負債	-	3
預り金	25	158
債務保証損失引当金	-	156
前受収益	27	-
賞与引当金	29	32
株主優待引当金	101	12
その他	3	7
流動負債合計	1,062	5,208
固定負債		
長期借入金	4 1,442	4 917
リース債務	4	0
長期末払金	1	242
関係会社事業損失引当金	1,382	1,230
債務保証損失引当金	390	78
固定負債合計	3,221	2,469
負債合計	4,283	7,677
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,880	2,880
資本剰余金		
資本準備金	9	9
その他資本剰余金	321	321
資本剰余金合計	330	330
利益剰余金		
利益準備金	-	61
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,798	2,568
利益剰余金合計	1,798	2,630
自己株式	259	259
株主資本合計	4,749	5,581
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	232	259
評価・換算差額等合計	232	259
純資産合計	4,982	5,840
負債純資産合計	9,265	13,518

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
売上高	1 5,927	1 7,588
売上原価	1 2,695	1 3,362
売上総利益	3,231	4,225
販売費及び一般管理費	2 2,999	2 2,887
営業利益	232	1,338
営業外収益		
受取利息	1 58	1 68
受取配当金	1,100	796
投資事業組合運用益	40	376
為替差益	8	4
その他	1 22	1 25
営業外収益合計	1,230	1,270
営業外費用		
支払利息	12	10
貸倒引当金繰入額	386	443
投資事業組合運用損	27	35
投資有価証券評価損	-	69
支払手数料	12	-
その他	-	0
営業外費用合計	438	559
経常利益	1,024	2,048
特別利益		
関係会社事業損失引当金戻入額	655	181
関係会社株式売却益	425	10
抱合せ株式消滅差益	-	21
債務保証損失引当金戻入額	156	156
新株予約権戻入益	73	-
特別利益合計	1,309	369
特別損失		
関係会社株式評価損	52	343
関係会社株式売却損	58	-
関係会社清算損	43	3
関係会社事業損失引当金繰入額	10	29
その他	-	6
特別損失合計	164	381
税引前当期純利益	2,169	2,037
法人税、住民税及び事業税	357	581
法人税等調整額	13	3
法人税等合計	370	585
当期純利益	1,798	1,451

【売上原価明細書】

区 分	注記 番号	前事業年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)		当事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
期首商品棚卸高			0		0
当期商品仕入高			-		-
当期製造原価					
1 労務費		22	1.3	28	1.1
2 外注費		1,724	96.5	2,563	96.2
3 経費	1	39	2.2	71	2.7
当期総製造費用		1,786	100.0	2,663	100.0
期首未成業務支出金		47		0	
合 計		1,834		2,664	
期末未成業務支出金		0	1,833	13	2,650
合 計			1,833		2,650
期末商品棚卸高			0		-
投資事業原価	2	861	861	711	711
当期売上原価			2,695		3,362

原価計算の方法

原価計算の方法は、実際個別原価計算であります。

(注) 1. 主な内訳は次のとおりであります

項 目	前事業年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
調査費(百万円)	29	57
出張費(百万円)	2	5
交通費(百万円)	3	2

(注) 2. 主な内訳は次のとおりであります

項 目	前事業年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
営業投資有価証券売却原価(百万円)	145	87
営業投資有価証券評価損(百万円)	714	622

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）

（単位：百万円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	2,880	-	2,840	2,840	2,413	2,413	259
当期変動額							
資本準備金の積立		9	9	-		-	
欠損填補			2,413	2,413	2,413	2,413	
剰余金の配当			95	95		-	
自己株式の取得				-		-	0
当期純利益				-	1,798	1,798	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				-		-	
当期変動額合計	-	9	2,518	2,509	4,212	4,212	0
当期末残高	2,880	9	321	330	1,798	1,798	259

	株主資本	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	3,046	151	151	73	3,270
当期変動額					
資本準備金の積立	-		-		-
欠損填補	-		-		-
剰余金の配当	95		-		95
自己株式の取得	0		-		0
当期純利益	1,798		-		1,798
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	81	81	73	8
当期変動額合計	1,703	81	81	73	1,711
当期末残高	4,749	232	232	-	4,982

当事業年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

（単位：百万円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,880	9	321	330	-	1,798	1,798
会計方針の変更による累積的影響額				-		-	-
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,880	9	321	330	-	1,798	1,798
当期変動額							
剰余金の配当				-		619	619
利益準備金の積立				-	61	61	-
当期純利益				-		1,451	1,451
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				-			-
当期変動額合計	-	-	-	-	61	770	831
当期末残高	2,880	9	321	330	61	2,568	2,630

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	259	4,749	232	232	4,982
会計方針の変更による累積的影響額		-		-	-
会計方針の変更を反映した当期首残高	259	4,749	232	232	4,982
当期変動額					
剰余金の配当		619		-	619
利益準備金の積立		-		-	-
当期純利益		1,451		-	1,451
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		-	26	26	26
当期変動額合計	-	831	26	26	858
当期末残高	259	5,581	259	259	5,840

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(3) 投資事業組合等への出資金

入手可能な直近の決算書に基づき、組合の損益のうち当社の持分相当額を加減する方法を採用しております。

(4) 棚卸資産

商品及び製品

移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法）

未成業務支出金

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法）

貯蔵品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～18年

工具器具備品 3～18年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(3) 株主優待引当金

株主優待の使用による支出に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

(4) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態を勘案して、損失負担見込額を計上しております。

(5) 債務保証損失引当金

関係会社への債務保証等に係る損失に備えるため、被保証先の財政状態等を個別に勘案し、損失負担見込額を計上しております。

4. 重要な収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりであります。

なお、当社の取引に関する支払条件は、通常、短期のうちに支払期日が到来し、契約に重要な金融要素は含まれておりません。

(1)顧客との契約から生じる収益

(イ)PR・広告事業

クライアントの商品及びサービス等のPR支援を行うコンサルティングサービス等の提供義務を負っております。

当該履行義務はサービスの提供が完了された時点で充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

(ロ)管理業務受託収入

当社グループ各社の管理業務サービスを提供する義務を負っております。

当該履行義務はサービスの提供が完了された時点で充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

(2)顧客との契約から生じる収益以外の収益

投資事業において、保有する株式については、譲渡時点で収益を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1)外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りにより当事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性のあるものは、次の通りです。

営業投資有価証券の評価

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
営業投資有価証券(非上場株式)	1,017	1,579
売上原価(営業投資有価証券評価損)	714	622

(注)「第5 経理の状況 2 財務諸表等(1)財務諸表 注記事項(会計方針の変更)(投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法)」に記載のとおり、当事業年度における会計方針の変更は遡及適用され、前事業年度については遡及適用後の数値を記載しております。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

関係会社株式及び関係会社貸付金並びに関係会社事業損失引当金の評価

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
関係会社株式	2,794	5,095
関係会社株式評価損	52	343
関係会社短期貸付金	624	1,158
関係会社長期貸付金	1,696	1,331
関係会社短期貸付金に対する貸倒引当金	146	156
関係会社長期貸付金に対する貸倒引当金	678	817
貸倒引当金繰入額	389	442
関係会社事業損失引当金	1,382	1,230
関係会社事業損失引当金戻入額	655	181
関係会社事業損失引当金繰入額	10	29
債務保証損失引当金	390	234
債務保証損失引当金戻入額	156	156

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

関係会社株式は市場価格のない株式であるため、財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは回復可能性が十分な証拠により裏付けられる場合を除き、減損処理を実施しております。また、財政状態の悪化により債権及び融資の回収が困難となった関係会社については、当該会社に対する融資について個別に回収可能性を見積り、回収不能見込額を貸倒引当金として計上しております。さらに、関係会社に係る損失に備えるため、関係会社の財政状態及び将来の回復見込み並びに債務保証状況等を個別に勘案し、必要額を見積計上しております。

これらの評価は、各関係会社の財政状態及び経営成績の状況を勘案し設定した重要な仮定にもとづいて作成され、取締役会によって承認された将来の事業計画等を基礎としております。

会計上の見積りに用いた仮定は不確実性を有しており、各関係会社の属する市場環境や競合他社の状況により株式の減損処理及び貸倒引当金、事業損失引当金並びに債務保証損失引当金の計上が必要となり、翌事業年度の財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

のれんの評価

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
のれん	-	740

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これによる主な変更点として、従来は顧客から受け取る対価の総額で売上高を認識しておりましたが、当社が代理人に該当する取引については売上高を受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で認識する方法に変更いたしました。また一部のPR・広告サービスについて、検収完了月に収益を認識しておりましたが、一定の期間にわたり履行義務が充足されると判断される取引については、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更いたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当事業年度の売上高は290百万円減少し、売上原価は290百万円減少しております。なお、当期純利益への影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、当事業年度より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。また、「流動負債」に表示していた「前受収益」は、当事業年度より「契約負債」として表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

なお、当該会計方針の変更による影響は軽微であります。

(投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法)

当社は、2022年4月14日開催の取締役会において、投資の事業化を決議いたしました。

当社は、インベストメントベンチャー事業として、ベンチャー企業等に対して、資本面での支援に加えて、PRおよびIRもあわせたサポートを提供することで、総合的な企業成長の支援をしております。しかし、当社がインベストメントベンチャー事業として投資活動を開始した当時における戦略PRサービスを中核とする当社の事業ポートフォリオにおいては、これら投資にかかわる取り組みは、当社グループの本業外の活動と位置付けて運営してまいりました。一方、広告業界のFAST COMPANYを目指す中で、投資も「いいモノを世の中に広める」当社の重要な事業分野と位置付け、人員増強などにより体制を強化し、当事業年度より投資を主たる事業とし、会計処理についても変更しております。

この変更に伴い、投資事業に係る損益について、従来、売却損益、受取配当金、取引手数料、評価損を営業外損益とする方法によっておりましたが、売却額、受取配当金を売上高、売却した有価証券の簿価、取引手数料、評価損を売上原価に計上する方法に変更いたしました。なお、貸借対照表上、従来、固定資産の投資有価証券に計上しておりましたが、投資事業の有価証券は流動資産の営業投資有価証券として表示されております。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前事業年度については遡及適用後の財務諸表となっております。この結果、遡及適用を行う前と比べて、前事業年度の売上高が771百万円増加、売上原価が861百万円増加、営業外収益が649百万円減少、営業外費用が740百万円減少し、売上総利益及び営業利益が90百万円減少しておりますが、税引前当期純利益への影響はありません。また、前事業年度末の固定資産の投資有価証券が1,406百万円減少し、流動資産の営業投資有価証券が同額増加しております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の収束時期を予想することは困難であります。当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を一定程度受けつつも企業のマーケティング需要を取り込み、当事業年度の影響は軽微なものとなっております。

翌事業年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は軽微なものとして仮定し、投資有価証券の評価や固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性について会計上の見積りを行っております。

(貸借対照表関係)

1 保証債務

次の会社等の金融機関からの借入及び社債に対し債務保証を行っております。

(1)債務保証

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
株式会社あしたのチーム	- 百万円	- 百万円
株式会社Direct Tech	-	50
維酷公共関係諮問(上海)有限公司	30	9
株式会社キーワードマーケティング	-	30
計	30	89

(注)株式会社あしたのチームについては、債務保証額から債務保証損失引当金を控除した金額を記載しています。

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
短期金銭債権	966百万円	1,495百万円
短期金銭債務	69	222

3 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。

当事業年度末における当座貸越契約にかかる借入未実行残高は次のとおりとなります。

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
当座貸越極度額	5,400百万円	10,400百万円
借入実行残高	-	3,000
差引額	5,400	7,400

4 当社は、取引銀行4行とのシンジケーション方式の借入契約(前事業年度末借入残高 1,966百万円、当事業年度末借入残高 1,442百万円)について、以下の財務制限条項が付されております。

(イ)各年度の決算期の末日における借入人の連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、2018年2月に終了した決算期の期末日における借入人の連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%の金額以上に維持すること。

(ロ)各年度の決算期における借入人の連結損益計算書の営業損益に関して、損失を計上しないこと。

(ハ)各年度の決算期における連結貸借対照表に記載される有利子負債の合計金額を、連結損益計算書における営業利益並びに連結キャッシュ・フロー計算書における減価償却費、のれん償却額及び長期前払費用償却額の合計額で除した割合が5倍以下かつ正の値であること。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
営業取引による取引高		
売上高	2,862百万円	3,250百万円
売上原価	1,225	1,368
営業取引以外の取引による取引高	76	86

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年3月1日 至 2022年2月28日)	当事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)
役員報酬	294百万円	305百万円
給料及び手当	614	545
賞与引当金繰入額	29	21
貸倒引当金繰入額	7	4
株主優待引当金繰入額	101	12
支払手数料	959	904
減価償却費	117	125
販売費に属する費用のおおよその割合	33%	33%
一般管理費に属する費用のおおよその割合	67	67

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式
前事業年度(2022年2月28日)

(単位:百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	30	21,970	21,940
関連会社株式	-	-	-
合計	30	21,970	21,940

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額
(単位:百万円)

区分	前事業年度 (2022年2月28日)
子会社株式	2,470
子会社出資金	107
関連会社株式	185
合計	2,763

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

当事業年度(2023年2月28日)

(単位:百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	30	13,654	13,623
関連会社株式	-	-	-
合計	30	13,654	13,623

(注)上記に含まれない市場価格のない株式等の貸借対照表計上額
(単位:百万円)

区分	当事業年度 (2023年2月28日)
子会社株式	4,830
子会社出資金	54
関連会社株式	180
合計	5,064

これらについては、市場価格がない株式等であることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
繰延税金資産		
未払事業税	15百万円	25百万円
未払事業所税	1	1
未払費用	12	20
貸倒引当金	312	356
賞与引当金	8	10
株主優待引当金	30	3
営業投資有価証券評価損(注)	1,055	1,202
投資有価証券評価損(注)	-	21
関係会社株式評価損	1,462	1,579
出資金評価損	65	34
資産除去債務	54	66
債務保証損失引当金	119	71
関係会社事業損失引当金	423	376
資産調整勘定	-	308
商品評価損引当	3	-
その他	0	0
繰延税金資産小計	3,566	4,079
評価性引当額	3,368	3,548
繰延税金資産合計	198	531
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	89	102
その他	0	0
繰延税金負債合計	89	103
繰延税金資産の純額	108	427

(注)「第5 経理の状況 2 財務諸表等(1)財務諸表 注記事項(会計方針の変更)(投資の事業化に伴う収益及び費用等の処理方法)」に記載のとおり、当事業年度における会計方針の変更は遡及適用され、前事業年度については遡及適用後の数値を記載しております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年2月28日)	当事業年度 (2023年2月28日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.7	2.2
受取配当金の益金不算入額	15.5	13.2
のれん償却	-	0.3
抱合せ株式消滅差益	-	0.3
住民税均等割	0.2	0.2
評価性引当額の増減額	1.8	8.9
その他	0.0	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	17.1	28.7

(企業結合等関係)

取得による企業結合

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

共通支配下の取引等

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、財務諸表「注記事項(重要な会計方針)

4.収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

(株式取得による会社等の買収)

当社は、2023年2月15日付で株式譲渡契約を締結し、2023年3月1日付で株式会社トライハッチの株式を取得いたしました。

なお、詳細については、連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形 固定資産	建物	235	-	-	30	204	207
	工具器具備品	76	6	5	29	47	148
	リース資産	13	-	0	8	5	46
	計	325	6	6	68	257	402
無形 固定資産	ソフトウェア	199	54	-	60	193	158
	のれん	-	763	-	22	740	22
	その他	14	-	14	-	-	-
	計	213	817	14	83	934	180

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりです。

のれん	株式会社ターミナルより事業譲受	763百万円
ソフトウェア	事業に供するソフトウェア	54百万円

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区 分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸 倒 引 当 金	1,018	1,162	1,018	1,162
賞 与 引 当 金	29	32	29	32
株 主 優 待 引 当 金	101	12	101	12
関係会社事業損失引当金	1,382	29	181	1,230
債務保証損失引当金	390	-	156	234

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
基準日	2月末日
株券の種類	-
剰余金の配当の基準日	8月31日 2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、官報に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.vectorinc.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注)当社株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができないものと定款で定めております。

- (1)会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2)会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3)株主の有する株式数に応じて、募集株式の割当及び募集新株予約権の割当を受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第30期）（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）
2022年5月27日関東財務局長に提出。

(2)内部統制報告書及びその添付書類

事業年度（第30期）（自 2021年3月1日 至 2022年2月28日）
2022年5月27日関東財務局長に提出。

(3)四半期報告書及び確認書

事業年度（第31期第1四半期）（自 2022年3月1日 至 2022年5月31日）
2022年7月15日関東財務局長に提出。

事業年度（第31期第2四半期）（自 2022年6月1日 至 2022年8月31日）
2022年10月14日関東財務局長に提出。

事業年度（第31期第3四半期）（自 2022年9月1日 至 2022年11月30日）
2023年1月13日関東財務局長に提出。

(4)四半期報告書の訂正報告書及び確認書

（第31期第1四半期）（自 2022年3月1日 至 2022年5月31日）の四半期報告書に係る訂正報告書及びその確認書
2022年8月10日関東財務局長に提出。

(5)臨時報告書

2022年9月22日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第8号（事業の譲受けの決定）に基づく臨時報告書であります。

2022年11月10日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）に基づく臨時報告書であります。

2022年12月15日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第8号の2（子会社取得の決定）に基づく臨時報告書であります。

2023年1月23日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

2023年4月14日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

2023年5月18日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2023年5月31日

株式会社ベクトル

取締役会御中

東陽監査法人

東京事務所

指定社員 公認会計士 辻村茂樹
業務執行社員

指定社員 公認会計士 大山昌一
業務執行社員

指定社員 公認会計士 石川裕樹
業務執行社員

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ベクトルの2022年3月1日から2023年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ベクトル及び連結子会社の2023年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

市場価格のない営業投資有価証券の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社は、連結財務諸表の注記事項（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、当連結会計年度において、連結貸借対照表に市場価格のない営業投資有価証券1,615百万円を計上しており総資産の4.4%を占めている。また当連結会計年度において、連結損益計算書に営業投資有価証券評価損（売上原価）621百万円を計上している。連結財務諸表の注記事項（会計方針の変更）記載のとおり、会社は、当連結会計年度より投資を主たる事業へと変更し、売却額、受取配当金を売上高、売却した有価証券の簿価、取引手数料、評価損を売上原価に計上する方法に変更している。会社は、投資育成及び業務提供を目的として、多数の非上場企業に対して投資先企業の将来の成長による超過収益力を見込んで、一株当たりの純資産額を基礎とした金額に比べて高い価額での投資を行っている。投資先企業の事業が計画どおり進捗せずに投資時の超過収益力が棄損し、実質価額が著しく下落している場合には減損処理が行われるが、多額の減損処理が必要と判断された場合には、連結財務諸表における営業損益に重要な影響を及ぼすこととなる。</p> <p>会社は、市場価格のない営業投資有価証券の評価において、取得時の超過収益力の棄損の有無に関する判断にあたり、期末の一株当たりの純資産額と取得時の一株当たりの純資産額との比較、取得時に見込んだ事業計画の達成状況や評価時点から一定期間内に第三者が行ったファイナンス価格等を総合的に勘案して検討している。</p> <p>投資先企業の将来の業績に関する見通しにおける重要な仮定は、事業計画の合理性であるが、当該重要な仮定は不確実性を伴い経営者による判断を必要とする。</p> <p>以上より、当監査法人は、超過収益力を見込んで投資した営業投資有価証券の評価について、当連結会計年度において特に重要であり、監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、市場価格のない営業投資有価証券の評価を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>関連する内部統制の整備状況及び運用状況の有効性を評価した。</p> <p>市場価格のない営業投資有価証券の実質価額の著しい下落の有無に関する経営者の判断を検討するために、以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社が作成した評価検討資料を査閲し、評価方法及び評価結果について関連部署への質問を実施した。 ・会社が作成した評価検討資料と投資先企業の財務諸表又は試算表等を突合し、評価検討資料の信頼性を検討した。 ・一定の基準に基づき、投資先企業の投資時の事業計画の達成状況について、当該事業計画と投資後の実績を比較し、重要な仮定である事業計画の合理性の内、売上高及び営業利益については、過去実績からの趨勢分析を行った。 ・第三者からのファイナンスを実施した投資先企業については、引受日、引受先及び1株当たりの払込額を、当該増資に関する外部証憑と照合した。

のれんの評価	監査上の対応
<p>監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由</p> <p>会社は、連結財務諸表の注記事項（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、当連結会計年度において、連結貸借対照表に、のれん1,780百万円を計上しており総資産の4.8%を占めている。また、当連結会計年度において連結損益計算書に減損損失793百万円を計上している。これには注記事項「連結損益計算書関係 8」に記載のとおり、のれんについて認識した減損損失345百万円が含まれている。</p> <p>会社は、戦略PRサーブスを中核とする事業を展開しており、近年は市場環境の変化に対応するべく、デジタルマーケティングのサービス強化等を目的として、企業結合を含むグループ基盤の強化に取り組んでいる。</p> <p>（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項） 4.会計方針に関する事項（7）のれんの償却方法及び償却期間に記載されているとおり、企業結合により計上されたのれんは、その効果の及ぶ期間にわたって償却される。</p> <p>会社は、企業結合により発生したのれんについて、取得時に見込んだ超過収益力がその効果の及ぶ期間にわたって発現するかに着目し、取得時の事業計画と取得後の実績を比較することにより、のれんの減損の兆候の有無を把握している。当該事業計画における重要な仮定は、事業計画の合理性であり、特に主要な指標は売上高及び営業利益である。</p> <p>また、減損の兆候が識別された場合、実績の状況を考慮して、減損損失の認識の判定を行い、減損損失を認識すべきであると判定した場合は帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を計上している。</p> <p>企業結合により計上したのれんの評価の判断の基礎となる事業計画における重要な仮定は、その性質上、経営者の判断及び見積りの不確実性を伴うものであることから、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>監査上の対応</p> <p>当監査法人は、企業結合により発生したのれんの評価の妥当性を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>のれんの計上時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取締役会議事録及び契約書等の関連資料を閲覧し、取引の概要を理解した。 ・取得原価の配分及びのれんの金額の測定の基礎となる企業結合日の資産及び負債の金額の妥当性を検証するために、経営者及び担当取締役等に質問を実施するとともに、財務デューデリジェンス結果等の閲覧を実施した。 ・各投資先の事業計画の合理性を評価するために、経営者及び担当取締役等に質問を実施するとともに、事業計画の主要な指標である売上高及び営業利益について、過去実績からの趨勢分析、翌期の受注状況の検証、利用可能な外部情報との比較を行った。 ・会社が利用した外部の専門家の業務について理解するとともに、適性、能力及び客観性を評価した。 ・超過収益力算定の基礎として利用した外部の専門家が作成した財務デューデリジェンスの結果及び株式価値算定報告書等の内容を検討するとともに、当監査法人内の専門家を関与させて、株式価値の算定方法の妥当性を検討した。 <p>期末評価時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社が作成した評価検討資料を査閲し、実質価額の算定基礎となる各社の財務情報について、実施した財務情報の監査手続又はグループレベルでの分析的手続とその結果に基づき、当該財務情報の信頼性を確かめた。 ・減損の兆候の把握が適切に行われていることを確かめるため、取得時ののれんの評価に用いられた事業計画と実績の比較分析を行い、乖離がある場合にはその要因分析を行った。 ・減損の兆候を識別した場合には、減損損失の認識の判定が適切に行われているかを検討するため、事業計画の主要な指標である売上高及び営業利益を含め、将来の事業計画の合理性を検討した。 ・超過収益力の低下が見られるのれんについては、減損処理されていることを確かめた。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ベクトルの2023年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社ベクトルが2023年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。

- 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。

- 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年5月31日

株式会社ベクトル

取締役会御中

東陽監査法人

東京事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 辻村茂樹

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大山昌一

指定社員
業務執行社員 公認会計士 石川裕樹

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ベクトルの2022年3月1日から2023年2月28日までの第31期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ベクトルの2023年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

<p>市場価格のない営業投資有価証券の評価</p> <p>会社は、財務諸表の注記事項（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、当事業年度の貸借対照表において、市場価格のない営業投資有価証券1,579百万円を計上しており、その金額は総資産の11.6%に相当している。また当事業年度において、損益計算書に営業投資有価証券評価損（売上原価）622百万円を計上している。</p> <p>監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由、監査上の対応については、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討（市場価格のない営業投資有価証券の評価）と同一内容であるため、記載を省略している。</p>

<p>のれんの評価</p> <p>会社は、財務諸表の注記事項（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、当事業年度の貸借対照表において、のれん740百万円を計上しており、その金額は総資産の5.4%に相当している。</p> <p>監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由、監査上の対応については、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（のれんの評価）と同一内容であるため、記載を省略している。</p>

関係会社投融資の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社は、財務諸表の注記事項（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、当事業年度の貸借対照表において、関係会社投融資として、関係会社株式5,095百万円、関係会社貸付金（短期及び長期計）2,489百万円及び貸倒引当金973百万円を計上しており、これらの差引合計額6,611百万円は、総資産の48.9%を占めている。また、当事業年度の損益計算書において、関係会社株式評価損343百万円、貸倒引当金繰入額442百万円を計上している。</p> <p>会社は、市場価格のない関係会社株式について、当該関係会社の財政状態の悪化又は超過収益力の減少により実質価額が著しく下落したときは、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて、減損処理を実施している。また、関係会社貸付金の評価については、個別に回収可能性及び資金繰りの見通しを検討し、回収不能見込額を貸倒引当金として計上している。</p> <p>関係会社投融資は、貸借対照表の総資産に占める割合が大きく金額的重要性が高いこと、また、実質価額が著しく下落した場合の回復可能性の判断及び回収不能見込額の算定は、経営者による見積りや判断を伴うことから、不確実性の高い領域である。</p> <p>以上より、当監査法人は、関係会社投融資の評価を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、関係会社株式及び関係会社貸付金の評価について、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>関係会社株式の取得時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取締役会議事録及び契約書等の関連資料を閲覧し、取引の概要を理解した。 ・取得価額の妥当性を検証するために、経営者及び担当取締役に質問を実施するとともに、財務デューデリジェンス結果等の閲覧を実施した。 ・各投資先の事業計画の合理性を評価するために、経営者及び担当取締役に質問を実施するとともに、売上高及び営業利益について、過去実績からの趨勢分析、翌期の受注状況の検証、利用可能な外部情報との比較を行った。 ・会社が利用した外部の専門家の業務について理解するとともに、適性、能力及び客観性を評価した。 ・会社が利用した外部の専門家が作成した財務デューデリジェンスの結果及び株式価値算定報告書等の内容を検討するとともに、当監査法人内の専門家を関与させて、株式価値の算定方法の妥当性を検討した。 <p>期末評価時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係会社投融資の評価にあたり、会社が作成した評価検討資料を査閲し、実質価額の算定基礎となる各社の財務情報について、実施した財務情報の監査手続又はグループレベルでの分析的手続とその結果に基づき、当該財務情報の信頼性を確かめた。 ・関係会社株式について、直近期末の財務情報を用いて算出した実質価額と帳簿価額の比較を行い、著しい下落の有無を把握した。 ・関係会社株式について、事業計画等によりおおむね5年以内の取得原価までの回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除き、実質価額まで減損処理されていることを確かめた。 ・関係会社貸付金に対する貸倒引当金について、実質価額に基づき回収不能見込額が貸倒引当金として計上されているか検討した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業を前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。